ブリ		サバ類								マハゼ										フグ類																						カサゴ類				メゴチ				コチ															
歯骨		前上顎骨		歯骨		角骨		椎骨		前上顎骨		主上顎骨		歯骨		角骨		椎骨		前上顎骨		歯骨		角骨		口蓋骨		方骨		舌顎骨		角舌骨		主鰓蓋骨		擬鎖骨		椎骨		前頭骨	前上顎骨もしくは歯骨破片	歯骨		方骨		前鰓蓋骨		主鰓蓋骨		前上顎骨		主上顎骨		歯骨		角骨		舌顎骨		前鰓蓋骨		基後頭骨	鋤骨	椎骨	
L	R	L	R	L	R	L	R	腹椎	尾椎	L	R	L	R	L	R	L	R	尾椎		L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	腹椎	尾椎			L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R			腹椎	尾椎
								1	1																																																								
									1	1												1																																											1
																						1																																											
																																																			1				1									1	1
								1	2	1												2																													1				1									1	2
																																							1											1															
																				1	2																																												
																		1			1			1										3					3		1																								
									1					1	3					2	3	1	2					2	2	1						1														2	1			3	2	1					5				
								1	5									1																																											1				
									3						1			1																							1																								
									1														1																																										
								1														2	1																																	1									
								1												1					2																									1				1	1					2					1
																								1						1																				1	1	1	1	2						1	1				
																					1																														1	1		2						1	1				
																				1	1																													2			1		1							1		1	
																				1	3	1	2								1								1																1	1				1					2
																						1	1						1										1					1										1		1			1		1	1			
								3	10					1	4			3		6	11	5	7	2	2			2	3	2	1			3		1			5		2			1						6	3	2	2	9	5	4			1	5	9	2		1	3
																																																							1										
								1																																																									
								1																																															1										
																		1									1																																						
						1																																																											
						1												1									1																																						

第17表　つづき

ブロック	グリッド	層位	ヒラメ 尾椎	カレイ類 前上顎骨 L	前上顎骨 R	主上顎骨 L	主上顎骨 R	歯骨 L	歯骨 R	角骨 L	角骨 R	方骨 L	方骨 R	鋤骨	頭骨	舌顎骨 L	舌顎骨 R	舌骨	椎骨 第1	椎骨 腹椎	椎骨 尾椎	椎骨	尾鰭椎	鱗	シタビラメ 椎骨 尾椎	椎骨	不明 主上顎骨 L	主上顎骨 R	歯骨 L	歯骨 R	角骨 L	角骨 R	方骨 L	方骨 R	舌顎骨 L	舌顎骨 R	主鰓蓋骨 L	主鰓蓋骨 R	肩甲骨 L	肩甲骨 R	椎骨 第1	椎骨	尾鰭椎	咽頭骨	鰭棘
VII	1F−15（南北）	ベルト3c−①																																								4			
	〃	ベルト3c−②																															2									6	2		
	〃	ベルト3c−③																																								10			
	〃	ベルト3c−④																				1		1	1	1																13			
	〃	ベルト3c−⑤																						1	1																	8			
	2F−11	3c																		1						1																7			
	計																			1		1		2	2	2							2									48	2		
VIII	1F−20	ブロック3c																				1		1			1															19		1	
IX	1F−10	ベルト3c		1	1																			4																		45	2		
	1F−14	ベルト3c								1														1	1								4						3			79	4	2	
	1F−15（東西）	ベルト3c						1										1			4			10	2		1															80	9		
	1F−15（南北）	ベルト3c																						4							1		4									39	2		
	1F−20	ベルト3c																						5									1						1			32	3		
	1F−25	ベルト3c																				3											2									19		6	
	1F−05	3c																								1																2		1	
	1F−10	3c														1																									3	6	1	3	
	1F−14	3c				2					1										4				1								3									53	2		
	1F−15	3c																																								8	1		
	1F−20	3c									1										1												1									9	2		
	1F−25	3c																						1																		5			
	2F−16	3c																																								3			
	1F−09	3c																															1									18		4	
	1F−19	3c																																											
	1F−09,19	3c																								2							2						1			8			
	計			1	1	2		1		1		2				1	1				9	3		25	4	3	1				1	18						5		3	406	26	16	
X	4号住 柱穴①	ブロック3c																																								2			
	4号住 柱穴②	ブロック3c																																											
	4号住 柱穴③	ブロック3c																						1																					
	4号住 柱穴④	ブロック3c																																								1			
	4号住 柱穴⑤	ブロック3c																																								1			
	4号住 柱穴⑥	ブロック3c																																								1			
	4号住 柱穴⑦	ブロック3c																																								1			
	計																							1																		6			
XI	2F−14	ブロック3c																							1																	12			
	2F−24	ブロック3c																																								1			
	3F−11	ブロック3c																																								1			
	計																								1																	14			

カマス類　Sphyraena sp.

わずかな骨が検出されているのみである。

スズキ目　Order Perciformes

スズキ　Lateolabrax japonicus

本貝塚でいう大型の魚のなかではやや目立った種類ではあるが、各グリッドの出土量はクロダイ、コチ、フグ類などに及ばない。石器時代貝塚の魚種としては夙に知られた種類であるが、この魚がどの程度に漁獲されたかを具体的に示す資料はまだ限られる。本貝塚での出土状況はその一つの例として注目される。特に東京湾岸域での在り方がよく示されたのであろう。

キス科　Famiry Sillaginidae

キス　Sillago sihama

本貝塚の小型の魚種としては重要な種類と考えている。今回の出土資料では、本種もまた椎骨が主要な標本であるために個体数などの推定が難しいが、単純な出土量の比較からでも漁獲の状況を把握することは可能であろう。

シロギス、アオギスが知られるが、シロギスは砂地の内湾、浅海に生息する。産卵期（６月～10月）沿岸に近付く時、網などを使って捕ったのであろう。キスは市原市内の石器時代貝塚、例えば西広貝塚などで筆者はすでに採集していたが、今回の貝塚資料の調査によってさらに詳細が知られたといえる。

ニベ科　Famiry Sciaginidae

イシモチ？　Argyrosomus argentatus？

椎体が検出されている。

タイ科　Famiry Sparidae

マダイ　Pagrus major

確認された骨はきわめて少ない。外海性の本種の少ないことは当然と思われるが、本貝塚の魚類資料には特に少ない。本貝塚の内湾の奥まった立地を考えなければならないのであろう。

クロダイ　Acanntopagrus schlegeli

本貝塚での中型の魚のなかでもっとも多くの遺骸をのこしていた種類である。前上顎骨、主上顎骨の出土がもっとも多く、歯骨、角骨、方骨になると少なくなり、さらに舌顎骨、前鰓蓋骨、主鰓蓋骨などになるとさらに少なくなる。このような部位による骨の遺存状態の違いは、先ず骨自体の丈夫さに関連することが多いであろう。特に前上顎骨、歯骨はもっとも丈夫な骨と考えられるからである。しかし、このような骨もしばしば破損している。これは調理加工の過程での損傷が何らかあったのだろう。

その他、漁獲から搬入、解体に至る間の魚の扱いをいろいろ反映させているということも考えられる。鰓蓋部周辺の骨の少ないのは運搬時に縄を通したりして傷めたりすることに原因するとも考えれれる。漁獲されている個体は前上顎骨・歯骨の大きさからみると小さく、全長が30㎜以下である。最も小さい個体は前上顎骨長6.45㎜（Ⅲブロック 2E－20 ベルト3c層）というのがあった。椎骨の標本のうち不明種としたもののなかに、このような大きさの標本が少なからず含まれていた。体長50～60㎜，カイズと呼ばれる幼魚である。おそらくこのような個体が多数とれたのではなかろうか。

第18表　3b層出土魚類遺体出現数一覧

魚種 / 部位 / グリッド	サメ		カスザメ	エイ類			マイワシ		ウナギ	ボラ						スズキ								クロダイ																
	歯	椎骨	椎骨	歯板	尾棘	椎骨	椎骨 腹椎	椎骨 尾椎	椎骨 尾椎	主鰓蓋骨 L	主鰓蓋骨 R	椎骨 尾椎	尾鰭椎	眼下骨 L	眼下骨 R	前上顎骨 L	前上顎骨 R	主上顎骨 L	主上顎骨 R	歯骨 L	歯骨 R	方骨 L	方骨 R	椎骨 第1	椎骨 腹椎	尾鰭椎	前上顎骨 L	前上顎骨 R	主上顎骨 L	主上顎骨 R	歯骨 L	歯骨 R	角骨 L	角骨 R	口蓋骨 L	口蓋骨 R	方骨 L	方骨 R	肩甲骨 L	肩甲骨 R	椎骨 尾椎	尾鰭椎	臀鰭第1棘	臀鰭第2棘	単上顎骨もしくは歯骨破片	歯
1D－09						1																																								
1D－19																																										1			
1D－20																											1																	1	3
1D－25																													1																
2D－06		1		1		3	1													1														1								2		2	18
2D－07			1						1																							1										3			
2D－08						1																					1			1						1						1	1	5	
2D－09																											1																			
2D－11		1				3																													1	2		1					7	8
2D－12		1				2						1													1					1						1							1	7
2D－13						4																						1													1	3		7	4
2D－14						3																								1	1					2						1		11	9
2D－15																																												2	
2D－17		2		3	1	3							1	1													1		2	2	1		1		2		1					3		7	8
2D－18						1																						1			1	1										1		3	2
2D－18（確認分）																																													1
2D－19						2																						1														1		2	4
2D－20						1																													1								7	3
2D－21						1																		1													1	1	1			1	1	5	5
2D－22		2		1		2																								1										1		3		8	
2D－23																											1	1							1							2		5	3
2D－24						2																						2	1		1													2	
2D－25																											1															1			11
1E－10						2																															1								
2E－02												1																1									2							5	2
2E－03					1	2																					1				1	1												4	3
2E－04	1			1		2																						1			1	1	1											19	4
2E－07						1																1		1		1				1				1								2		10	3
2E－08				1		1																					1	2																1	4
2E－09																															2													6	1
2E－10						1																					1	1			1					1								4	1
2E－11						2																						2			1		1				1					1			3
2E－12				1		3													1								3	2	1		2											1		10	13
2E－13						4																						1		1				1										2	2
2E－14							1																				1			1	2				2									6	7
2E－15						2																			1			1						1			1							6	7
2E－16				1		1																							1					1								1			8
2E－17				1	1	1																					1		1					1	1	3					1		7	6
2E－23						2																					1				2		1		1		1					1	1	5	14
2E－24				1				1								1			1								1	2														1	1	7	3
1F－15（東西ベルト）																												1																	
2F－03		1																																								2			2
2F－04		1				1																						1			1					1	2					1		4	8
2F－08				1		3																								1			1									1		1	4
2F－09			1																																										2
2F－13																															1	1										1			6
2F－17										1															1																				
2F－18																											1		1			2			1	2	1						7	1
2F－21																																												1	
2F－22																																												1	
2F－23																																												2	1

ヘダイ			マアジ					サバ	マハゼ	フグ類															コチ										カレイ類										シタビラメ	不明					
歯骨		歯	歯骨		椎骨		尾鰭前棘	椎骨	前上顎骨	前上顎骨		主上顎骨		歯骨		口蓋骨		方骨		主鰓蓋骨		舌顎骨		前上顎骨もしくは歯骨破片	前上顎骨		主上顎骨		歯骨		前鰓蓋骨		基後頭骨	椎骨	前上顎骨		主上顎骨		主鰓蓋骨		椎骨			翼状骨	椎骨	角骨		椎骨		尾鰭椎	咽頭骨
L	R		L	R	腹椎	尾椎		腹椎		L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R		L	R	L	R	L	R	L	R		腹椎	L	R	L	R	L	R	第1	腹椎	尾椎					第1			
						1	1																																										
																									1																										
																								1																											
										1																																							3		
																															1																					
											1					1																																	2		
											1				1																																		2		
											1									1										1														1								
																								4																										1		
										2		1		2																								1			1					1	1				5		
																															1																	1				
																																	1																			
					1	1			1	1																1					1																							
						1			1	1	1				1																	2							1					1							1		
																																																		1		
		1													1													1			1										1							1		
											1					1																	1	1												1		1								
											1																						1			1																		
																																																		1		
											1																								1																			
											1																																	2								
						1												1												1							1				1	2	
																													1																					1		
																													1																					
																														1																					
																										1																								1		
	1									1					1												1			1	1	1	1																					1		1
																																1	1																		1		
								1																1										1																	1		
		1																														1														1						
												1				1																1																					
											1	1			1																	1	1														1				
				1						1															1				2		1																		3		1
																							1																												
																																																		1		
		1													1															1																						
											1																			2																						
																													1																						1	
																												1																						

ヘダイ　Sparus sarba

クロダイよりもはるかに少ないが、マダイよりは多い。もともと南海のタイであり、東京湾内には少ない種類であったと思う。それでも縄文時代の海では今より多かったのであろう。そして縄文海進期に形成された奥東京湾岸域の前期貝塚で、時々かなり大型のヘダイをみることがあるのは、この魚の特徴をよく表している。

アジ科　Famiry Carangidae

マアジ　Trachurus japonicus

イワシ類を除いた小型の魚ではマアジの骨の出土がもっとも多いようである。しかし、残されている骨は椎骨の出土が目立ち、内臓骨類の出土は稀であった。アジの骨のこの部分は特に弱いので、残らないことも考えられるが、他の遺跡での場合と比べて保存率はやや低いのではないかと思われる。しかしアジ類に特徴的な尾鰭前棘は比較的多く検出することができ、個体数の推定が可能になった。この棘の出土数は他の内臓骨の出土数とほぼ見合う数のようである。

ブリ　Seriola quinqueradiata

出土している骨の数はごく少なく、その部位も限られるようである。東京湾内貝塚からは少数ではあるが出土例は知られている。

サバ科　Famiry Sombridae

サバ類　Somber sp.

前上顎骨、歯骨の出土もあるが、椎骨が主として採集されている。アジよりも明らかに少なく、漁獲の少なかったことを推測させる。

ハゼ科　Famiry Gobiidae

ハゼ類　Gobbidae gen. et. sp. indet.

小型の魚のなかではやや目立った出土である。椎骨の検出よりも前上顎骨、歯骨などの特徴ある骨が標本として重要である。ただ、種類の多いこの種についての分類は一般的なものに留まらざるをえない。

マフグ科　Tetraodontidae gen. et. sp. indet.

フグ類はその特徴的な骨の形態から、多くの部位を確認することができる。各グリッドから出土する個体数は多くないが、全般的にみられるようである。本貝塚から知られるマフグ科の遺骸は、体長の小さな個体が多いらしい。漁獲の方法についても興味がもたれるところである。

カサゴ目　Order Scorpaeniformes

カサゴ科　Famiry Scorpaenidae

カサゴ属　Sebastes sp.

遺骸の出土量は少ない。

コチ科　Famiry Platycephalidae

コチ　Platycephalus indicus

大小の個体があり、全体の出土量は多い。おそらく当時もっとも普通にみられた魚の一つであったのであろう。標本の多いことは骨格の比較的丈夫なこともあり、微細な骨も同定が可能な部分のあることにもよるかと思われる。

コチ科の一種　Platycephae gen. et. sp. indent.

前鰓蓋骨の鋭い棘の部分が残されている。

カレイ目　Order Pleuronectiformes

ヒラメ科　Famiry Bothidaee

ヒラメ　　Paralicthys olivaceus

椎骨の部分的な骨をみるのみであるために、同定にやや問題があることも考えられる。

カレイ類　Pleuronectidae gen. et sp. indet.

全体的な骨の出土量は多くない。

全体の傾向（第19表）

第19表は検出された魚類の主要部位をもとに、それぞれの魚種の最少個体数を求めまとめたものである。魚類は総数33種類を数えるが、これらの合計個体数は573 になる。その内訳は、クロダイの130(23%)が最も多く、マイワシの84(15%) がこれにつぎ、スズキ・キス・マアジ・フグ・コチ・カレイが30～40(5～7%) である。

ブロック別の相違

検出魚類遺体の個体数の最も多いのは、Ⅲブロックで135(24%)である。これに次ぐのがⅨブロックで115(20%)である。さらにⅡ・Ⅴ・Ⅵブロックが50～70(10 ～12%)となる。検出個体数の差は貝層規模の差に必ずしも比例しておらず、最も貝層規模の大きなⅨブロックは妥当としても、比較的規模の小さいⅡ・Ⅴ・Ⅵブロックでかなりの個体数を検出していることは注意される。また、Ⅱ・Ⅴ・Ⅵブロックと同規模あるいはやや規模が大きく、かつⅢブロックに隣接するⅣブロックで、検出個体数が41(7%)とあまり多くないことも注意される。

層位別の傾向

層位別の傾向は、Ⅳブロックの①～④層・Ⅵブロックの①～③層・Ⅶブロックの①～⑤層で検討した。この結果、Ⅳブロックでは②層に検出個体数が激減する傾向がみられるが、これはこの層が混貝土層であることと関係があるかもしれない。Ⅵブロックでは、②層で検出個体数が半減するが、これはこの層が上下の層と異なる炭化物を多く含む層であることと関係があるかもしれない。Ⅶブロックでは④層にやや検出個体数が多くみられる傾向があるが、これには上層に貝殻破砕率が高く、下層に混土率が高いことが関連しているかもしれない。

サンプル地点別の傾向

サンプル地点別の傾向は、Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ・Ⅸブロックで検討した。Ⅱブロックでは2E-02で他の３地点の３～６倍の個体数を検出した。2E-02はⅡブロック内の４地点のサンプル中では最もサンプル量は多いが、その量の比率以上に多くの個体数を他の３地点よりも検出している。Ⅲブロックでは2E-19で他の３地点の２～４倍の個体数を検出した。2E-19 はⅢブロック内の４地点のサンプル中では最もサンプル量は多いが、その量の比率以上に多くの個体数を他の３地点よりも検出している。Ⅴブロックでは2F-01 で他の４地点の２～３倍の個体数を検出したが、この数値はこの箇所と他の４地点のサンプル量の比率とほぼ一致している。Ⅸブロックでは1F-15(東西) で他の４地点の２～３倍の個体数を検出したが、この数値はこの箇所と他の５地点のサンプル量の比率とほぼ一致している。

第19表　3c層出土魚類遺体の最少個体数

ブロック	グリッド	層位	魚種 / 比率	サメ	カスザメ	エイ	マイワシ	カタクチイワシ	ニシン	サケ	ウグイ	コイ	ギギ	ウナギ	アナゴ	ダツ	サヨリ	ボラ	カマス	スズキ	キス	イシモチ	マダイ	クロダイ	ヘダイ	マアジ	ブリ	サバ	マハゼ	フグ	カサゴ	メゴチ	コチ	ヒラメ	カレイ	シタビラメ
Ⅰ	2D−21	ベルト3c	7.8	1		1	5							1					1		1			2		3		1	1	1			1			
	2D−16	3c	92.2	1		1	1							1						1	1			2		1		1		3			1		2	
	計		100	1		1	5							1					1	1	1			2		3		1	1	3			1		2	
Ⅱ	2E−01	ベルト3c	3.7			1	1										1				1			1		1			1				1			
	2E−02	ベルト3c	6.3	1		1	8	1						1			1	1		6	1			3		2	1	1	2	1	1		2		1	1
	1E−05•10	ベルト3c	0.4			1	1							1							1			1		1										
	2E−06	ベルト3c	5.2	1		1	3	1												1				1		1				1						
	2E−01	3c	41.8	1		1																		3		1							1			
	2E−06	3c	42.6	1		1	1							1						1	2			4		1		1	1	4			3			1
	計		100	1		1	13	1						1			1	1		6	2			10		3	1	1	2	5	1		4		1	1
Ⅲ	2E−18	ベルト3c	0.2	1		1	1	1						1										1		1		1								1
	2E−19	ベルト3c	4.7	1		1	25	2						1			2	1		1	3			7		9		1	5	2		1	2		7	1
	2E−20	ベルト3c	4.1	1		1	8	1						1			1	1		2	2			4		2			2	1			1		2	1
	2F−05	ベルト3c	3.0	1			2							1			1			1	1			2		1		1	2				1		1	
	2E−18•23	3c	24.4	1		1	1							1						3	1			5		1				1			1			
	2E−19•14	3c	40.1	1		1	1							1				1		3	1			13	1	7		1	3	2			3	1	6	1
	2E−20	3c	14.5	1		1								1						1	1			1		1		1		1						
	2E−25•24	3c	9.0			1																		3		1							1			
	計		100	1		2	37	3						2			3	2		7	4			30	1	15		1	9	3		1	5	1	16	1
Ⅳ	3F−06	ベルト3c−①	3.6	1			1							1			1				1			1		1							1			1
	2F−10	ベルト3c−①	13.6	1			1	1									1				1			4		1			1	2		1	3			
	〃	ベルト3c−②	0.2																					1												
	〃	ベルト3c−③	1.6			1	1	1				1					1				2			1				1		1					1	
	〃	ベルト3c−④	2.5	1		1	1														1			1		1			1	1			1			
	2F−05	3c	30.4			1	1														1			2		1			1	2			1			
	2F−10•3F−06	3c	43.8	1		1	1											1		2				7		1				2			1			
	3F−01	3c	4.3														1							1		1										
	計		100	1		1	2	1				1		1			1	1		2	3			9		2		1	1	6		1	5		1	1
Ⅴ	1E−25	ベルト3c	1.1	1		1		1				1		1							1			1	1	1									1	
	2F−01	ベルト3c	10.2	1		1	2	1				1		1			1	1	1	1	2	1		7		6		1	2	1			1		2	
	2F−02	ベルト3c	2.6	1		1	2							1			1				1			1		1				1					1	
	1F−05	ベルト3c	2.1			1	1	1				1		1			1				2			3		1			1				1		1	
	1F−05•1E−25	ベルト3c	3.6	1		1	1							1		1				1	1			2		1				2			2		1	1
	2E−21	3c	37.1	1		1												1		1			1	7	1	1				1			2		1	1
	2E−22	3c	19.9			1	1													1				4						1			1			
	2F−01	3c	8.9	1		1				1										1				1		1		1					1		1	
	2F−02	3c	14.4			1														1				1												
	計		99.9	1		2	3	1		1		1		5		1	1	1	1	2	4	1	1	14	1	6		1	2	4			4		3	1
Ⅵ	2F−11	ベルト3c	4.1	1		1	3	1						1			1				1			2		1							1		2	1
	2F−12	ベルト3c−①	5.2	1		1	7							1			1				3			2		1							1		1	
	〃	ベルト3c−②	1.7	1		1											1				1			2		1							1			
	〃	ベルト3c−③	9.1	1		1	2		1				1	1			1			1	1			6		1		1	1	1			2			
	2F−06	3c	24.4	1	1	1															1			3		1				1			1			
	2F−07	3c	36.9			1	1													1				3		1							1			
	2F−12	3c	18.5			1								1										1		1				1			1			
	計		99.9	1	1	7	13	1	1				1	4			4			2	7			13		3		1	1	2			4		2	1
Ⅶ	1F−15(南北)	ベルト3c−①	0.4			1	1														1			1		1										
	〃	ベルト3c−②	0.7			1	1														1			1	1	1										
	〃	ベルト3c−③	0.7				1											1			1			1		1		1								
	〃	ベルト3c−④	1.7			1	1														1			1		1		1	1	1			1		1	1
	〃	ベルト3c−⑤	0.7				1											1			1			1		1				1					1	1
	2F−11	3c	95.8			1	1													1				8		1							1		1	1
	計		100			1	2											1		1	1			8	1	1		1	1	2			1		1	1
Ⅷ	1F−20	ブロック3c	100				1	1			1						1			1	2			2		1				1			1		1	
Ⅸ	1F−10	ベルト3c	2.6	1		1	1	1												1	1			4		1				2					1	
	1F−14	ベルト3c	2.3			1	4	1						1		1		1		1	1		1	3		1			1	2					1	1
	1F−15(東西)	ベルト3c	5.9	1		1	2	1						1			1	1		2	1	1	1	6		2		1	3	3			5		1	1
	1F−15(南北)	ベルト3c	4.5	1		1	1	1									1			1	1			5		1		1	1				1		1	
	1F−20	ベルト3c	1.7	1		1	1	1						1			1			1	1			2		1		1	1	1					1	
	1F−25	ベルト3c	0.7	1		1	1								1						1			1		1		1		1					1	
	1F−05	3c	1.4	1		1	1													2				1		1		1		2			1			1
	1F−10	3c	17.5	1		1												1		1				5	1	1		1		2			2		1	
	1F−14	3c	12.5	1		1	1							1						1	1			7	1	1				1			2		2	1
	1F−15	3c	13.1	1		1								1						1				4		1				1			2			
	1F−20	3c	14.4	1		1	1													1				2		1				1			2		1	
	1F−25	3c	3.9	1		1																		2	1	1									1	
	2F−16	3c	10.8			1																		2		1										
	1F−09	3c	7.3	1		1	1											1		2	1			4		2				3			1			
	1F−19	3c	1.4																																	
	1F−09•19	3c	−	1		1						1								1				6		1				1	1		1			1
	計		100	1		9	6	3				1		1	1	1	1	1		8	8	1	1	38	1	4		1	4	11	1		9		2	1
Ⅹ	4号住 柱穴①	ブロック3c	8.3																					1		1										
	柱穴②	ブロック3c	6.3																		1					1										
	柱穴③	ブロック3c	41.8																					2		1							1		1	
	柱穴④	ブロック3c	7.0															1			1			1		1										
	柱穴⑤	ブロック3c	10.0		1		1													1				1		1										
	柱穴⑥	ブロック3c	12.8																		1			1		1		1								
	柱穴⑦	ブロック3c	13.8			1																		1	1											
	計		100		1	1	1											1		1	1			3	1	2		1					1		1	
Ⅺ	2F−14	ブロック3c	60.8	1			1	1						1							1			1		1			1	1						1
	2F−24	ブロック3c	7.5																		1			1		1										
	3F−11	ブロック3c	31.7				1														1			1		1		1								
	計		100	1			1	1						1							1			1		1		1	1	1						1
総計				8	2	25	84	12	1	1	1	3	1	16	1	2	12	8	2	31	34	2	2	130	5	41	1	10	22	38	2	2	35	1	30	8

第20表　3c層出土ブロック別魚類遺体の推定最少個体数

ブロック＼魚種	係数	サメ	カスザメ	エイ	マイワシ	カタクチイワシ	ニシン	サケ	ウグイ	コイ	ギギ	ウナギ	アナゴ	ダツ	サヨリ	ボラ	カマス	スズキ	キス	イシモチ	マダイ	クロダイ	ヘダイ	マアジ	ブリ	サバ	マハゼ	フグ	カサゴ	メゴチ	コチ	ヒラメ	カレイ	シタビラメ	計
Ⅰ	12.8	1		1	64							13					13	1	13			2		3		1	13	3			1		2		131
					5							1					1		1								1								24
Ⅱ	6.4	1		1	83	6						6			6	1		6	12			10		3	1	1	13	5	6		4		1	1	167
					13	1						1			1				2								2		1						56
Ⅲ	8.3	1		2	307	25						16			25	2		7	33			30	1	15		1	74	3		8	5	1	16	1	573
					37	3						2			3				4								9			1					144
Ⅳ	4.6	1		1	9	4				4		4			4	1		2	14			9	2			1	4	6		4	5		1	1	77
					2	1				1		1			1				3								1			1					41
Ⅴ	5.1	1		2	15	5		1		5		25		5	5	1	5	2	20	5	1	14	1	6		1	10	4			4		3	1	142
					3	1				1		5		1	1		1		4	1							2								62
Ⅵ	4.9	1	1	7	64	5	5				5	20			20			2	35			13		3		1	5	2			4		2	1	196
					13	1	1				1	4			4				7								1								69
Ⅶ	23.8			1	47											1		1	24			8	1	1		1	24	2			1		1	1	114
					2														1								1								23
Ⅷ	1.0				1	1			1						1			1	2			2		1				1			1		1		13
Ⅸ	5.6	1		9	33	17				5		5	5	5	5	1		8	45	5	1	38	1	4		1	22	11	5		9		2	1	239
					6	3				1		1	1	1	1				8								4		1						115
Ⅹ	1.0		1	1	1											1		1	1			3	1	2		1					1		1		15
Ⅺ	1.0	1			1	1						1							1			1		1		1	1	1						1	11
計	—	8	2	25	625	64	5	1	1	14	5	90	5	10	66	8	18	31	200	10	2	130	5	41	1	10	154	38	11	12	35	1	30	8	1,678
					84	12	1			3	1	16	1	2	12		2		34	2							22		2	2					573

係数は、各ブロックサンプルの１㎜分析率から算出した。上段の数字が係数をかけた推定個体数，下段は実際の最少個体数

山田橋亥の海道貝塚の魚類遺体の推定最少個体数（第20表）

亥の海道貝塚では、いちおう遺跡内の貝層の全てをもちかえってサンプル処理をおこなったが、このうち１㎜メッシュ上の残留物までを分析したものは全体の約15％程度である。したがって、検出されている33魚種のうち半数の16魚種（マイワシ・ニシン・ウグイ・コイ・ギギ・ウナギ・アナゴ・ダツ・サヨリ・カマス・キス・カタクチイワシ・イシモチ・マハゼ・カサゴ・メゴチ）は全体の約85％の部分ではほとんど検出されていない。したがって、一つの試みとして亥の海道貝塚内には実際にはどの位の魚類遺体が包含されていたのかを推定してみた。方法は、各ブロックごとに、サンプルの１㎜メッシュ上残留物分析率から係数を割り出し、これを実際に検出した最少個体数に掛けて算出した。表２のうち上段の数字が推定最少個体数である。全体では1,678となり、実際に検出した最少個体数の約３倍となった。この内訳をみてみると、マイワシの625(37％)が最も多く、キスが200(12％)でこれにつぎ、マハゼ・クロダイ・ウナギが90～150(５～９％）となっている。このように推定最少個体数では、マイワシ・キスが数のうえでクロダイをしのぎ、実際に検出した最少個体数では５％を越えていたスズキ・マアジ・フグ・コチ・カレイなどが推定最少個体数では５％未満となり、逆に実際に検出した最少個体数では５％未満だったウナギ・マハゼが推定最少個体数では５％以上となり、推定によると魚種組成にかなりの変化がみられた。

3．両生綱　Class Amphibia

無尾目　Order Anura

ヒキガエル科　Famiry Bufoniidae

ヒキガエル　　Bufo bufo formosus

ごく少量の遺骸をみるのみである。捕りやすい動物ではあるが、特にこれを捕り集めるということはなかったと考えられる。

4．爬虫綱　Class reptilia

有鱗目　Order Ophidia

ナメラ科　Famiry Colubridae

ヘビ類の遺骸で確認されたのは椎骨のみであったが、骨はどのグリッドでも検出された。1グリッドで23個というものがもっとも多かったがそれは例外的で、数個あるいは5～6個前後というのが普通であった。ヘビが特に好まれて捕食されたかどうかは、この資料のみでは定かではない。

5．鳥綱　Class Aves

鳥骨として判定された骨はごく微小な骨は別として、多少形態をもつものとなると、全体でも20数片程度であったのですくないものであった。

ガンカモ目　Order Anseriformes

おそらくこの種類の遺体が多かったのではないかと思われる。

このうちやや大型の種類であったのがヒシクイ類であって、査定された骨は一点のみであった。カモ類としたものには上腕骨などがあり、中型の大きさのものであった。

キジ目　Order Galliformes

キジ科　Famiry Phasianidae

中手骨片2点のみがあった。

スズメ目　Order Passeriformes

尺骨1点を検出した。貝塚の鳥類のなかでスズメのような小形の鳥の骨は検出例が非常に少ない。貴重な標本である。

6．哺乳綱　Class MAMMALIA

モグラ科　Famiry Talpidae

モグラ　Mogra wogura, ヒミズ　Urotrichus talpoides

モグラの出土が多い。骨がまとまって出土する場合には四肢骨も前後肢が揃うが、断片的に出土の時は何故か上腕骨のみの出土が多い。

ウサギ目　Order Lagomorpha

ノウサギ　Lepus brachyurus

下顎骨は1点、その他は遊離した切歯、臼歯のみで、その数もごく少なかった。一般的な貝塚の出土数と比べても少ない。

齧歯目　Order Rodentia

リス科　Famiry Sciuridae

ムササビ　Petaurista leucogenys

切歯、臼歯が各１点あるのみで、これもこの時期の出土例としては少ないように思われる。

ネズミ科　Famiry Muridae

ハタネズミ Microtus nontebelli, アカネズミ属 Apodemus,カヤネズミ属 Micromys,クマネズミ属 Rattus が含まれていると考えられる。

多くの遺骸が出土しているが、歯牙、四肢骨の充分な分類が終了していないので、個体数については未確認である。貝塚の貝層の発掘に際してネズミ類の遺骸の出土をみるのは稀ではないが、本貝塚程に多い例は少ないのではないかと思われる。

ネズミ類の骨は１乃至数個体分のものの骨格の一部が、いくつもの地点で出土するのであるが、全身の骨格もしくはそれに近い骨格が揃うような例はない。

このうち歯牙とくに切歯が多く、１例ではあったが切歯で20個体分という数が検出されたこともあった。この場合でも四肢骨は数個体分を数えるのみであった。しかしこの場合でも特に頭蓋骨が集められたかどうかは不明である。

このようなネズミ類の遺骸のなかには、地下に穴を掘って棲み、巣もつくるアカネズミ、カヤネズミの遺骸は貝層中からの出土であるが現代のものの混入があるものと考えられる。また、骨のなかには、焼けている骨などもあり、人為的な処理がされたと考えられる骨もある。しかし、ネズミ類の捕食についての積極的な証拠はまだ少ない。

クジラ目　Cetacea Fam. indet.

クジラの骨は断片的なもので検出されることが多い。骨製品も出土することがあるので、その残りであるかもしれない。

イルカ科　Famiry Delphinidae

ごく稀に検出されているだけである。

食肉目　Order Carnivora

イヌ　Canis familiaris

歯牙と断片的な骨が検出されているのみである。歯牙の出土状況をみると前臼歯、臼歯からなり、同じ歯で複数が出土することがないので、おそらく上顎骨なり下顎骨なりが埋存していて、それから抜け落ちたのではないかと思われる。骨自体は破損した可能性がある。各グリッドから出土している歯牙には、殆どの場合乳切歯骨、乳臼歯がみられ、若い個体の遺骸であったことがわかる。生後半年以内位の年齢であろうか。もしこの程度の年齢の個体の四肢骨であれば、やはり保存は悪く、回収が難しかったかもしれない。

タヌキ　Nyctereutes procyonoides

少数の四肢骨片と歯牙がある。出土数はイヌよりもはるかに少ない。

イタチ　Mustela sibirica

貝塚での出土は珍しい。本貝塚でも１点があったのみである。

テン　Martes melampus

貝塚での出土はやや多い獣である。本貝塚でもタヌキと同程度に出土している。

第21表　両棲綱・爬虫綱・鳥綱・哺乳綱　遺体出現数一覧　　3c層

ブロック	グリッド	層位	種類	両棲綱	爬虫綱	鳥綱	哺乳綱													
				カエル	ヘビ		モグラ類	ウサギ	ムササビ	ネズミ	イルカ	イヌ	タヌキ	アナグマ	その他	中型獣一括	ウマ	イノシシ	シカ	イノシシもしくはシカ
I	2D－21	ベルト3c			Vert					L.C M(ハタ)									R.P_3	
	2D－16	3c			Vert	Phal 3					歯2(バンドウ)	L.M^1 L.I^2?				Mct(p)		L.M^3 R.M^3 L.i_1 歯(fr)	Tal $\overline{M}$(fr)	
II	2E－01	ベルト3c	Hum.L																	
	2E－02	ベルト3c								Fem.L L.C2 L.$\overline{C}$ Tal. 2 M M(ハタ)2								Fib(fr)?		
	2E－06	ベルト3c				fr.										fr.		♀C Phal 1(Ⅱ/Ⅴ) R.M^3		
	1E－10・05	ベルト3c								M										
	2E－01	3c					mand (fr)R			R.$\overline{I}$ M(ハタ)					R.M^1 R.P^4 Phal 1 (テン)					
	2E－06	3c			Vert 6	V.cer	Ul.R					V.cer L.M^2 L.P_3	R.M^2				Ⅰ	L.M^2 Phal 3	L.M^1 L.P^2 R.P_4? Tar Fem(fr)	
III	2E－18	ベルト3c								L.I^1(ドブ)		R.P_3?							Fem(fr)?	
	2E－19	ベルト3c	Pel.R	Vert 6			mand.R Hum.L			Pel. Hum.R Fem(p)R R.C, L.C R.C, L.C Phal 1 M 3 M(ハタ)3								Phal 1(d) Phal 1 (Ⅱ／Ⅴ)	R.I_1 上顎歯(fr)	
	2E－20	ベルト3c			Vert 2					V.tho V.lum R.I^1 I^1 2 I_1(fr)2 M		L.M (乳)						L.I_3? ♂L.C(乳)	$\overline{M}$(fr)	Car?
	2F－05	ベルト3c																(fr)		
	2E－18・23	3c				fr.	Hum.R			Hum.L mand.L L.I_1						Rib(fr)2 p.t Cal(fr)	歯(fr)	歯(fr)2 Phal2. 2(幼)	Car At Mc Mct(d)3 乳M(fr) 歯(fr)5	
	2E－19・14	3c			Vert 8	fr.	Hum.R.L	$\overline{M}$		max(fr) Fem.R Hum.R Vert 3 V.cer 2 Phal 1 mand.R2.L R・I2 L・$\overline{I}$ M(ハタ)		L.M^2 L.P^4			(イタチ) R.M_1	Phal 1 Phal 2	歯(fr) M(fr)	♀.L.$\overline{C}$ ♀.R.C mand(fr)R Phal 3. 2 (幼) Phal.2 (幼) R.M^2	Hum(d)R isch(fr)R p.p(fr) car2+3.L P(fr)	
	2E－20	3c					mand.R									歯(fr)		歯(fr)	$\overline{M}$(fr)	
	2E－25・24	3c																歯(fr)	歯(fr)	
IV	2F－10	ベルト3c－①			Vert					Fem.R L・C M M(ハタ)2			R.M^2					R.dm^3 dm^4,M^1		
	2F－10	ベルト3c－②													fr.					
	2F－10	ベルト3c－③																L.I_2 M(fr)		
	2F－10	ベルト3c－④											R.M^1						L.M_3 At	
	2F－05	3c								R.$\overline{I}$, L.$\overline{I}$ R.$\overline{I}$ Phal 1 M M(ハタ)						R.P_2		mand(fr)	Tal.L 乳歯(fr)	
	2F－10,3F-06	3c					Hum.R2 mand.R	Hum(d)L		L.$\overline{I}$ R.$\overline{I}$		(dm_3)R R.$M^{1\sim2}$ L.dm_4 R.dm_4 R.P_3				Phal 1		Tar.R Tar(fr) Ul(p)R (dm^4M^1)R L・dm^3 R.i_3 R.dm^2	Hum.L Mct(d) Fem(d)R Fem(p) Phal 1(d) Ant(fr) L.M^3 乳歯(fr)	
	3F－01	3c								M(ハタ)	歯									
V	1E－25	ベルト3c								Co.R								Phal 2	Tib.R	
	2F－01	ベルト3c			Vert 5					Hum.R2 Ul.L Pel.R Mct. V.lum.2 V.tho V.cau.2 R.C.2 L.C.2 M9 M(ハタ)10								mand(fr)	Zyg maxR ($P^{3\sim4}$ $M^{1\sim2}$)	

第21表　つづき

ブロック	グリッド	層位	種類	両棲綱	爬虫綱	鳥綱	哺乳綱													
				カエル	ヘビ		モグラ類	ウサギ	ムササビ	ネズミ	イルカ	イヌ	タヌキ	アナグマ	その他	中型獣一括	ウマ	イノシシ	シカ	イノシシもしくはシカ
V	2F－02	ベルト3c								$\bar{I}$R								mand(fr) Car	Hum(d)R M(fr)	
	1F－05	ベルト3c			Vert	Mc(d)				(ハタ) mand.L M.3 R.$\bar{I}$,L.$\bar{I}$ (ラタス) M Hum(d)L					ul				Tar	
	1F－05,1E－25	ベルト3c			Vert 23	Vcer				Rad Ax Tal R.$\bar{I}$,L.$\bar{I}$3 R.$\bar{I}$,L.$\bar{I}$3 M,M(ハタ)2								Mc. Phal 1	Phal 2 R. M_3, R. I_2	腰椎間節板
	2E－21	3c			Vert		Hum.R2 Hum.R (ヒミズ)	M		mand.R			Tib(d)L L.M^2				R.M_3	♂max.L ($P^{3\,3}$) Phal 1 Phal 2 Phal 3 mand(fr) Mct(fr) L.dm^4 R.M^3(fr)	♂Hum(d)R ♂Pel.L Ant(fr) V.lum(fr) Mt(fr)4 CarI,CarU Phal 1(fr) p.p・L 歯(fr)2 Mt(fr) Cal(d)L	
	2E－22	3c	Hum.L (ヒキガエル)	Vert 3		Hum.L mand.L	M		Fem.R R. $\bar{I}$			R.C			$M\bar{t}$	RM^1 ?	Scap.R Tal.R Cal(fr)R L.dm4 M(fr) R.M_3(fr)	Tal.R Cox.R(上) R.I_1 R.M^2	
	2F－01	3c					Hum.L												Rad(p)L	
	2F－02	3c																Hum.R	Hum.R Mc(p)L mand.R ($P_{3\text{-}4}$).R	
VI	2F－11	ベルト3c																歯(fr) $\bar{C}$(fr)	歯(fr)	
	2F－12	ベルト3c－①			Vert 2					R.$\bar{C}$,L.$\bar{C}$ M,M(ハタ)								Phal 1 (Ⅱ/Ⅴ)		
	2F－12	ベルト3c－②				(キジ) Mt{R/d} L				R.$\underline{C}$										
	2F－12	ベルト3c－③								L.$\underline{C}$ M2,M(ハタ)					Fem					
	2F－06	3c				(ヒシクイ?) Mc(p)L Mc(d)R.L		M I (fr)		Fem.R Cal.R R. $\underline{I}$						L.M^2(幼)		At L.I_2 M(fr) P(fr)	R.M^3 M(fr)	Rib(fr)
	2F－07	3c					mand.R Hum.L			mand.L Hum(d)R		L.P_2						tar C	L.M_1(fr)	
	2F－12	3c								Fem Mct(fr)		L.dm^4						Phal 2 M^2 ? (fr) 乳C(fr)	At M(fr)	
VII	1F－15(南北)	ベルト3c－①													fr.					
	1F－15(南北)	ベルト3c－②																Tar(fr)		
	1F－15(南北)	ベルト3c－③													fr.					
	1F－15(南北)	ベルト3c－④			Vert					At Vert Mct R.$\underline{I}$,M 肢骨(fr)									L.P_4 ?	
	1F－15(南北)	ベルト3c－⑤			Vert		mand max			Mct R. $\bar{I}$ M								Mc(Ⅱ/Ⅴ) Phal 3 乳歯 ?	Tar(fr)	
	2F－11	3c			Vert 5	Fem	Hum. L3,R4	$\underline{L}.I^1,I^2$ M2		R. $\bar{I}$		L.$\underline{C}$ L.$\bar{C}$ R.$\bar{C}$ dm^3dm^4 L.I^3 R.dm^4 L.dm^4 R.i^3			fr. (クジラ)	V.tho Phal 1		L.$i^1$2 R.i_2 L.I_2 R.M_2 L.dm_4 P.2	Mt(fr) Mt(d)R Phal 3 Ant(落角座) Hum(d)L Rad(p)R Tib(d)L Tib(fr) Cal(fr) Rad(fr) Tal.L L・P_3 歯(fr)	
VIII	1F－20	ブロック3c			Vert 3	Scap.L				Ul.R Fem.R Tib.R L. $\underline{I}$ $\bar{I}$(fr)								L.M_2 歯(fr)		
IX	1F－10	ベルト3c			Vert 7	(カモ類) Hum.R Tib(p)				Hum(d)R Phal 1 R.$\underline{I}$2,L.$\underline{I}$ R.$\bar{I}$,L.$\bar{I}$2 Pel.R M5 M(ハタ)3						Mt(p)		M(fr)2	p.p Ul(p)R R.M^3 歯(fr)2	
	1F－14	ベルト3c			Vert 4					Hum.L Fem(p)R R.$\bar{I}$ M(ハタ)2								M(fr)	M(fr)	椎弓(fr)
	1F－15(東西)	ベルト3c			(カモ類) Tib.L									(カワウソ) Hum.L			Phal 2 (Ⅱ/Ⅴ)			

第21表　つづき

ブロック	グリッド	層位	種類	両棲綱 カエル	爬虫綱 ヘビ	鳥綱	哺乳綱 モグラ類	ウサギ	ムササビ	ネズミ	イルカ	イヌ	タヌキ	アナグマ	その他	中型獣-猛	ウマ	イノシシ	シカ	イノシシもしくはシカ
IX	1F−15(南北)	ベルト3c		Scap？	Vert 4		Hum.L (ヒミズ)			Ul.R V.tho Phal 3 R.$\underline{I}$ 2,L.$\underline{I}$ 4 R.$\overline{I}$ 4,L.$\overline{I}$ 4 M^2 M(ハタ) 6						P.M Phal 1		歯(fr)2	歯(fr)4	
	1F−20	ベルト3c			Vert	Cora.R	Hum.L2,R3 mand.R2,L4 Ul. 4 Hum.R (ヒミズ)	M 歯(fr)	M	Cal.L2,R2 Fem V.cau Tib.2 Scap.L Ul.R Hum.L Mct Car/Tar53 Phal 10 R.$\underline{I}$19,L.$\underline{I}$20 R.$\overline{I}$6,L.$\overline{I}$13 $\underline{I}$・$\overline{I}$(fr)35 歯52 歯(ハタ)38		I								
	1F−25	ベルト3c			Vert 3	Mt(d)	mand.R3,L Hum.L (ヒミズ) Rad Fem(d) 歯 4			Scap.R.L Ul.L Hum(s)L Fem(p)L Mct 2 Phal 9 V.cau5 Tal.L Cal.R Car/Tar 4										
	1F−25	ベルト3c								R.$\underline{C}$ R.$\underline{I}$ 5,L.$\underline{I}$ 7 R/L.$\underline{I}$ R.$\overline{I}$ 6,L.$\overline{I}$ 4 R/L.$\overline{I}$ M 9 M(ハタ) 7										
	1F−05	3c					mand.L			L. $\underline{I}$						fr.		Rad(d)L Pha l	Cal(d)R 歯(fr)	
	1F−09	3c		Vert 指骨2	Vert 3	fr.				R. $\underline{I}$ (ハタ)		Mct(d) L.M_2	L・M_1(fr) R・P^1					Mct M(fr)	Phal 2(p)	
	1F−10	3c			Vert 2	fr.	Hum.L					R.I_3				fr. Phal 1		R.M^1 歯(fr)4	乳歯(fr) 歯(fr)3	
	1F−14	3c		Tib ／ Fib(fr)	Vert 5					Tib.R Fem.R.L max(fr) M(ハタ)		R.M^1,L,M^1 R.dm_4 L.dm_4	Phal 1			Pel.R		p.t. Mc(fr) L.P_3？ P 歯(fr)	Tal(fr) R.M_1 M(fr) Ant(fr)	
	1F−15	3c			Vert 4		mand L Rad					M(fr)2				Hum(d)R Mt(p) Phal 1		歯(fr)4	M(fr) I(fr)2 Phal(d) Pha3(Ⅱ/Ⅴ) R.P_3	
	1F−19	3c																♂L.$\underline{C}$	R.M^1	
	1F−20	3c			Vert 2		Hum.R.L Rad.L.2 Phal 1			R.$\underline{I}$ 2 L.$\overline{I}$		R.dm^4 L.dm^3 R.dm^2 L.P^3 R.P^2 R.M^2 R.P^4			L.M_1 (テン)			mand(fr) Ax(fr) p.t tarC.L R.M^2 P(fr)	L.M_3	
	1F−25	3c						M								$\overline{I}$		Phal 1(d) 歯(fr)	R.$\overline{I}_{3or3}$	
	2F−16	3c			Vert 2		Hum.L					R.dm^3 Phal 3	R.P^2						Tal Tib(d)R	
	1F−09・19	3c		Vert		fr.	Hum.R (ヒミズ)			Fem.L		R.dm_4(fr)						P(fr)3 M(fr) 乳切歯	M(fr)	
X	1F4号住柱穴①	ブロック3c				Ul(p)R (スズメ目)														
	1F4号住柱穴②	ブロック3c								Tal.L Vert.(fr)										
	1F4号住柱穴③	ブロック3c													fr.					
	1F4号住柱穴④	ブロック3c								R$\overline{I}$(ラタス)								M(fr)		
	1F4号住柱穴⑤	ブロック3c													fr.					
	1F4号住柱穴⑥	ブロック3c													fr.					
	1F4号住柱穴⑦	ブロック3c													fr.					
XI	2F−14	ブロック3c																	L.M^1	
	2F−24	ブロック3c													fr.					
	3F−11	ブロック3c																P_2？		

鳥類・哺乳類遺体組成表の凡例

＜記載方法＞

骨：部位、(残存箇所)、左右、点数

歯：左右、部位、(残存率)、点数

＊点数は単数の場合は記さない。

＊残存箇所　p：近位端、d：遠位端、fr：破片

＜部位名＞

Ant	鹿角	V.cer	頸椎	Pel	寛骨	Phal 1	基節骨	Rib	肋骨
fro	前頭骨	V.tho	胸椎	isch	恥骨	2	中節骨	Fib	腓骨
mand	下顎骨	V.lum	腰椎	Fem	大腿骨	3	末節骨	Cora	烏口骨
max	上顎骨	V.sac	仙椎	Tib	頸骨	Car	手根骨	Pat	膝蓋骨
p.p	岩様部	V.cau	尾椎	Tal	距骨	car Ⅰ	中間手根骨		
p.t	鼓室部	Scap	肩甲骨	Cal	踵骨	car 2+3	第二・三手根骨	C	犬歯
Zyg	頬骨	Hum	上腕骨	Mc	中手骨	Tar	足根骨	I	切歯
Vert	椎骨	Rad	橈骨	Mt	中足骨	tar C	中心足根骨	P	小臼歯
At	環椎	Ul	尺骨	Mct	中手・中足骨	tar 2+3	第二・三足根骨	M	大臼歯
Ax	軸椎								

第22表　両棲綱・爬虫綱・鳥綱・哺乳綱　遺体出現数一覧　　3b層

種類 / グリッド	層位	両棲綱 カエル	爬虫綱 ヘビ	鳥綱	哺乳綱 モグラ類	ウサギ	ムササビ	ネズミ	イルカ	イヌ	タヌキ	アナグマ	その他	中型獣一括	ウマ	イノシシ	シカ	イノシシもしくはシカ
1D-10・15(確認)	3b									R.C								
1D－09	3b										RM_2							
1D－10	3b															♀R.C p.p	M(fr)	
1D－14	3b															$L.M_1$ M(fr)		
1D－15	3b									$L.P^3$						$L.M^3$2	P(fr)	
1D－19	3b															p.p 2 M(fr)		
1D－20	3b			phal 1						$R.M_1$						p.p		
1D－24	3b												fr					
1D－25	3b												fr					
2D－06	3b				Hum			L.C	歯	R.C $R.dm_4$						$R.I_1$ $L.M^3$ 歯(fr)	Ant(fr) M_1(fr)	
2D－07	3b									$L.M^1$				phal 1		M(fr)3	P (fr)	
2D－08	3b		Vert							R.P(又は乳)						Rad(P)R	$R.M^1$	
2D－09	3b												fr					
2D－11	3b		Vert		Hum.R					$L.P^3$ $L.dm^4$						M_1 $L.P_2$ phal 2		
2D－12	3b															$R.M^2$ P(fr)	M(fr)	
2D－13	3b					M							歯			M(fr)3	$R.P_4$ 歯(fr)3	
2D－14	3b				Hum.R					$L.I^{1cr2}$						$L.P^4$(fr) 歯(fr)2	歯(fr)	
2D－15	3b												fr					
2D－17	3b		Vert 2							$R.m_3$ C(fr)						$R.i^3$ M(fr)2 P (fr)		
2D－18	3b													At(fr)	歯(fr)	歯(fr)	歯(fr)	
2D－18(確認)	3b															I ?	$L.dm^1$	
2D－19	3b													phal 3		$R.M^2$	M(fr)	
2D－20	3b									Mct(fr)							M(fr)	
2D－21	3b					M					$R.P_1$?					$R.I_1$	$R.P_3$	
2D－22	3b															M(fr)	Ant(fr)	
2D－23	3b		Vert							$R.M_1$(fr)				M	I $L.M_2$?	$L.I^3$ M(fr)	$L.I_1$ M(fr)	
2D－24	3b		Vert													Pel.L 歯(fr)		
2D－25	3b				Hum.R										$R.P_4$?	歯(fr)	$L.M^1$	
1E－10	3b															U1.L $L.I_2$	Mt(p)R p.p	
1E－15	3b																Tal L Hum(d)R Ant(fr)2	
1E－25	3b												fr					
2E－02	3b				Hum.L								Hum.L (テン)			U1.L $L.I_1$ M(fr)2	M(fr)	
2E－03	3b																歯(fr) Tal(fr)	
2E－04	3b														M(fr)	M(fr)	$L.P^4$ $R.M_2$	
2E－05	3b															I(fr)	歯(fr)	
2E－07	3b																Tal.L	p.p (fr)2
2E－08	3b															$L.M_1$ p.p (fr) Mct(fr) 歯(fr) P (fr)	M(fr)	
2E－09	3b				Hum.R										$R.P_2$? M(fr) $L.P^2$	$R.M_3$ M(fr)	$L.M_3$?	
2E－10	3b		Vert			M (fr)									$L.M^1$? $L.M_3$?		M(fr)	
2E－11	3b				mard.L	I・R									$R.M^1$? I(fr)	$L.I_1$ M(fr) Phal 2	Fem(S)R.L Hum(S)R Tar(fr) $L.dm^4M^1$ $L.M_2$ M(fr) P (fr)	
2E－12	3b					M (fr)				R.C Phal 1 $L.dm_4$						Ldm^4 $R.P^3$(fr) M(fr) p.p (fr)?	M(fr)4	
2E－13	3b															$L.dm^{3\cdot4}$ $R.I_{1\cdot2}$(fr) M(fr)	M(fr)	
2E－14	3b				Hum mard.L	I・L			p.p				$L.P^4$ (アナグマ)		I	Mct 歯(fr)	p.p 歯(fr)	
2E－15	3b				Hum.L							$L.M_1$			M(fr)	R.M_3 M(fr)	M(fr)	
2E－16	3b															歯(fr)	歯(fr)	
2E－17	3b		Vert 2		Hum.R						M_1(fr)			M_3 Mct(fr)	I_2	M^2?(fr) $L.M^1$(fr) P (fr)3 歯(fr)2 Phal 2	Mc(fr) 歯(fr)3	

第22表　つづき

種類 / グリッド	層位	両棲綱 カエル	爬虫綱 ヘビ	鳥綱	哺乳綱 モグラ類	ウサギ	ムササビ	ネズミ	イルカ	イヌ	タヌキ	アナグマ	その他	中型獣一括	ウマ	イノシシ	シカ	イノシシもしくはシカ
2E－19	3b															Tal(fr)L		
2E－20	ベルト3b															L.M^3	L.M_2	
2E－23	3b		Vert 2										肢骨(ネズミ or モグラ)			R.M^2(fr) L.M_1	L.M^1	
2E－24	3b															R.M^2(fr)	Mt(p)R 歯(fr)	
1F－10	ベルト3b															R.I^1	Scap.L Ant(fr)	
1F－15(東西)	ベルト3b												fr					
2F－01	ベルト3b																Fem(p)R	
2F－02	ベルト3b																Hum(d)R	
2F－03	3b																歯(fr) p.p？	
2F－04	3b		Vert													L.$P^{3}M^{3-1}$	L.M^2	
2F－05	ベルト3b															L.M_3	Mct(d) L.M^1(fr) Mt(p)	
2F－08	3b															歯(fr)3		
2F－09	3b				Hum.L											M(fr)		p.p(fr)
2F－10	3b																歯(fr)	
2F－11	ベルト3b												fr					
2F－13	3b															M(fr)	M(fr)	
2F－17	3b															歯(fr)		
2F－18	3b		Vert													L.I^1	M(fr)	
2F－19	3b																Tal.L	
2F－21	3b						L.I_1									L.dm_4(fr)		
2F－22	3b															Phal 2 M(fr)		
2F－23	3b																Hum(d)R	
－	3b		Vert															

アナグマ　Meles meles

上顎骨臼歯１点が唯一の出土標本である。貝塚の獣としては多い種類であるが、下総台地の貝塚では多くない。

奇蹄目　Order Perissodactyla

ウマ　Equus caballus

おそらく近・現代のものの混入であろう。

偶蹄目　Order Artiodactyla

イノシシ科　Famiry Suidae

イノシシ　Sus scrofa

本貝塚動物遺体の主体種であり、大型獣類としてはシカに次ぐ出土量がある。各グリッドで出土している遺骸は、遊離した歯牙と四肢骨であるが、四肢骨では肩甲骨、上腕骨、橈骨、寛骨、大腿骨などは各１点位の出土数で、その他では手根中手骨、足根中足骨、指趾骨の一部の骨をみたのみである。遊離歯牙のうち後臼歯は31点、歯牙を付ける顎骨は４点でそれらはいずれも乳臼歯をつけるものであった。乳臼歯のみの遊離歯はこの他に６点があり、このような乳臼歯をもつ個体が少なからずあったことを示している。

シカ科　Famiry Cerrvidae

ニホンジカ　Cervus nippon

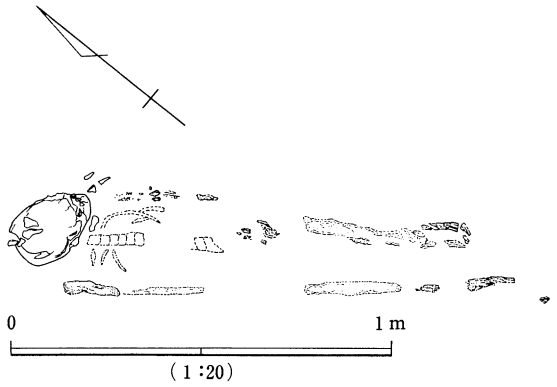
大型の獣類としてもっとも多くの遺骸を出土したものである。調査地区内での全体の出土の状況は上述したイノシシとほとんど変わることがなく、このことはこの両主が併せて狩猟されていたことを示している。遺骸の保存はやはり良好ではなく、かなり風化した感じの骨になっていた。

椎骨では環椎３点、主要四肢骨では肩甲骨１、上腕骨８、橈骨３、大腿骨６、脛骨４といった数が査定されている。歯牙の数でもこれ以上の個体数の推計はできないようである。また、シカにも乳臼歯が検出されている。イノシシのような下顎骨の標本ではないが２個体はあったはずである。

あとがき

本貝塚は貝塚自体の規模も小さく、貝層の形成も部分的に残る程度のものであったが、埋存する動物遺体の密度は高く、さまざまな包含層の形成をみた。また動物遺体の種類、埋存量も多く、当時の動物相の在り方について貴重な資料を得たのである。これについては動物遺体の各項目でその内容を表示し、若干の説明も加えたのでここでまた述べることは控えたい。また報文の余裕に限度があったために、計測値などを記載することはできなかった。また、貝層の規模が小さいために、大型獣類の遺骸の保存条件に欠ける点があったことや、小型の魚類の骨格の保存条件がやはり不充分であったようである。しかし、これも貝層形成時の環境の状況を示す点として考えていかねばならない点であろう。

なお特に脊椎動物について注目されることは、魚類のなかに多数の小型の種類、イワシ類、サヨリ、キスなどか検出されたことで、貝類の資源と同様に、当時の東京湾内とその支谷内にこうした魚が進入する機会があり、それが海の資源の基本的な豊かさを表しているのではないかということである。とはいえ、ハマグリのように狭い支谷内での採集は、この資源の成育を抑制することになったし、魚類でもタイ類などの中型以上の魚の数は多いとは言えない。しかし、これもまた当時の生活の基盤の一面を表すものであり、いろいろな種類のものを少しづつというのが資源の枯渇を抑え、持続させていくための基本的な考えかたであったのであろう。



第71図　1号人骨

d　人骨（第71図）

人骨は埋葬された状態で1体検出された。検出地点は2F-10 でⅣブロック貝層の下に位置するが、貝層下面より30cmほど下の基本層序5層（遺物包含層）中に存在した。したがって、骨の保存状況は悪く、頭骨以外の部位はその痕跡をわずかに止める程度の残存状況であった。埋葬姿勢は伸展葬で、頭位は北西方向である。

この他、埋葬状態ではないが次のように人骨の破片が検出された。

第23表　貝層・遺物包含層出土人骨出現数一覧

No.	グリッド	層	部位	点数	備考
1	1F−15（東西）	ベルト4層	下顎骨	1	M3未萌出 4号住居フク土
2	1F−15（東西）	ベルト4層	上腕骨(L)	1	遠位端 4号住居フク土
3	1F−05	ベルト5層	中手・中足骨	1	6号住居フク土
4	2F−12	ベルト5層	上顎切歯	1	
5	2E−02	4〜5層（貝層下）	前臼歯	1	
6	2F−01	ベルト3c層	臼歯	1	虫歯あり Vブロック貝層
7	1F−05	ベルト3c層	犬歯?	1	摩滅顕著 Vブロック貝層
8	2F−12	ベルト3c③	臼歯	1	Ⅵブロック貝層
9	2F−12	ベルト3c③	切歯	1	Ⅵブロック貝層
10	2F−07	3c層	切歯	1	Ⅵブロック貝層
11	2F−07	3c層	基節骨	1	破片 Ⅵブロック貝層
12	2F−12	3c層	臼歯	1	Ⅵブロック貝層
13	1F−14	ベルト3c層	末節骨	1	Ⅸブロック貝層
14	1F−14	ベルト3c層	犬歯	1	Ⅸブロック貝層
15	1F−14	ベルト3c層	肋骨	1	Ⅸブロック貝層
16	1F−15（東西）	ベルト3c層		1	胎児骨？ Ⅸブロック貝層
17	1F−10	3c層	乳切歯	1	Ⅸブロック貝層
18	1F−10	3c層	切歯	1	Ⅸブロック貝層
19	1F−14	3c層	切歯	6	Ⅸブロック貝層
20	1F−14	3c層	犬歯	3	Ⅸブロック貝層
21	1F−14	3c層	臼歯	2	Ⅸブロック貝層
22	1F−14	3c層	乳臼歯	1	Ⅸブロック貝層
23	1F−15	3c層	耳骨	1	Ⅸブロック貝層
24	1F−15	3c層	乳切歯	4	Ⅸブロック貝層
25	1F−15	3c層	未萌出臼歯	3	Ⅸブロック貝層
26	1F−15	3c層	臼歯	1	Ⅸブロック貝層
27	1F−15	3c層	犬歯	3	Ⅸブロック貝層
28	1F−15	3c層	切歯	4	Ⅸブロック貝層
29	1F−20	3c層	臼歯	1	Ⅸブロック貝層
30	1D−15	3b層	岩様部?	1	幼児
31	2D−11	3b層	乳切歯	1	
32	2D−12	3b層	臼歯	1	虫歯あり
33	2D−15	3b層	歯根部	1	
34	2D−21	3b層	臼歯	1	
35	2D−23	3b層	臼歯	1	虫歯あり
36	2D−23	3b層	前臼歯	1	虫歯あり
37	2D−25	3b層	頭蓋骨片	1	被熱
38	2E−02	3b層	臼歯	1	
39	2E−02	3b層	前臼歯	1	
40	2E−14	3b層	前臼歯	1	
41	2E−15	3b層	未萌出臼歯	1	

e　植物（炭化物）

植物遺体としては、炭化物というかたちで検出されているが、樹種同定をおこなっていないため詳細は不明である。ただし、炭化物の中にはクルミなどの堅果類の殻だと肉眼で判断できるくらい良好な保存状況を呈しているものもある。植物遺体の種類についてはこれ以上触れることができないので、検出量からみた事実記載のみしておくこととする。3c・3b層で検出された炭化物の重量を第5・6表に記した。また、ブロック・層位・サンプル地点別の検出量の変化が把握しやすいように、第29・30図にグラフで示した。炭化物の大きさは、4mm以上のものも多く、簡易処理サンプル・詳細処理サンプルの両方で検出されている。3c層では全てのブロックから検出されているが、Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ・Ⅸブロックから多く出土しており、特にⅨブロックでは極めて多量に検出されている。また、数字として明確に表れなかったが、Ⅵブロックの②層中には炭化物層として肉眼でとらえられるほどのものが存在していた（図版5・14）。また炭化物を多く検出するブロックでは、ⅥブロックやⅨブロックのようにどのサンプル地点でも同程度にみられるものと、ⅤブロックやⅦブロックのようにサンプル地点によって量的に集中がみられるものとがある。

Ⅳ　遺物包含層

1　遺物包含層の調査方法と概要

調査方法（第72図）

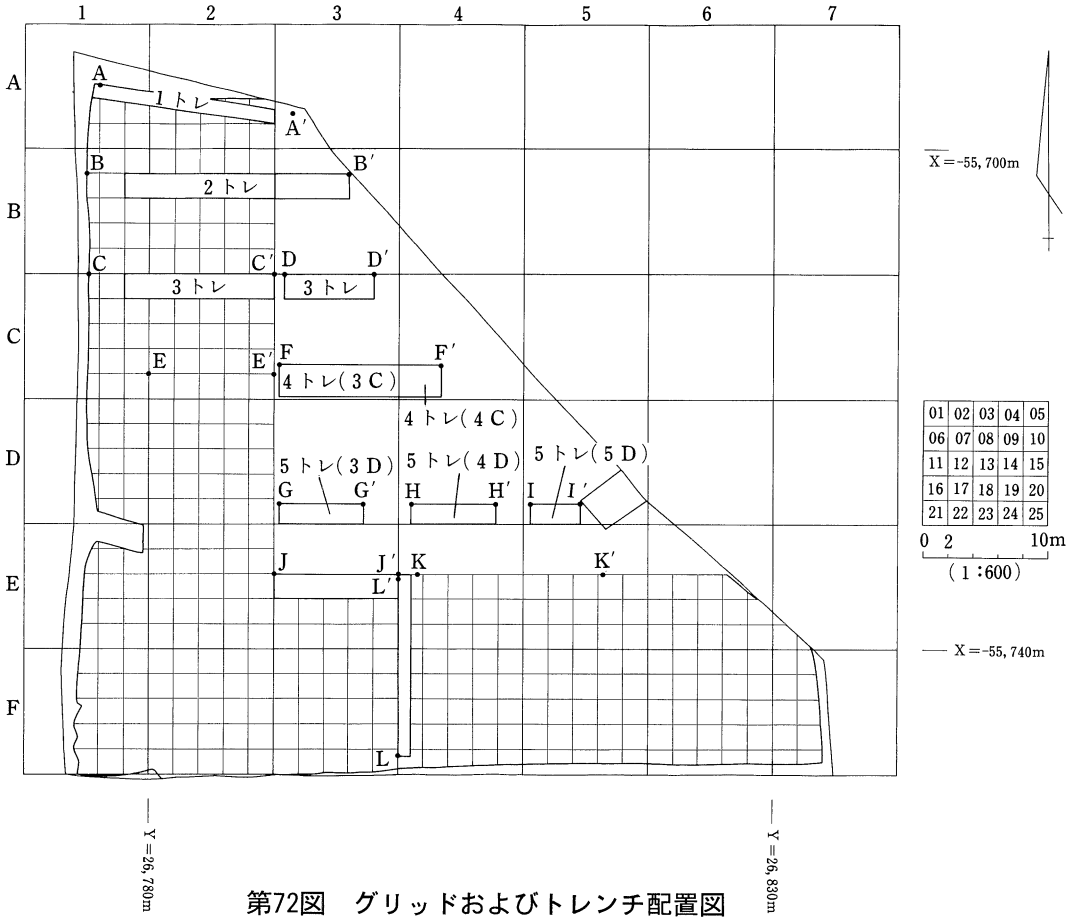
遺物包含層の調査方法は、調査区西側と南側の平坦部については２ｍ四方のグリッドごとに層位別にとりあげ、調査区中央の谷部分では、東西方向に入れたトレンチ内で層位ごとにとりあげた。

層　位（第79・80図）

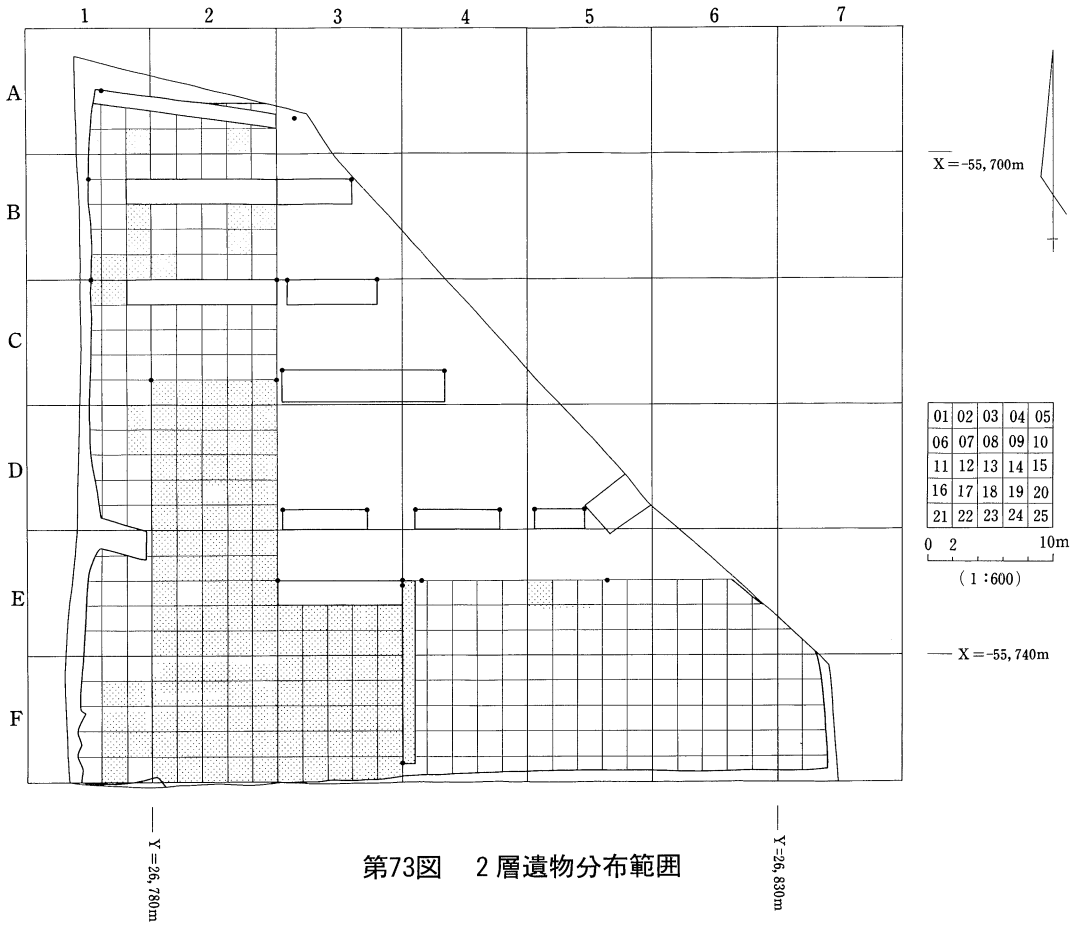
遺物包含層の層位は次のようになっている。２層：ローム粒子を含む明茶褐色土層（新期テフラと考えられる）、３層：ローム粒子を若干含む暗褐色土層、４層：やや粘性のある暗茶褐色土層、５層：やや粘性のある黒褐色土層、６層：粘性の強い暗茶褐色土層、７層：暗黄褐色土層（ソフトローム漸移層である）。

分布状況（第79・80図、第73～78図）

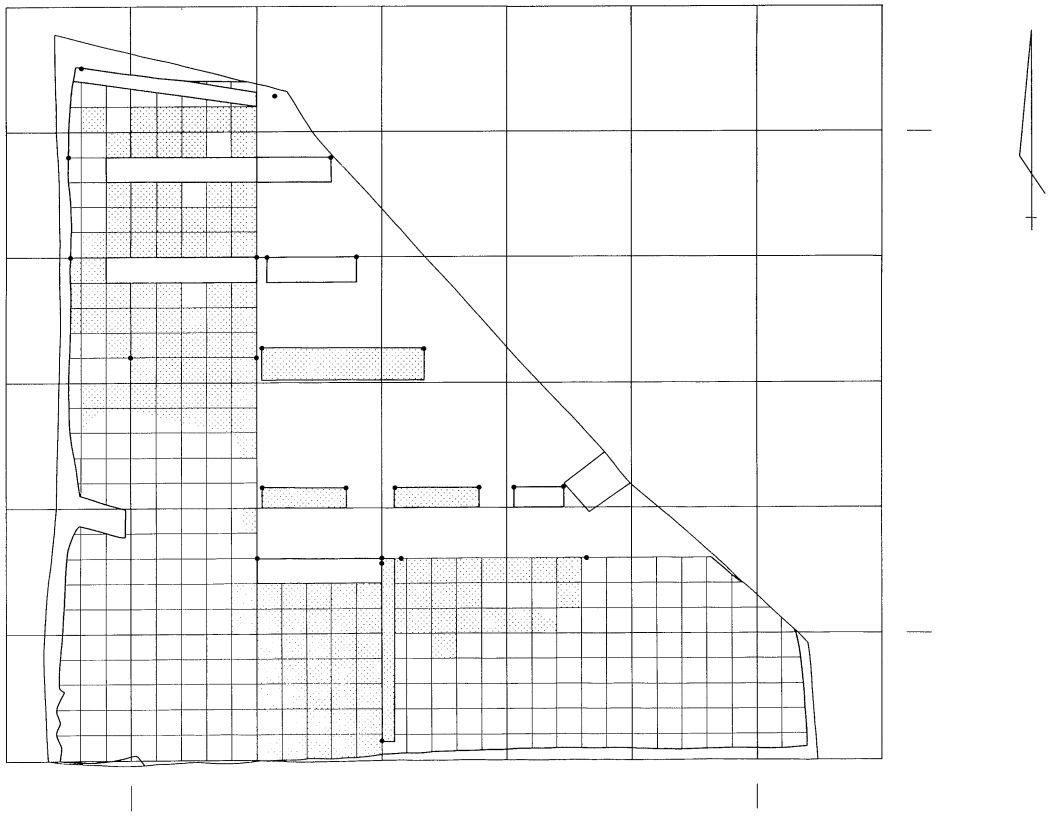
２層は調査区のほぼ全域に分布するが、谷部にいく程厚く堆積している。ただし、平坦部の調査区南東域では、４層との区分がかなり困難になっている。また調査区南西域では貝塚の上層に分布が認められ、２層は貝塚形成後に堆積したものと考えれる。３層は調査区のほぼ全域に分布するが、調査区南西域の貝塚部分には存在しない。貝塚とほぼ同時期に形成された層と考えられる。４層は主として調査区南側と谷部分に分布するが、貝塚部分の下層では５層との分層の困難なところもある。貝塚



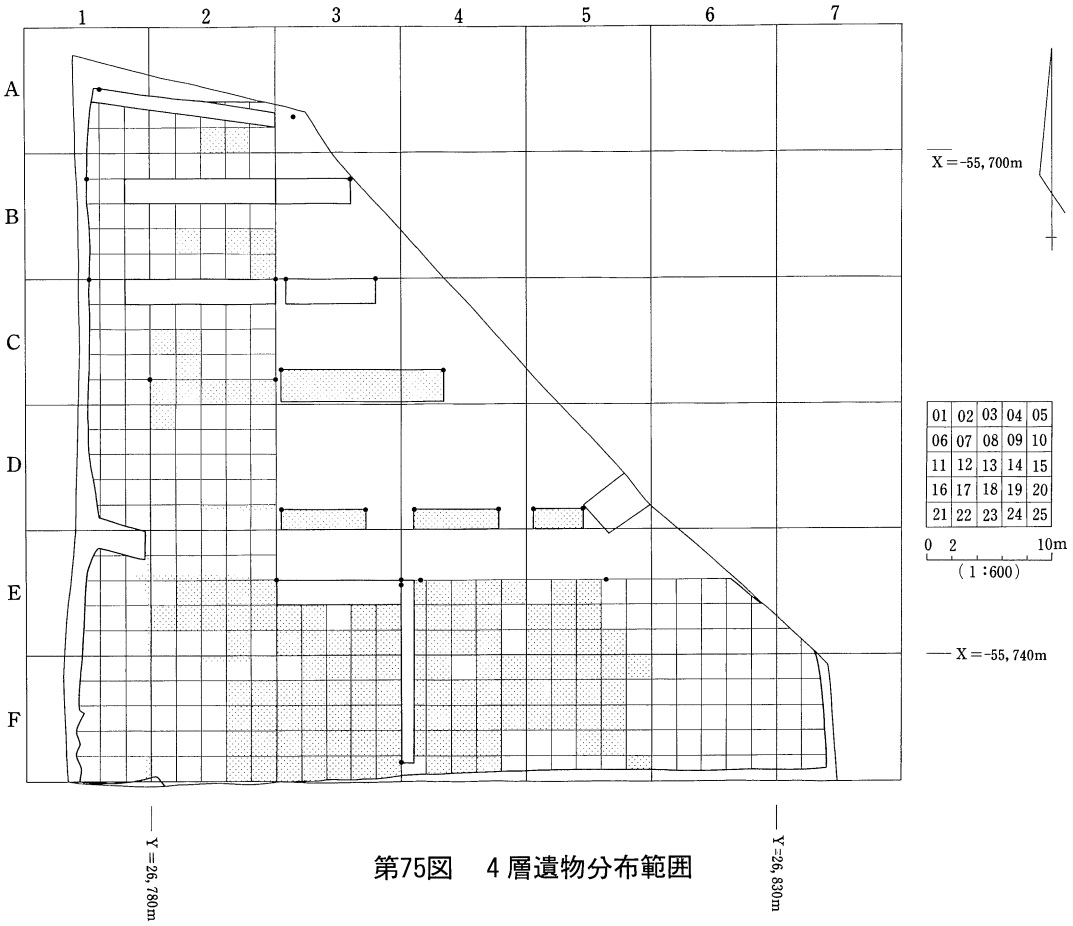
第72図　グリッドおよびトレンチ配置図



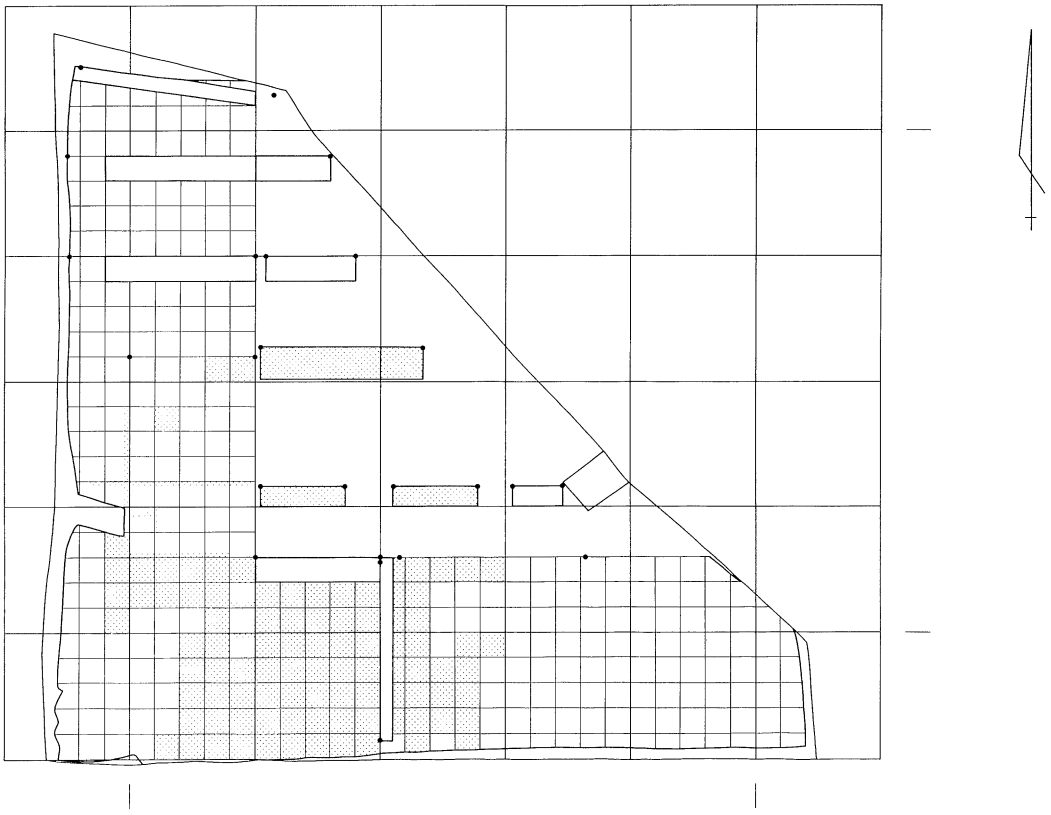
第73図　2層遺物分布範囲



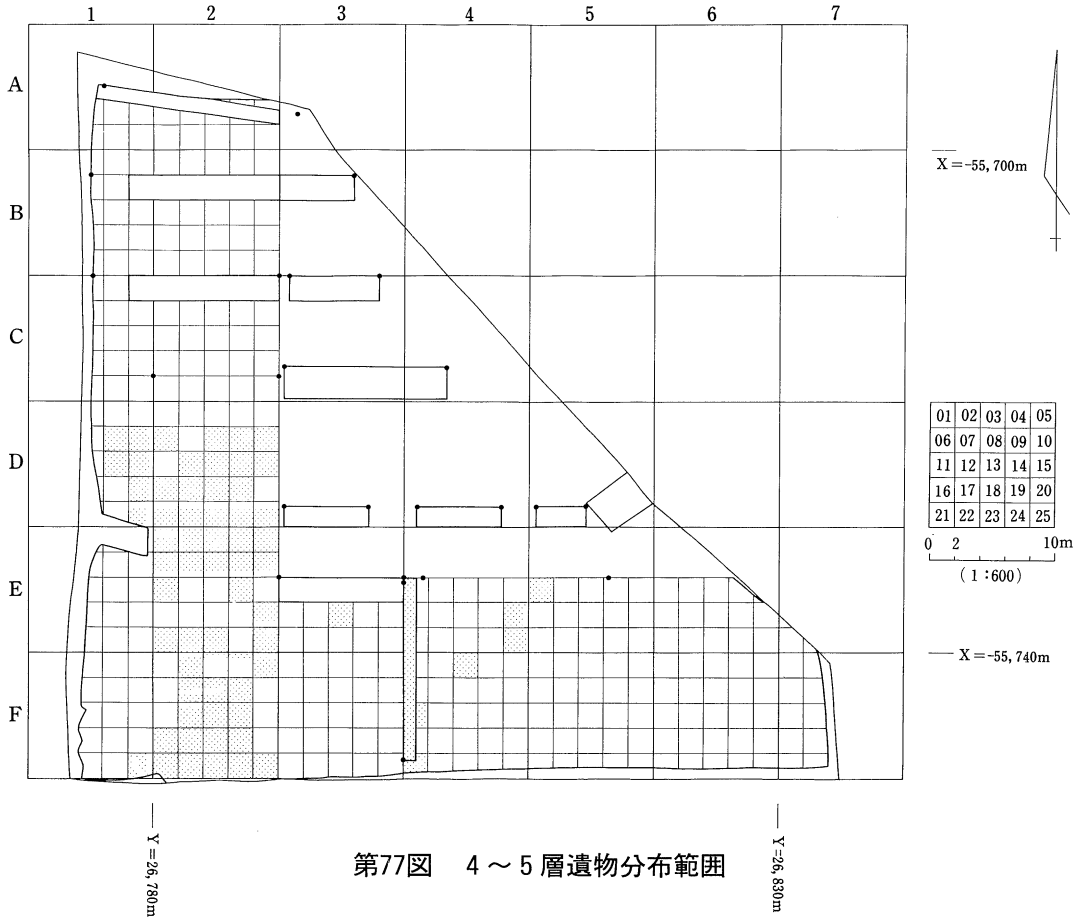
第74図　3層遺物分布範囲



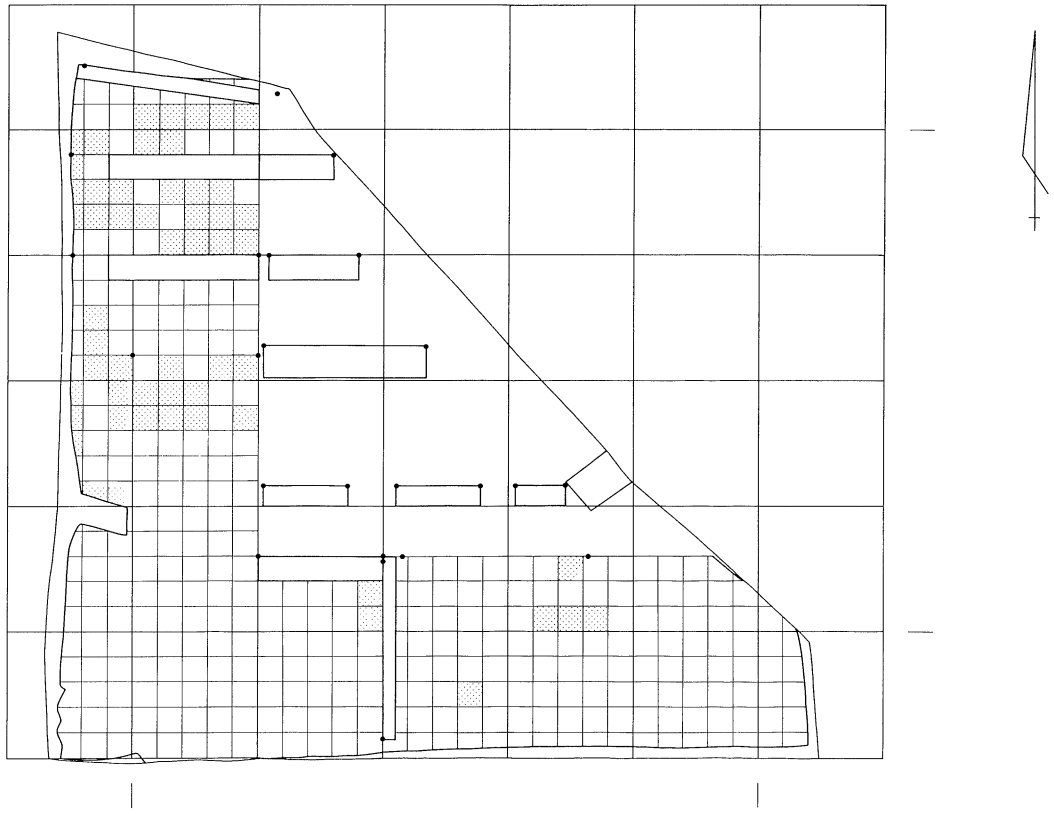
第75図　4層遺物分布範囲



第76図　5層遺物分布範囲



第77図　4～5層遺物分布範囲

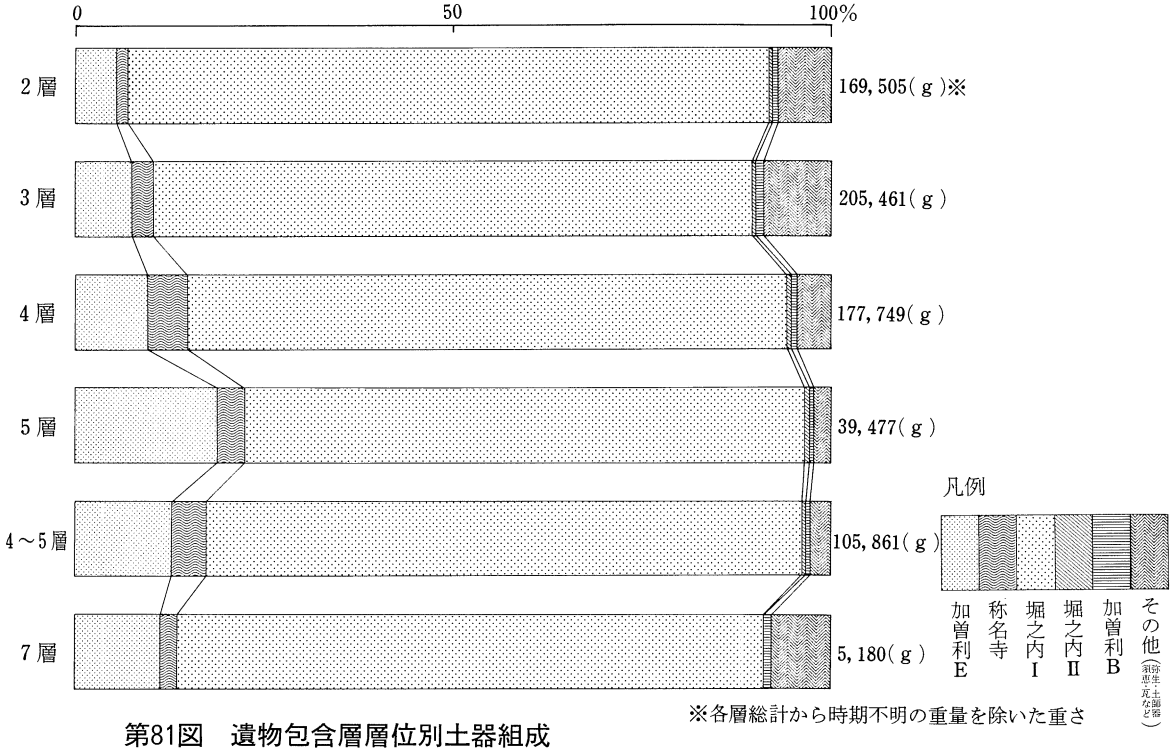


第78図　6・7層遺物分布範囲

形成以前に堆積した層である。5層は主として調査区南側と谷部分に分布する。貝塚形成以前に堆積した層である。6層は谷部だけに分布する

遺物量と内容（第81図）

層別の遺物の包含状況は、3層中が最も多く、2・4層が同程度、5層になると少なくなり、6・7はほとんど包含しない。また、2・3層に比べ4・5層の遺物に大型の破片が目立つことも特徴としてあげられる。遺物の内容（時期）は、各層とも約80%が堀之内Ⅰ式という点で相違ないが、貝塚形成以前である4層以下に加曽利E式・称名寺式がやや多くみられる傾向はある。



第81図　遺物包含層層位別土器組成

2　包含層出土の人工遺物

a　土　器

2　層（第24表・第82～84図）

1～28は加曽利E式の深鉢形土器の口縁部および胴部の破片である。1・2は口縁部直下に無文部をもち、その下の縄文部内に磨消がみられる。12・13・15・16・18～21は口縁部直下に無文部をもち、その下全面に縄文が施される、口縁部がやや内湾する深鉢形土器の口縁部破片である。

29～49は称名寺式の深鉢形土器の口縁部および胴部の破片である。29～40・42は沈線による区画内に縄文が充填される。43～49は沈線による区画内に列点を有するものである。41は把手部分の破片である。頂部は円形にくぼみ、横位に2条の沈線がめぐる。また沈線の下に小孔が一つある。

50～109 は堀之内Ⅰ式である。50～57・59～65・68・69・72～76・80・81は、地文に縄文をもちその上に沈線による直線・曲線文様を施すものである。59・62には紐線文とその上に8の字状の貼付文がみられる。78・83～85・87・88は地文に縄文をもたず、半截竹管や櫛状の工具による直線や曲線の

第24表　2層グリッド別土器組成

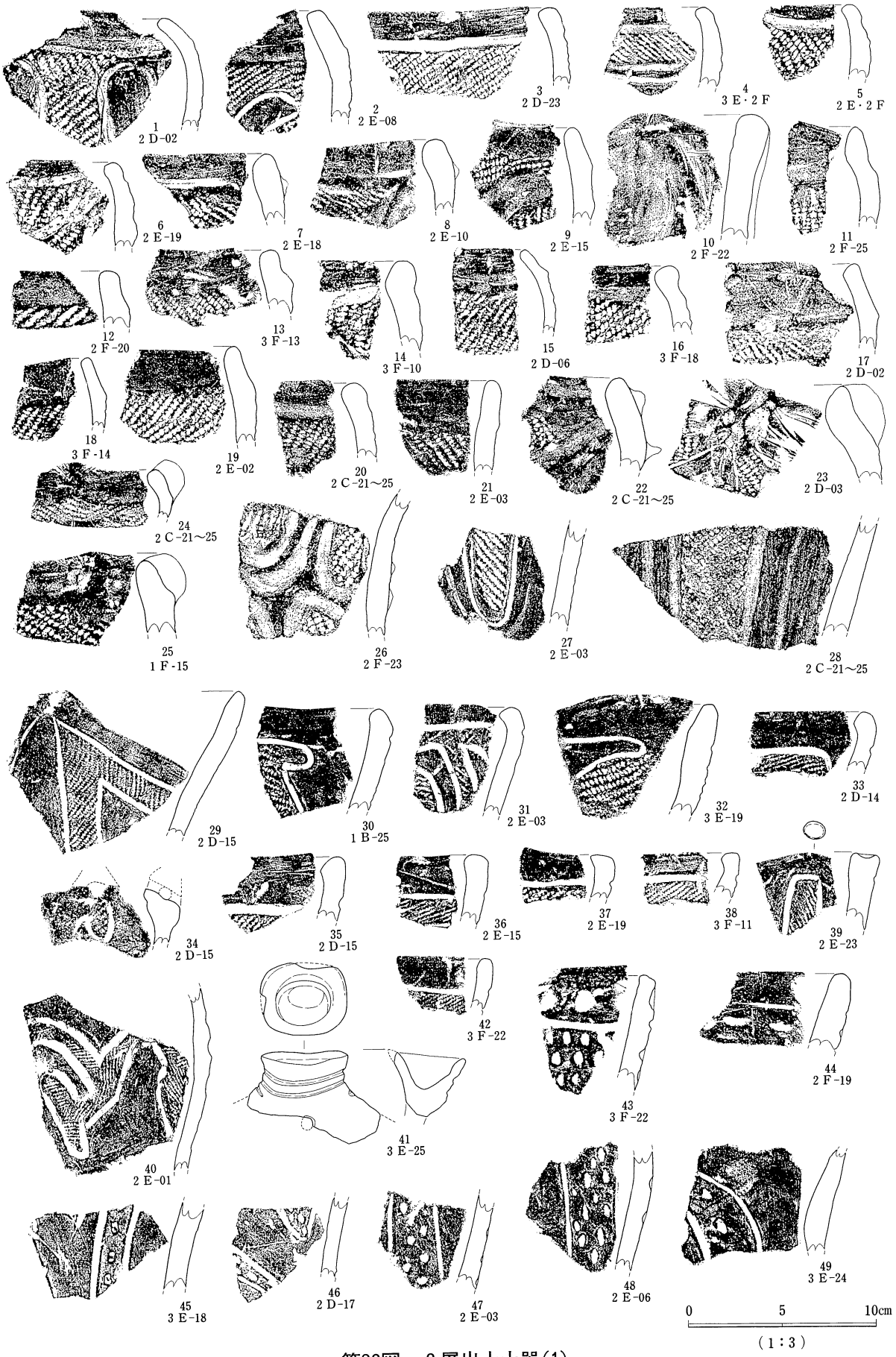
（重量比：単位ｇ）

グリッド＼型式	加曽利E	称名寺	堀之内Ⅰ	堀之内Ⅱ	加曽利B	不明	その他※	計
1A－23			8				2	10
1A－25			77				20	97
2A－24			119			71	27	217
1B－15			22			14		36
1B－20			43			11		54
1B－23						23	1	24
1B－24			136			114	30	280
1B－25	48	42	709	12		495	168	1474
2B－14	12		46			51		109
2B－15			120			51	5	176
2B－19	8		299		3	67	23	400
2B－21	28		64			52	11	155
1C－03			42			20		62
1C－04	102		1019			73	1	1195
2C－21	29	8	122	6		12	8	185
2C－22			255		6	43	11	315
2C－23			183			72	50	305
2C－24			157			110	13	280
2C－25			374			152	15	541
2C-21～25(確認)	775	128	4691	71	38	2000	247 注1	7950
1D－05	198		661		4	55	17	935
1D－09(確認)	138		257			210	28	633
1D－10	34		426			40		500
1D-10・15(確認)	80		669			87	43	879
2D－01	245		2032	26		202	35	2540
2D－02	535	15	3137	70	35	1120	300	5212
2D－03	509		3213		42	1258	121	5143
2D－04			1695	68		520	111	2394
2D－05	165	6	1889			2450	240	4750
2D－06	83	29	995			205	13	1325
2D－06(確認)	57		247	8		121	30	463
2D－07	13		930			520	122	1585
2D－08	144		2041	5	2	800	140	3132
2D－09	169		1435		14	1150	132	2900
2D－10	191	64	2575			2100	160	5090
2D－11			490			102	18	610
2D－12	110		1236			214	20	1580
2D－13	36		1674	7	34	650	79	2480
2D－14	139	36	1973	13	19	950	160	3290
2D－15	85	221	3166	90		2400	83	6045
2D－16	30		231			17		278
2D－17	22	23	1309	4		49	38	1445
2D－18	80	7	972			214	3	1276
2D－19	29	26	1370		5	720	13	2163
2D－20	72	62	875			640	26	1675
2D－21	64		379			86	11	540
2D－22	162	11	1164		21	790	45	2193
2D－23	215	63	3705	13	17	145	86	4244
2D－24	98		2698	10	10	1050	67	3933
2D－25	103	95	2531	29	53	1820	132	4763
2D-21～25(ベルト)			227			130	20	377
2E－01	110	102	866			130		1208
2E－02	154	40	1976			265	60	2495
2E－03	166	71	2118			420	134	2909
2E－04	50	28	3279		42	1065	136	4600
2E－05	54	30	1548			210	68	1910
2E－06		107	2280	39		785	67	3278
2E－07	60	35	1353			18	9	1475
2E－08	101	13	1802			134		2050
2E－09	36	9	2416		58	520	61	3100
2E－10	59		2312	65	45	930	89	3500
2E－11	104	8	781			77	6	976
2E－13	48	18	1289			370	1	1726
2E－14	21		1839		16	560	64	2500
2E－15	110	23	2006	18	19		74	2250
2E－16	24		563			56	2	645
2E－17	104		553		19	99	25	800
2E－18	135		1347			345	28	1855
2E－19	100	28	1016			555	1	1700
2E－20	49		1552		15	600	84	2300
2E－21	28	21	714		8	153	36	960
2E－22	11		761			203	20	995
2E－23	66	27	1018		21	11	7	1150
2E－24	29		822		14	240	20	1125
2E－25		14	886		5	152	58	1115
1F－09			48			12		60
1F－10			295	6		9		310

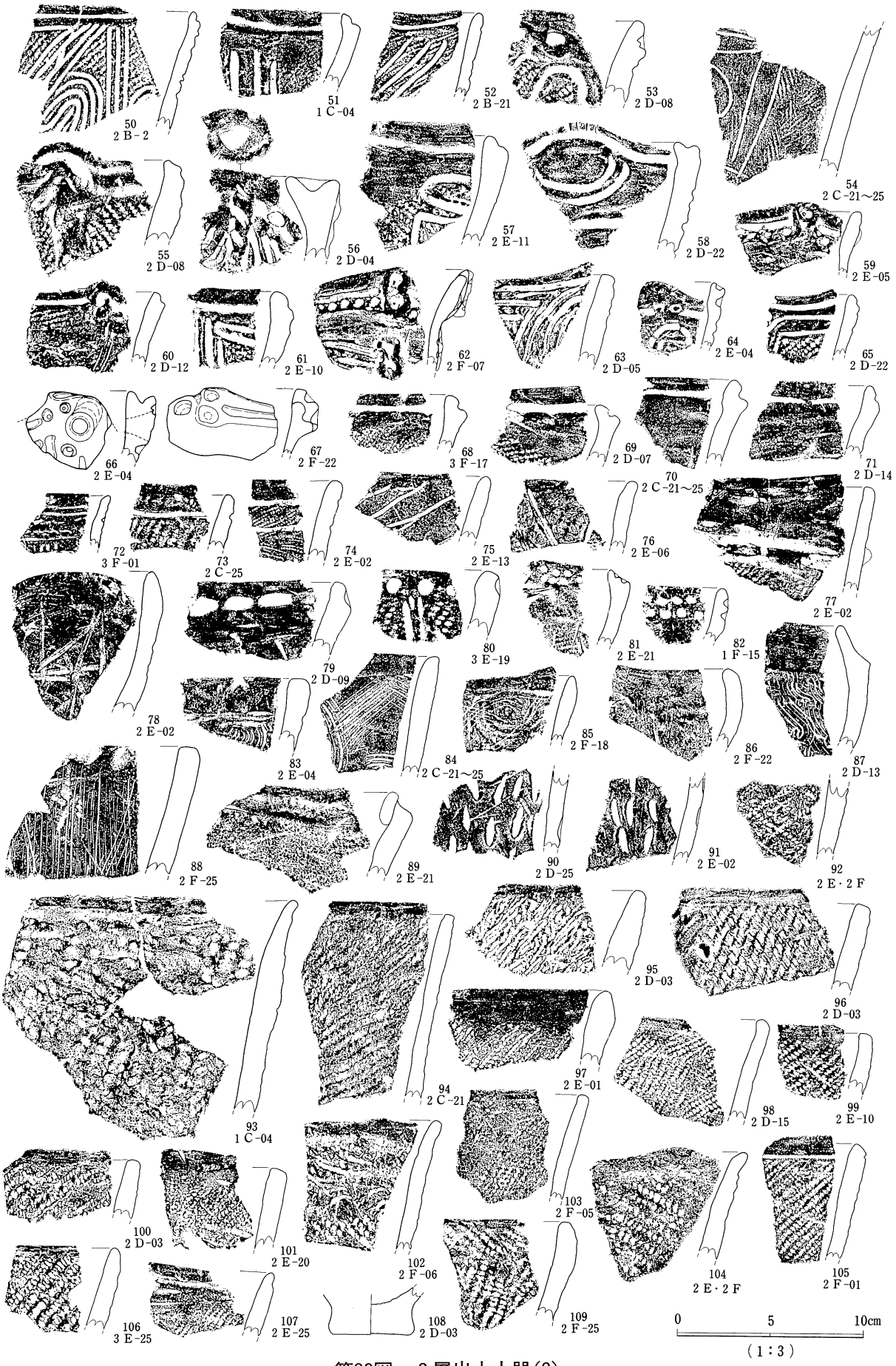
グリッド＼型式	加曽利E	称名寺	堀之内Ⅰ	堀之内Ⅱ	加曽利B	不明	その他※	計
1F－14			176			11	1	188
1F－15	68		753			254	15	1090
1F－19			221			83		304
1F－20	44	10	393	10		260	47	764
1F－24			54			2		56
1F－25	21		37			3	7	68
2F－01			743			51	2	796
2F－02		29	357			40	19	445
2F－03	18	8	687			87		800
2F－04	25	11	974		6	159	42	1217
2F－05	43		1538	49	121	785	164	2700
2F－06			168			17	15	200
2F－07	220		218		15	10	2	465
2F－08	43	11	398			123	4	579
2F－09	31		737	18		200	43	1029
2F－10	23	7	1733			560	177	2500
2F－11	77		683	5	6	220	93	1084
2F－12	200	7	1852		16	380	111	2566
2F－13	48		842			660	69	1619
2F－14	229	23	614		28	255	118	1267
2F－15	21	15	973	7	21	475	148	1660
2F－16	21	5	570	7		295	13	911
2F－17	35	26	661	6	4	440	77	1249
2F－18	110		951	51		445		1557
2F－19		68	982	11	73	135	126	1395
2F－20	70	62	618	14	18	1045	156	1983
2F－21	53		211		10	222	29	525
2F－22	195		961		19	715	94	1984
2F－23	275		672		7	191		1145
2F－24		14	1143			206	63	1426
2F－25	223	22	857	24	8	735	174	2043
2E・2F	85	17	1175			820	58	2155
3E－16	45		1477	5	31	469	173	2200
3E－17	18		1211	11		610	240	2100
3E－18	107	63	2439	7	33	655	435	3739
3E－19	31	68	1572	5	19	905	285	2885
3E－20			1349	4	24	930	262	2569
3E－21	14		600	3		355	165	1137
3E－22	152	55	722		67	605	177	1778
3E－23	39	34	1349	24	14	855	265	2580
3E－24	114	70	1553	7	18	610	140	2512
3E－25		100	902	3	13	560	167	1745
3F－01	22	16	770		4	750	188	1750
3F－02			458			770	177	1405
3F－03	18		594			480	82	1174
3F－04	26	25	190	8	4	495	132	880
3F－05	16		644			305	115	1080
3F－06		40	665	2		665	69	1441
3F－07	41	14	734	3	27	795	129	1743
3F－08	44	9	479	9		950	94	1585
3F－09		11	293			355	106	765
3F－10	35		250		10	125	360	780
3F－11		14	861	10		865	31	1781
3F－12	53		555	12	23	640	117	1400
3F－13	37	3	310			1055	110	1515
3F－14	16		923			26	465	1430
3F－15			436			235	17	688
3F－16	45	18	1349	35		485	68	2000
3F－17			945	19		470	91	1525
3F－18		12	700	11	13	1255	130	2121
3F－19			475			795	120	1390
3F－20			497			149	81	727
3F－21	45		754			815	41	1655
3F－22	13		563		10	580	128	1294
3F－23	14		557	11		750	121	1453
3F－24		44	521	6		415	74	1060
3F－25			432	7		130	74	643
6トレ	20	38	1752	8		675	240	2733
5E－11	39		260				84	383
5E－16			86				14	100
5E－17		2	29			22	12	65
5E－18			17			32	3	52
1トレ(確認)			181			965	148	1294
2層総計	9609	2381	143544	972	1227	64652	11772	234157

※ 弥生・土師・須恵・瓦など

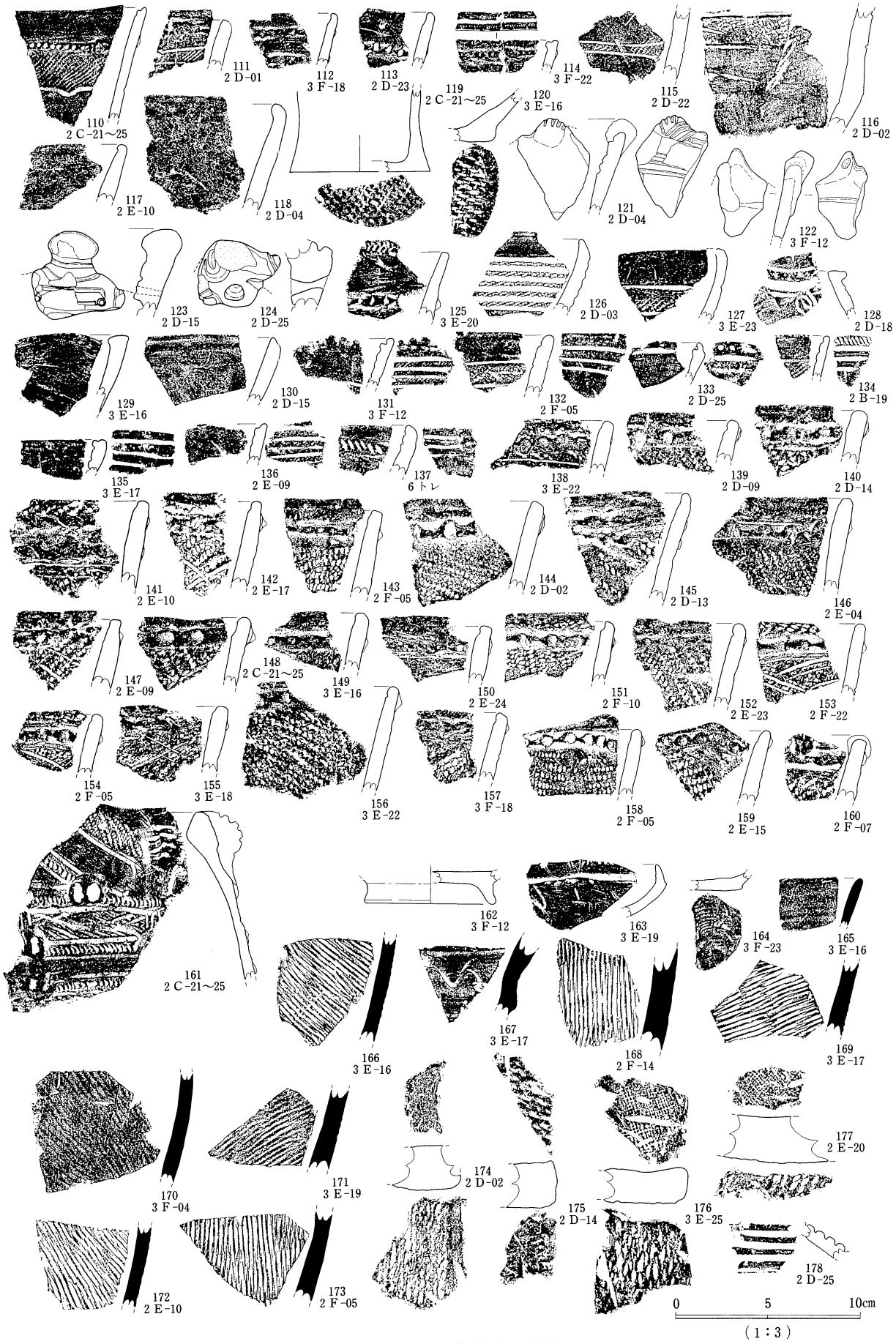
注1　うち安行2　109



第82図　2層出土土器(1)



第83図　2層出土土器(2)



第84図　2層出土土器(3)

沈線文をもつ。80～82の口縁部直下には１列もしくは２列の円形の刺突文が連続してみられる。79の口縁部直下には横長の楕円文がある。90・91は胴部破片であるが、縦長の列点がみられる。93～107・109は口縁部以下全面に縄文が施される深鉢形土器の口縁部破片である。92は胴部破片である。網目状の撚糸文がみられる。

110～160は堀之内Ⅱ式・加曽利Ｂ式である。110・112～114には口縁部直下に横位の細い紐線文がみられ、110・111・115・116・127は沈線区画内に縄文が充填される。119・120は底部破片であるが、底面に網代痕跡が認められる。119は底径推定7.7㎝。131～137は深鉢形および浅鉢形土器の口縁部破片で、内面にも沈線などによる文様がみられる。138～160は口縁部直下に横位の紐線文を有する粗製土器の口縁部破片で、紐線文以下が縄文のみのものと、147・153～155のように半截竹管などで沈線文を加えるものがある。161は安行２式の深鉢形土器の口縁部破片である。

162～178には縄文時代以外の遺物をまとめてある。162は土師器の高台付坏の破片である。底径推定6.8㎝。163は土師器坏の口縁部破片。164は土師器坏の底部破片で、糸切り底である。165は須恵器坏の口縁部破片。166～173は須恵器甕の破片である。174～177は布目瓦破片である。178は瓦塔破片の可能性がある。

３　層（第25表・第85～92図）

１～63は加曽利Ｅ式の深鉢形土器の口縁部および底部の破片である。１～６・42は、口縁部直下に微隆起や幅ひろの浅い沈線による楕円形の区画文をもち、区画内に縄文を施す。７～24・26～40は、口縁部直下に無文部をもち、その下全面に縄文が施される、口縁部がやや内湾する深鉢形土器の口縁部破片である。７～16のように無文部と縄文部の境界に微隆起のみられるものもある。29・38・39には羽状縄文がみられる。また40の口縁部直下には２条の楕円形の列点文様が施されている。41・43～48・51・56～59は縄文部内に微隆起や浅い沈線で区画された磨消がみられる。60～63は無文部と縄文部の境界に沈線が施される。これ以下が縄文のみか、磨消がみられるかは不明である。51・52は底部破片である。51は底径5.1㎝ を測る。52は底径5.1㎝ を測り、やや上げ底である。53～55は把手部の破片である。53・54は耳状、55は橋状である。

64～113は称名寺式の深鉢形土器の口縁部および胴部の破片である。64～80は沈線による区画内に縄文が充填される。88～108は沈線による区画内に列点を有するものである。85～87は把手部分である。109は区画内に縦位の細い沈線を有する。110は底径3.8㎝を測る底部破片で、沈線による区画内は無文である。111・112は列点の密度が高く、112では区画外にも列点が及んでいる。113は口径推定22.7㎝を測る無文土器である。

114～239 は堀之内Ⅰ式である。114～117・121・123・128 ～131・134～139・141・143～149・152～162・164・165・167～171・174・176～178・183・206は地文に縄文をもちその上に沈線による直線・曲線文様を施すものである。176 には口縁部直下に横位に１列の楕円形文がめぐる。177・178 には竹管による円形の刺突文が施される。140・150・151・163・166・185・189～200は地文に縄文をもたず、半截竹管や櫛状の工具による直線や曲線の沈線文をもつ。179～181は横位および縦位に太い紐線文がみられる。172・173・175は口縁部直下に円形の刺突文が１列めぐる。184は口縁部直下に横位の１条の沈線文を挟んで上下に半截竹管による刺突文が並ぶ。186は口縁部以下に刺突文を配し、内面

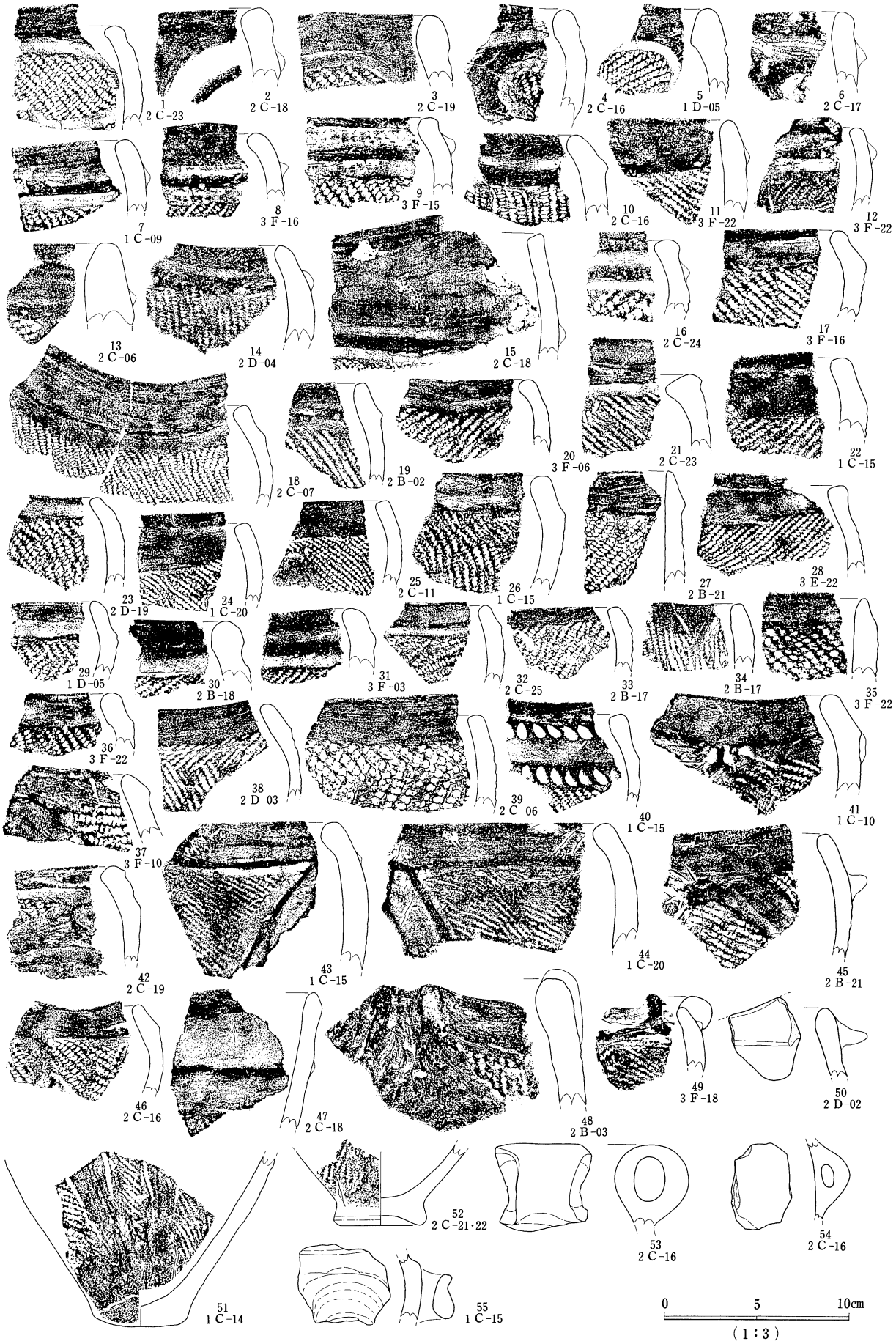
にも円形に刺突文をめぐらす文様が付される。187・188は円形の刺突文がみられる胴部破片である。205は注口土器である。残存器高21.3㎝、胴部最大復元径27.8㎝を測る。注口部直上に把手を有し、反対側の把手は欠損する。注口部は先端が欠失し、欠損面はかなり摩滅している。最大径部分に帯状に粘土紐をめぐらし、この上に等間隔に刻み目を付す。さらに口縁部からこの帯状文まで、垂直方向に同様の帯状文が２本付されていたと推定される。口縁部から帯状文までは、沈線によって直線・曲線文が付される。胴下半部は単節ＲＬ縄文が施される。また、胴下半に帯状に横位にススの付着がみ

第25表　３層グリッド別土器組成

（重量比：単位ｇ）

グリッド＼型式	加曽利E	称名寺	堀之内Ⅰ	堀之内Ⅱ	加曽利B	不明	その他※	計
1A－24			58			21		79
2A－21			7				11	18
2A－22	6		194			141	54	395
2A－23			292	4		39		335
2A－24			524	2		230	59	815
2A－25	11		318	9		310	67	715
1B－05			99			18	22	139
1B－15	6			5		6	21	38
1B－20	16	12	78			29	3	138
1B－24			27			50	3	80
1B－25	90		165			270	9	534
2B－01	31		226			18		275
2B－02	124		436	9		13	18	600
2B－03	184		269			118	139	710
2B－05	55		521			615	126	1317
2B－11	49		231			70		350
2B－12	53		339			138	25	555
2B－14	53		1384	38		440	85	2000
2B－15		38	718			525	104	1385
2B－16	36	15	228			83		362
2B－17	140	45	434			38	23	680
2B－18	195	8	742			320	82	1347
2B－19	75		1094	4		725	42	1940
2B－20	86		1984	110		1390	130	3700
2B－21	93		378			100	19	590
2B－22	147	40	3518			105	375	4185
2B－23	20	29	773			448		1270
2B－24		25	527		19	193	56	820
2B－25			254			71		325
1C－03			133			5		138
1C－04	49		505			31		585
1C－08			13			8		21
1C－09	213	24	1217			115	3	1572
1C－10	404	72	930				181	1587
1C－13			19			1		20
1C－14	359		359			336	1	1055
1C－15	669		1392			280	11	2352
1C－20	1015	214	2684	40	170	1320	57	5500
2C－06	265		1221		29	430	5	1950
2C－07	206		1711			1210	23	3150
2C－09	198	53	1945		2	1170	55	3423
2C－10	292	280	1647		19	1530	82	3850
2C－11	250	913	1572		10	1610	85	4440
2C－12	295	400	5981	104	115	6000	265	13160
2C－13	137	47	3529	3		1560	34	5310
2C－14	133		2130		17	2850	175	5305
2C－15	355	117	2357		8	3693	240	6770
2C－16	557	142	2654	49	217	1550	57	5226
2C－17	196	47	1829	16	59	1350	53	3550
2C－18	657	36	2395	14	54	2150	84	5390
2C－19	312		2088	13		2050	127	4590
2C－20	134	19	1546		35	1700	66	3500
2C－21	82	53	543	15		136	18	847
2C－21・22(確認)	165	71	860	8		330	9	1443
2C－22		18	1314	34		345	19	1730
2C－23	230	30	1560	13		1100	97	3030
2C－24	256	125	1110	87		671	25	2274
2C－25	243	53	896	7		944	29	2172
2C－25(確認)	295	48	1223		39	1010	340	2955
1D－04	127		129				14	270
1D－05	144		1231		24	230	44	1673
1D－09	31		97		9	2	3	142
1D－10			135			2		137
2D－01	77	27	622		7	235	9	977
2D－02	50		585			155	60	850
2D－03	430	85	877	18		250	15	1675
2D－04	436	43	1026			410	235	2150
2D－05	180	210	1770			227	53	2440
2D－06		41	410			122	7	580
2D－06(確認)	12		396	13		165	34	620
2D－07	300		1168	7		79	16	1570
2D－08	393	114	2021		43	560	114	3245
2D－09	346	48	2141	73		958	34	3600
2E－12・13(確認)			203				7	210
3E－16	52		1064	4	45	1820	315	3300
3E－17	115	29	1706		25	1300	325	3500
3E－18	75	32	1384		43	2100	568	4202
3E－19			814	4		1015	167	2000
3E－20		27	511			290	132	960
3E－21	137	42	3171	31	56	1555	510	5502
3E－22	49	30	2355	14	42	2700	810	6000
3E－23		20	2048		29	1594	785	4476
3E－24	72	7	1545	21	15	1080	360	3100
3E－25		44	353		20	795	198	1410
3F－01	122	33	3468	4	91	3150	489	7357
3F－02	214	76	3981	51	20	2818	580	7740
3F－03	296	71	3912		31	3500	370	8180
3F－04	50	37	1603	5	13	2000	175	3883
3F－05	30	8	904		26	834	187	1989
3F－06	212	11	3880	16	72	4199	360	8750
3F－07	120		2431		41	2750	345	5687
3F－08	164	106	2875	21	65	2450	270	5951
3F－09	79	66	2250	3	33	2640	124	5195
3F－10	130	168	1127		17	1140	118	2700
3F－11	121	172	3802	24	70	2450	215	6854
3F－12	26	85	1805	7	10	2700	245	4878
3F－13	28	132	2104	14	20	3300	395	5993
3F－14	64	43	3275			1365	324	5071
3F－15	100	86	2299	20		130	91	2726
3F－16	149	151	5122	17	66	2140	197	7842
3F－17	38	38	2823			1170	225	4294
3F－18	121	53	1519	19	58	2070	295	4135
3F－19	10	27	927			1010	176	2150
3F－20	64	22	1026		26	630	132	1900
3F－21	146	138	2251	35	67	711	113	3461
3F－22	195	210	4075	151	54	3200	395	8280
3F－23	59	88	1562	6	5	110	1165	2995
3F－24	14	21	595		26	139	550	1345
3F－25	15		440		6	290	56	807
4E－11			465			240	110	815
4E－12	69	27	1784			960	270	3110
4E－13	63	10	1132			240	135	1580
4E－14			410			57	48	515
4E－15		16	783			136	72	1007
4E－16・17	50		689		49	212	200	1200
4E－18			680			360	90	1130
4E－19			424			126	240	790
4E－21	44		72		8	67	49	240
4E－22	89		360			235	154	838
4E－24	16		143			41	25	225
4E－25			268				37	305
4F－03	55		99			17	39	210
6トレ	34	39	2189		44	2200	280	4786
5E－11		15	389	8		68	315	795
5E－12	31		320		12	27	70	460
5E－13	43		907		12	240	53	1255
5E－18			39			9	2	50
5E－21	22	23	72			7	31	155
5E－22			54			8	12	74
2トレ(確認)			86			21	13	120
3トレ(確認)			223	33		87	21	364
３層総計	15546	5745	162587	1203	2093	111907	18287	317368

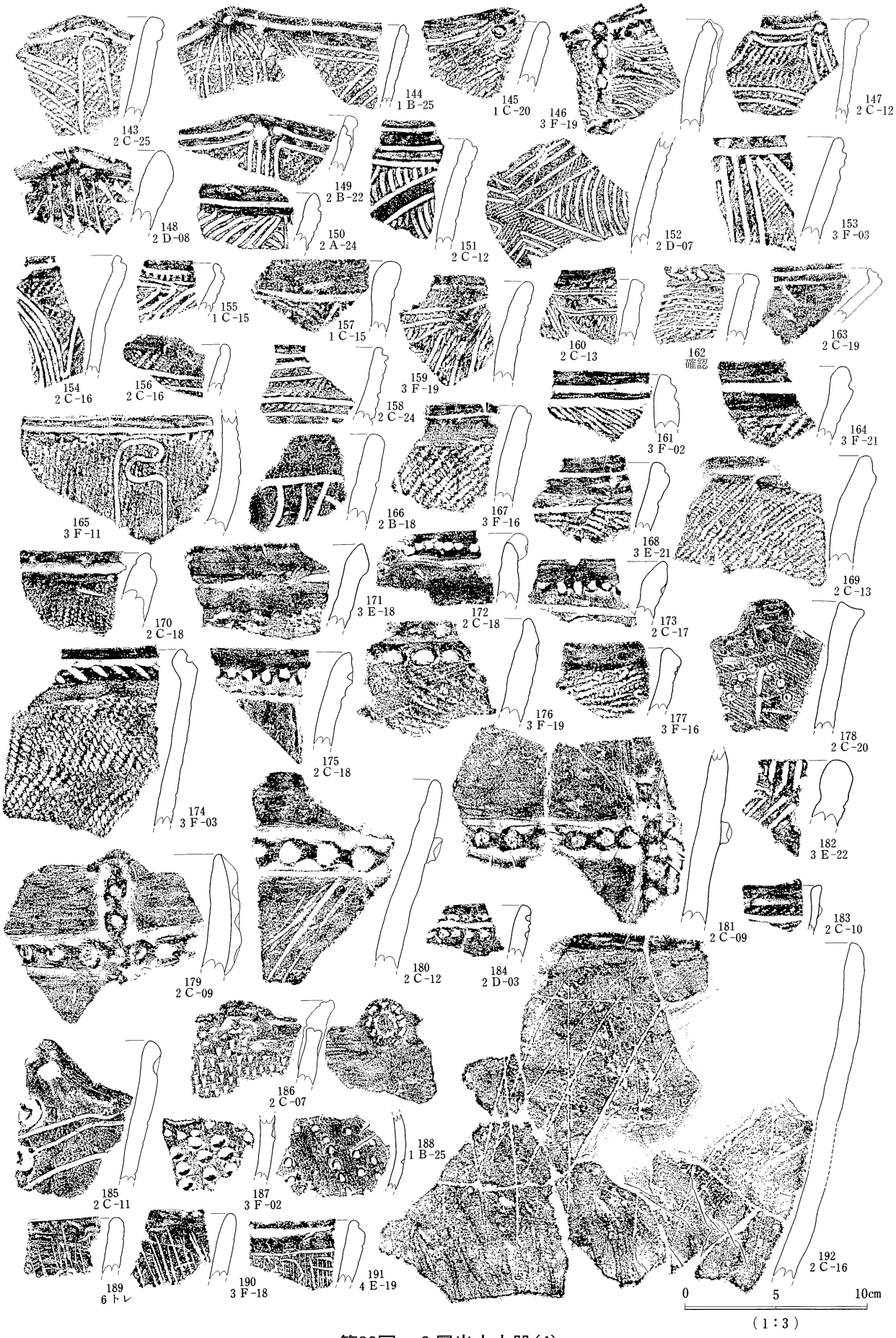
※ 弥生・土師・須恵・瓦など



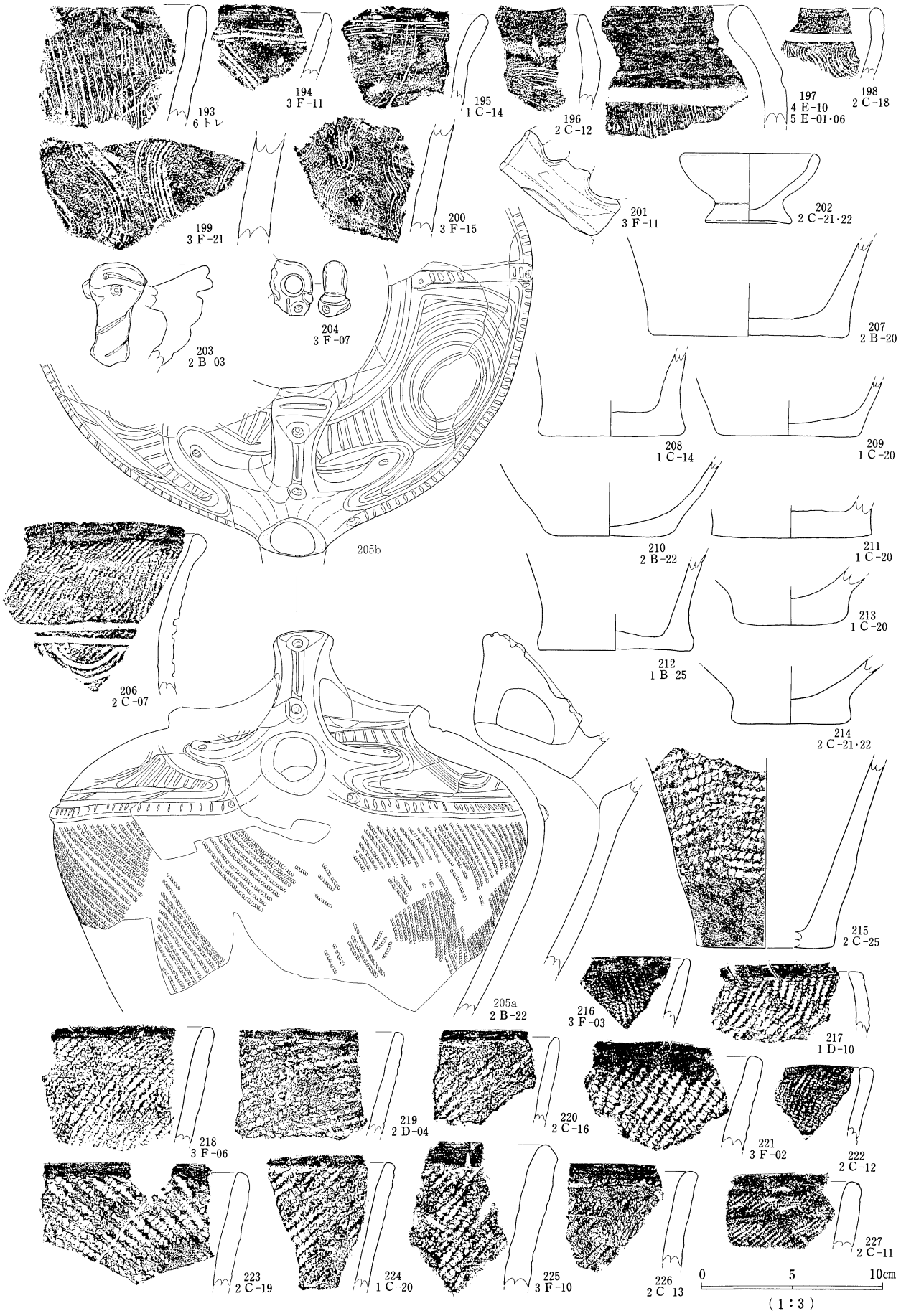
第85図　3層出土土器(1)

第86図　3層出土土器(2)

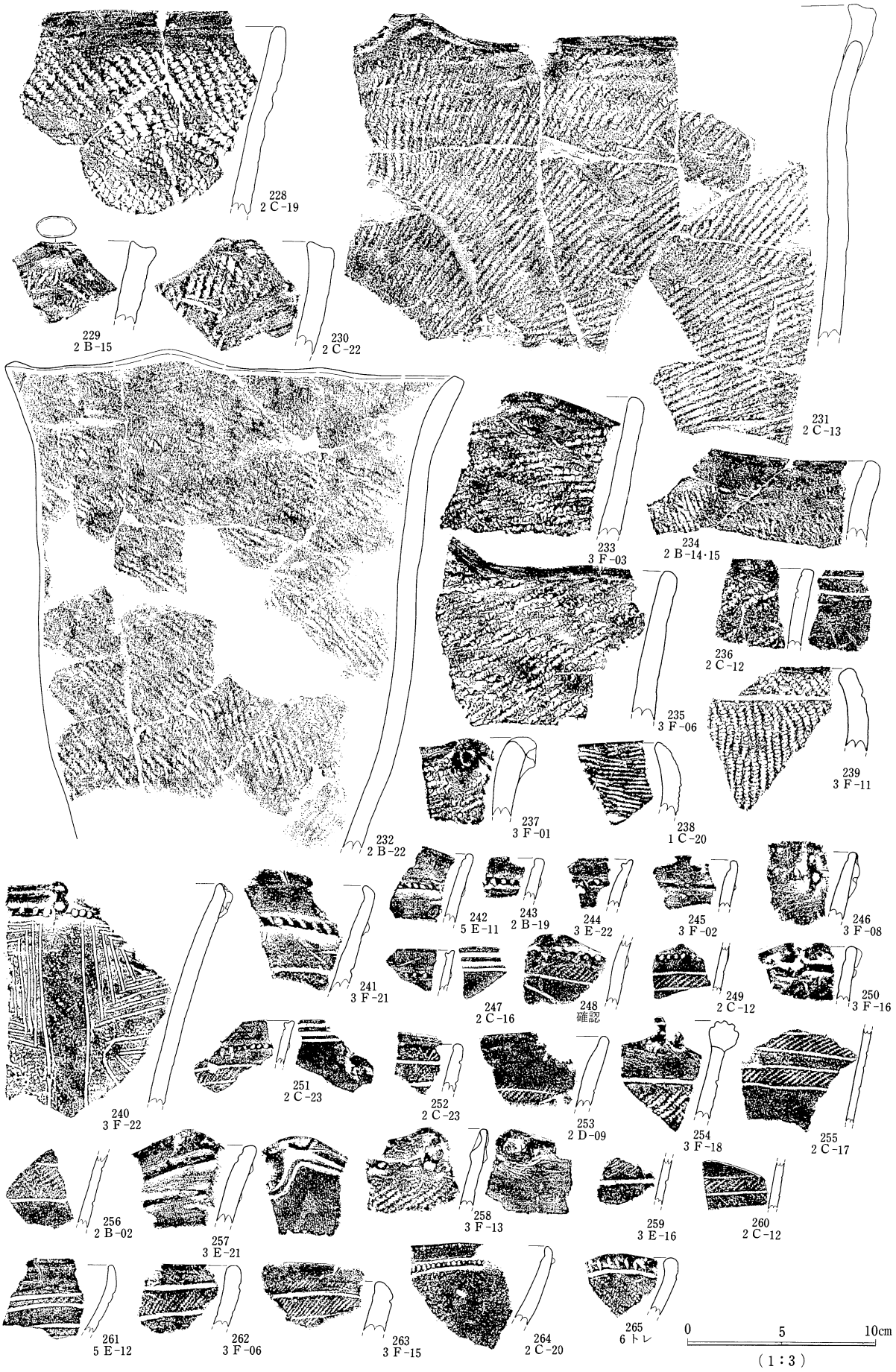
第87図　3層出土土器(3)



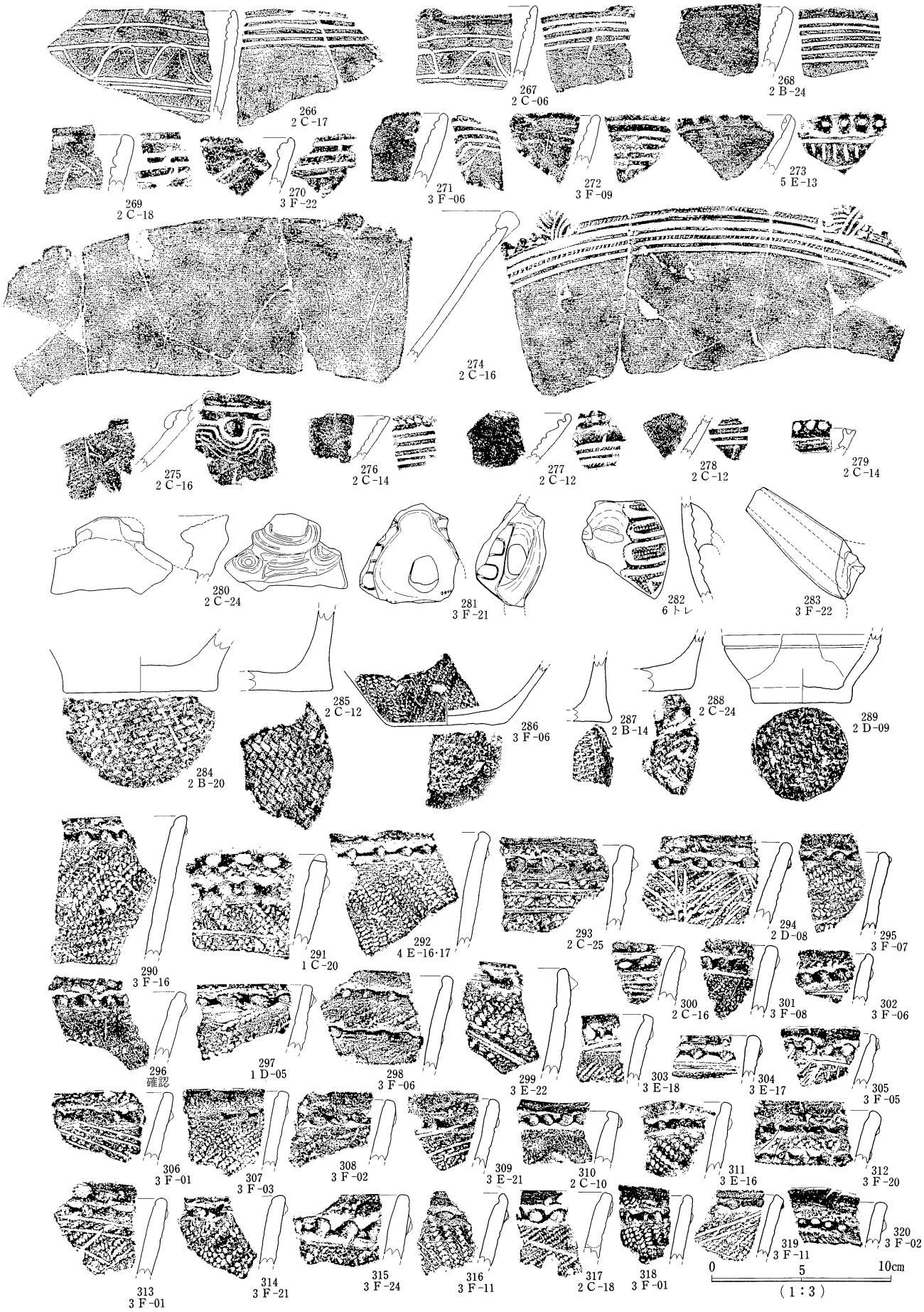
第88図　3層出土土器(4)



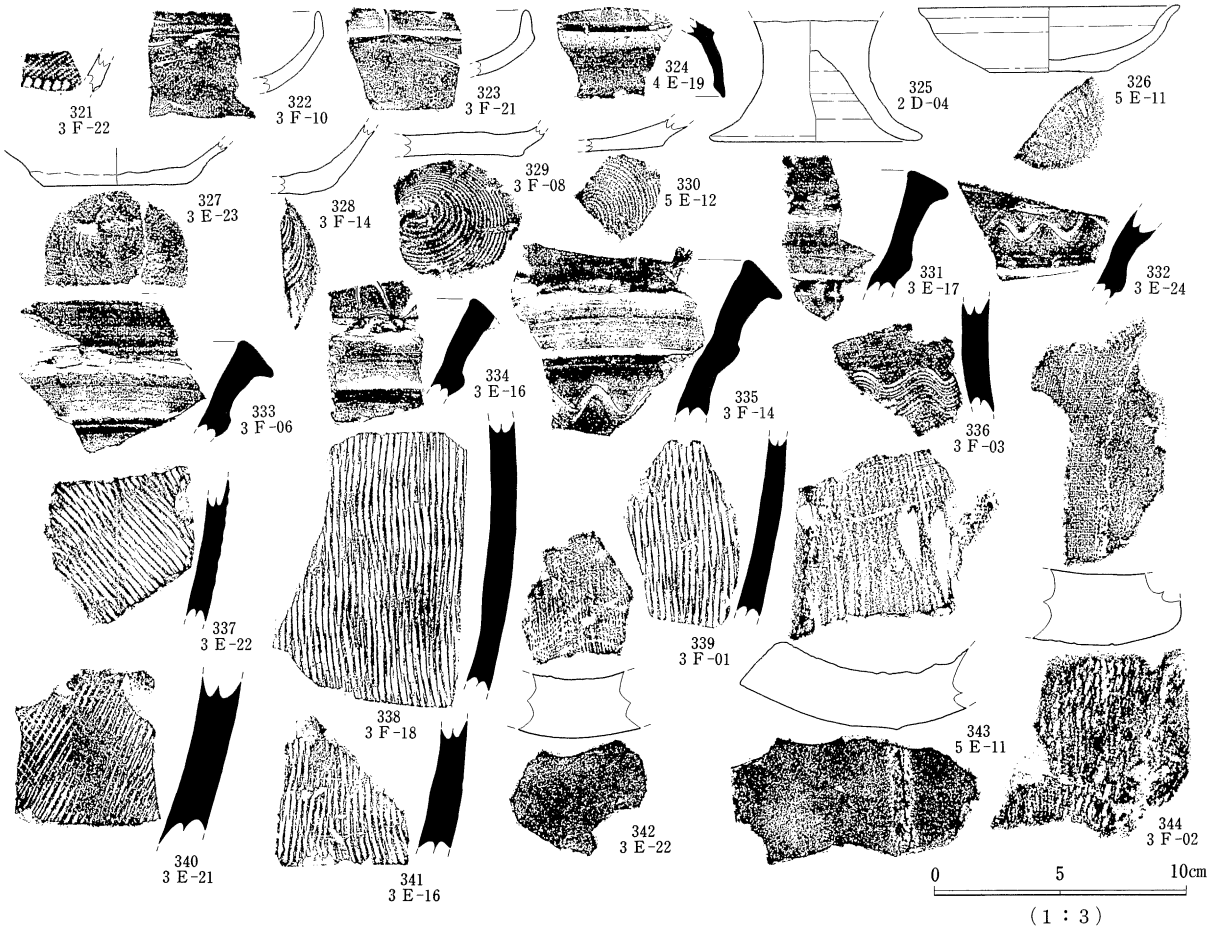
第89図　3層出土土器(5)



第90図　3層出土土器(6)



第91図　3層出土土器(7)



第92図　3層出土土器(8)

られる。203・204は把手部破片、201は注口部破片である。202は口径7.2㎝、底径4.8㎝、器高3.9㎝の小型土器である。216～239は口縁部以下全面に縄文が施される深鉢形土器の口縁部破片である。229～233・235・237の口縁部にはゆるい山形の波状部が幾つかみられる。232は残存器高25.4㎝、口径推定24.6㎝をはかり、ゆるい山形の波状口縁を2ないし4カ所有すると思われる深鉢形土器で、口縁部以下胴部下半まで、無節R縄文を施す。240～320は堀之内Ⅱ式・加曽利B式である。240～251・257・258・264には口縁部直下に横位の細い紐線文がみられ、240・246・258には8の字貼付文もみられる。また241・248・249・251～256・259～263は沈線区画内に縄文が充填される。251・257・258・266～280は深鉢形および浅鉢形土器の口縁部や口縁部付近の破片で、内面にも沈線などによる文様がみられる。281～283は注口土器の破片で、281・282は把手部分、283は注口部分である。284～289 は底部破片であり、底面に網代痕跡が認められる。284は底径8.7㎝、286は底径6.6㎝、289は底径5.4㎝で底面から3.2,3.9㎝上に横位に2条の沈線がめぐる。290～320は口縁部直下に横位の紐線文を有する粗製土器の口縁部破片で、紐線文以下が縄文のみのものと、半截竹管などの工具で沈線文を加えるものがある。

321～344には縄文時代以外の遺物をまとめてある。321は弥生の壺形土器の破片である。322・323・326～330は土師器の坏の破片であり、326は口径10.4㎝・底径4.6㎝・器高2.6㎝を測り、糸切り底である。327～330糸切り底をもつ底部破片である。325は高坏で、底径8.5㎝を測る。324は須恵器坏の蓋の破片である。331～341は須恵器甕の破片である。342～344は布目瓦破片である。

4　層（第26表・第93～98図）

1～40は加曽利E式の深鉢形土器の口縁部および底部の破片である。1・2は、口縁部直下に微隆起による渦巻き文や楕円形の区画文をもち、区画内に縄文を施す。1の口縁部は一部山形となる。3～7は地文縄文上に微隆起による文様を有し、部分的に縄文を磨消すものもある。37・39は縄文部内を磨消すが、区画は浅い沈線による。9は耳状の把手である。10もやや小さめの耳状の把手であるが、孔はあかない。11～36・38・40は、口縁部直下に無文部をもち、その下全面に縄文が施される、口縁

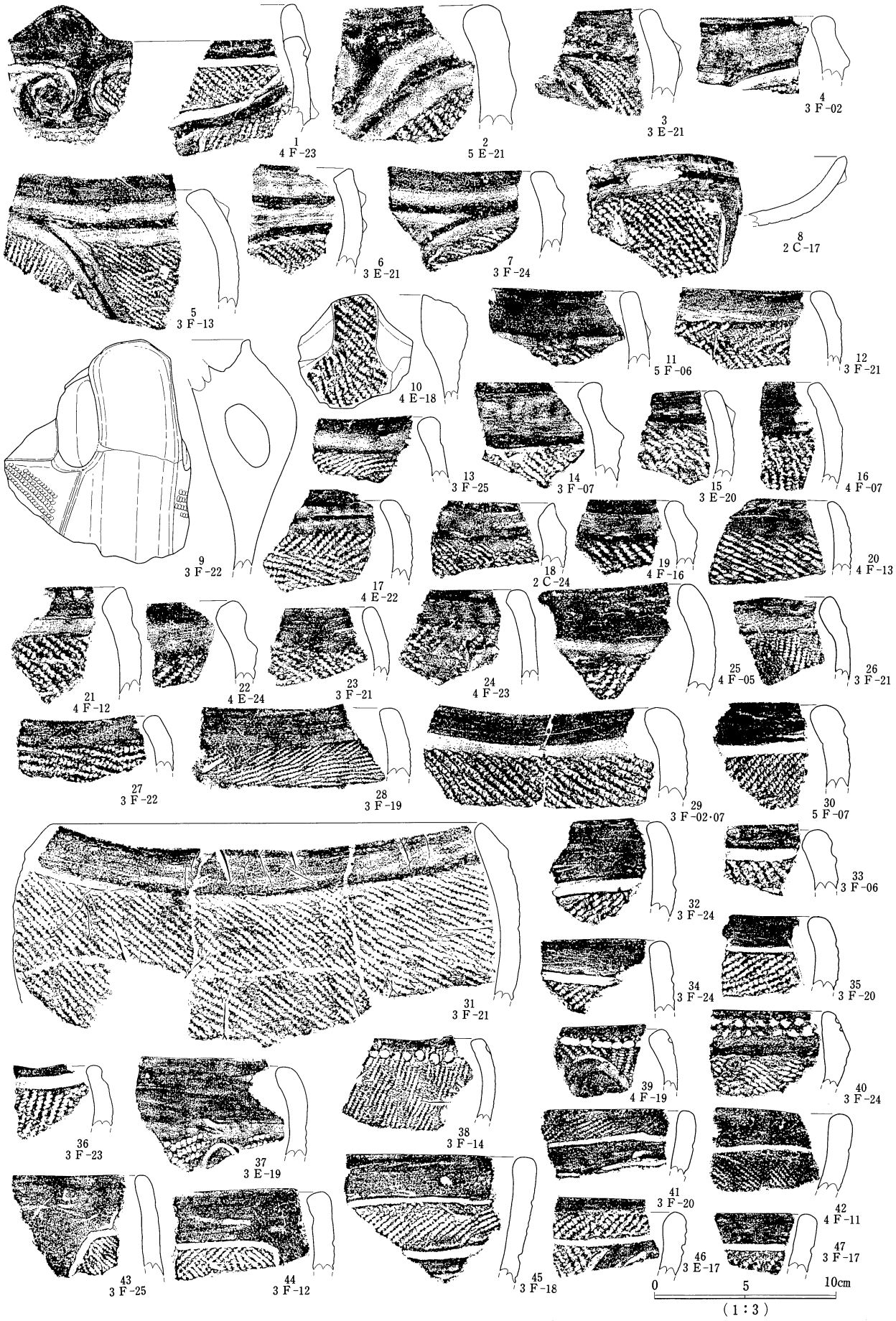
第26表　4層グリッド別土器組成

（重量比：単位ｇ）

グリッド＼型式	加曽利E	称名寺	堀之内Ⅰ	堀之内Ⅱ	加曽利B	不明	その他※	計
2B−17			19					19
2B−19			203	92				295
2B−20			315					315
2B−25			116				23	139
2C−11	25	225	65					315
2C−12		16	23			3		42
2C−17	106		305			29	10	450
2C−21			144			76		220
2C−22			292	21		44	3	360
2C−23	55	360	343	135		67	15	975
2C−24	212	14	194	16		62	2	500
2C−25	89		319			86	1	495
2D−01	440		1533			1115	62	3150
2D−23		13	161			26		200
2D−24	44	42	519			110		715
2D−25	104	108	681		9	265	38	1205
1E−10	135		118					253
1E−15	131	9	156			24		320
1E−20	19		17			5	4	45
1E−25	98		227					325
2E−06	175		316			14		505
2E−07		18	397	3		12		430
2E−08		24	1211	76	5	134		1450
2E−09		18	974		15	16	17	1040
2E−12	560	36	728			151		1475
2E−13	73	26	3061	35	5	150		3350
2E−14	38		1892			415	5	2350
2E−15	90		3043	178		330	9	3650
2E−16	123	53	528			101		805
2E−17	315		1432			53		1800
2E−18	183		331			291		805
2E−19	98	19	471	11			18	617
2E−20	97	48	921		30	81	3	1180
1F−25			46			10		56
2F−03	80		140					220
2F−04	115		217			53	3	388
2F−05	78	21	420			89	22	630
2F−09	315	23	401			8	3	750
2F−10	210	172	2222			27	84	2715
2F−14	394	292	1900		10	201	53	2850
2F−15	200	585	7111	30	36	1008	380	9350
2F−19	387	182	3233			685	28	4515
2F−20	639	673	5812	14	128	1641	215	9122
2F−24	806	1180	3755	95	74	1100	135	7145
2F−25	215	1039	6356	44	41	1730	325	9750
3E−16	205		3447	45	58	700	195	4650
3E−17	138	129	2239	109	10	700	575	3900
3E−19	151		1147	26	11	675	90	2100
3E−20	61		552		24	204	54	895
3E−21	365	73	1803			361	181	2783
3E−22	250	105	1889	28		296	82	2650
3E−23	139	93	1423	17		269	109	2050
3E−24	55	131	1719		85	760	68	2818
3E−25	28	54	755		3	460	115	1415
3F−02	307		742			335	16	1400
3F−03	217	79	1079			265	143 注1	1783
3F−04	42	67	1354			345	12	1820
3F−05	33	120	566			146	65	930
3F−06	125	27	1298		17	110	33	1610
3F−07	130	55	3612	29	35	1165	74	5100
3F−08	265	51	4279	50	12	1285	58	6000
3F−09	112	14	2069	17		421	17	2650
3F−10		26	687		20	241	16	990
3F−11	255	65	5917			1740	63 注2	8040
3F−12	146	315	4364	23	56	1475	38	6417
3F−13	217	144	4754	40	33	580	5	5773
3F−14	141	178	1977	25		355	2	2678
3F−15	111	17	962			67		1157
3F−16	197	58	3892	21		495	54	4717
3F−17	182	388	4119			800	10	5499
3F−18	101	122	3105	4		1565	26	4923
3F−19	367	290	2481			869	53	4060
3F−20	250	158	846	10		250	10	1524
3F−21	1420	177	1809			412	3	3821
3F−22	579	230	3739			608	27	5183
3F−23	601	104	2141	15	70	595	15	3541
3F−24	425	200	1879	42		235	19	2800
3F−25	190	77	738		12	41	7	1065
4E−11	68		228				19	315
4E−12	33	15	160		43	154	150	555
4E−13			298			38	59	395
4E−14			100			8	32	140
4E−15			149				11	160
4E−16•17	38	23	666	35	46	38	99	945
4E−18	68		147			42	49	306
4E−19	10		66		51	22	76	225
4E−21			225			53	27	305
4E−22	65		308			54	8	435
4E−24	110		305			74	93 注3	582
4F−01	110		175				60	345
4F−02	37		242			46	27	352
4F−04			332			28		360
4F−05	153	32	411			21	373	990
4F−06	36		292		16	91		435
4F−07	117		381		98		49	645
4F−08	24		102			38	76 注4	240
4F−09		11	110			228	36	385
4F−10	46	7	237				685	975
4F−11	45	71	260			36	3	415
4F−12	129		290			56		475
4F−13	111		142			30	37	320
4F−14			270		22	55	183	530
4F−15			197			24	29	250
4F−16	81	29	297			3		410
4F−17	43		292					335
4F−18	68		106		25	5	30	234
4F−19	81		403		16		220	720
4F−22			33					33
4F−23	206	38	116					360
4F−24	51		60		25	30		166
5E−12	48		549			27	46	670
5E−13			232			2	1	235
5E−16			271			13	11	295
5E−17	45		406			9	15	475
5E−18			32			14	41	87
5E−21	257		952			83	53	1345
5E−22	83		758			31	58	930
5E−23	17		474			29	15	535
5E−24			95			1	1	97
5F−01	27		495			105	74	701
5F−02			601			17	127	745
5F−03			352				8	360
5F−04			156			2	7	165
5F−05			31			7	4	42
5F−06	140	20	400			106	114	780
5F−07	93	85	258			90	27	553
5F−08	23	6	38			19	44	130
5F−09	19	82	9			16	34	160
5F−11	87	16	555			230	222	1110
5F−12	41		313			64	712	1130
5F−13	19		217			28	21	285
5F−14			150			16	54	220
5F−18	70	30	165		37	19	76	397
5F−19	19					20	13	52
5F−25			38				5	43
4層総計	17172	9208	140998	1286	1178	31159	7907	208908

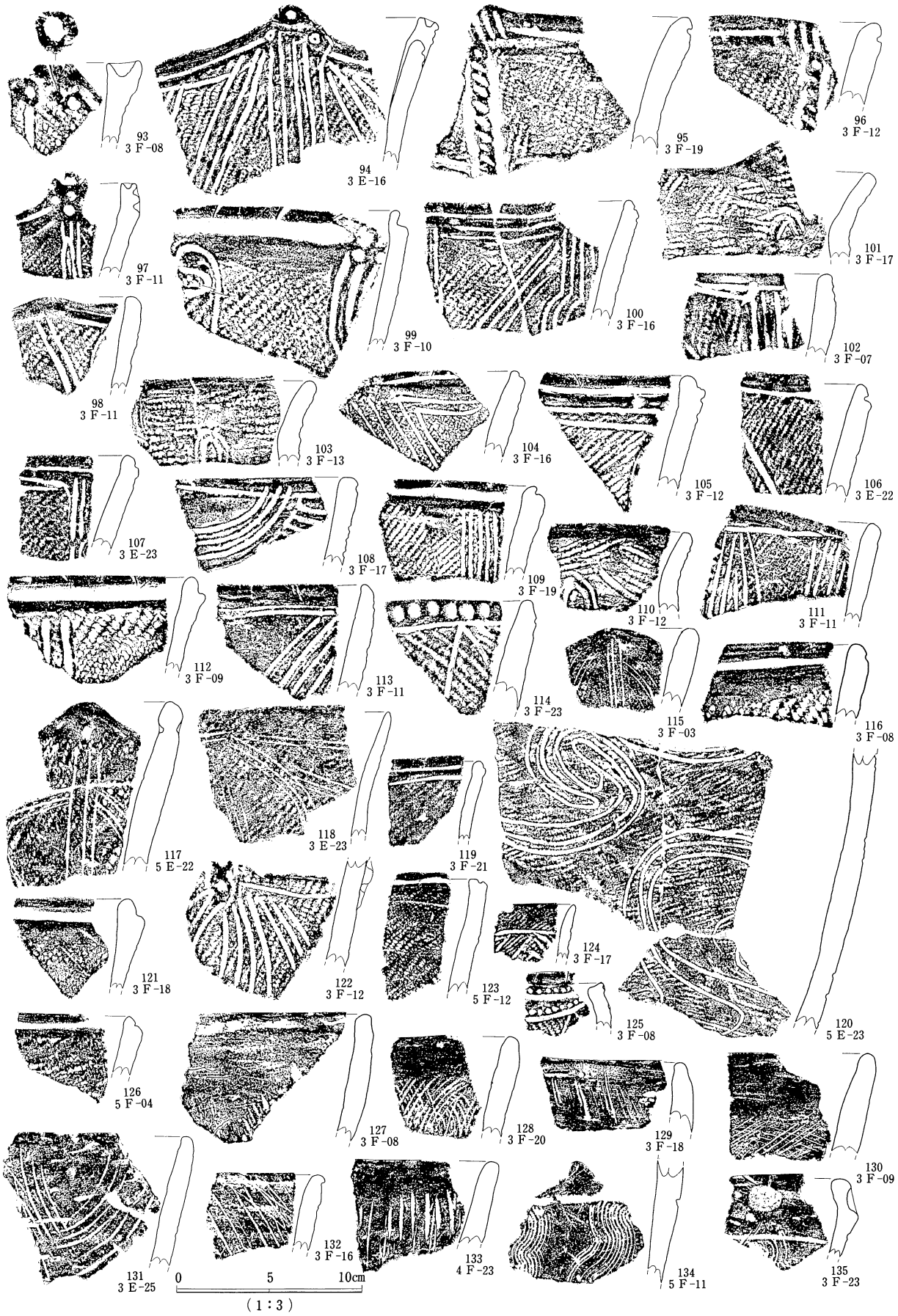
※ 弥生・土師・須恵・瓦など

注1　うち早期尖底 42　　注2　うち撚糸文 8　　注3　うち撚糸文 5
注4　うち安行　5　　注5　うち撚糸文 14

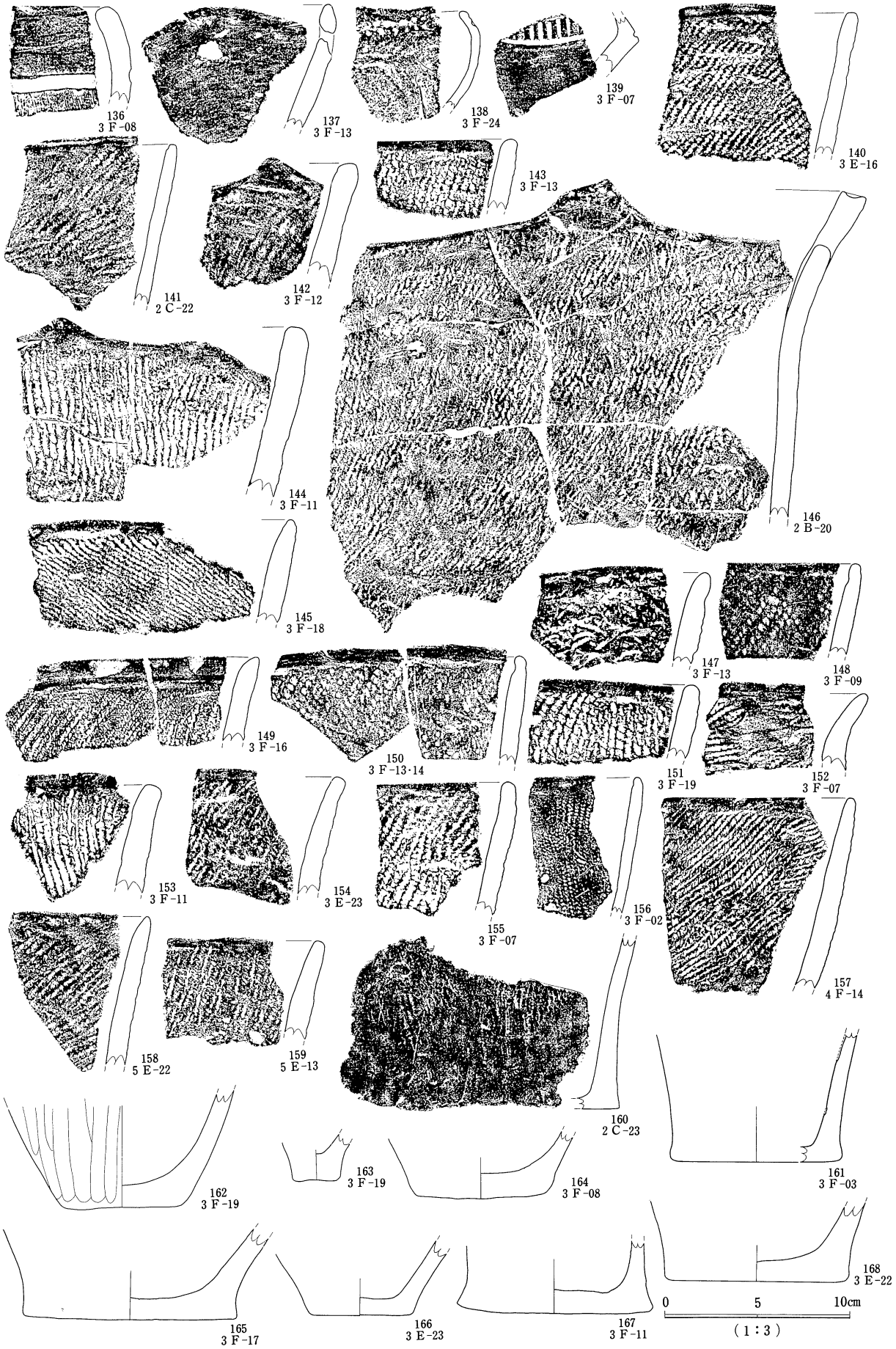


第93図　4層出土土器(1)

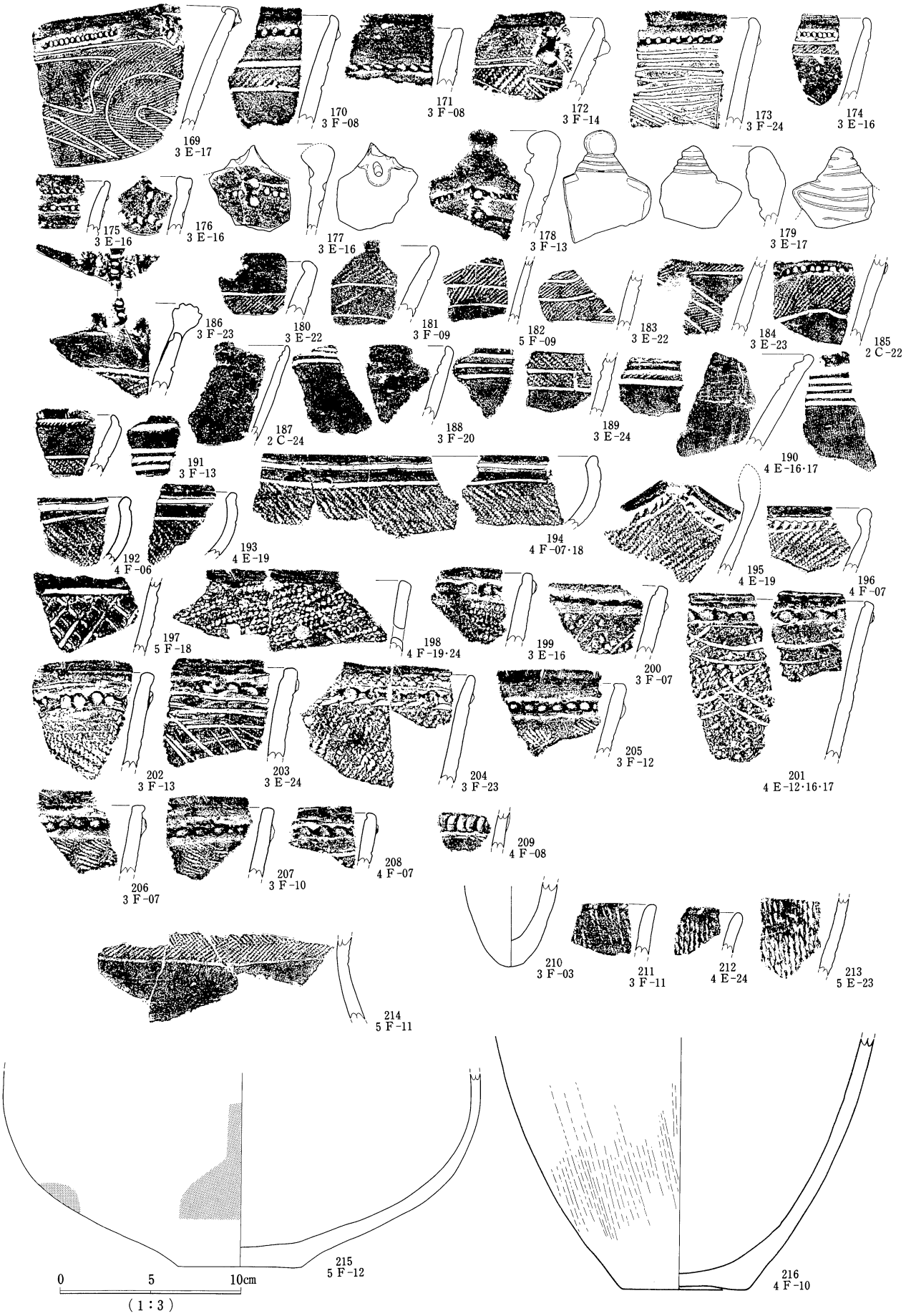
第94図　4層出土土器(2)



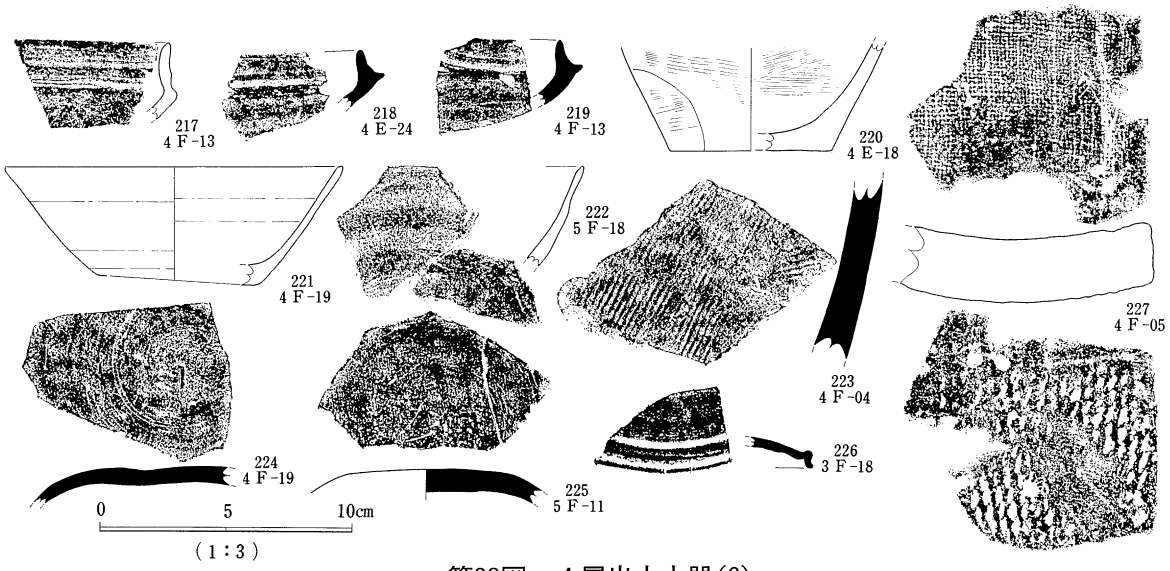
第95図　4層出土土器(3)



第96図　4層出土土器(4)



第97図　4層出土土器(5)



第98図　4層出土土器(6)

部がやや内湾する深鉢形土器の口縁部破片である。無文部と縄文部の境界には、11～19・31のように微隆起がみられるもの、21・25・26・29・30・32～35のように浅い沈線がみられるものがある。31は口径推定24.0cmを測る。12には羽状縄文がみられる。また、38～40の口縁部直下には1ないしは2列の円形の刺突文が施される。

41～77はは称名寺式の深鉢形土器の口縁部および胴部の破片である。41～60は沈線による区画内に縄文が充填される。63～77は沈線による区画内に列点を有するものである。72は列点の密度がやや高い。61・62は区画内に列点状の短い沈線を有する。

78～159は堀之内Ⅰ式である。89・91～114・116～127は地文に縄文をもちその上に沈線による直線・曲線文様を施すものである。90・115・128 ～136は地文に縄文をもたず、半截竹管や櫛状の工具による直線や曲線の沈線文をもつものである。139は浅鉢形土器の口縁部直下の破片である。これより大型の類品がⅦブロック貝層中より出土している（P60)。140～159は口縁部以下全面に縄文が施される深鉢形土器の口縁部破片である。142・144・146の口縁部にはゆるい山形の波状部が幾つかみられる。

169 ～208は堀之内Ⅱ式・加曽利B式である。169～178・185には口縁部直下に横位の細い紐線文がみられ、169・172・176～178 には8の字貼付文もみられる。また169・170・174・180～185・186には沈線区画内に縄文が充填される。186には口縁部に歯車状の把手がみられるが、同様の破片が3層中からも出土している（P145)。187～191は深鉢形および浅鉢形土器の口縁部や口縁部付近の破片で、内面にも沈線などによる文様がみられる。192～194は口縁部直下に2条の沈線を有し、それ以下に縄文が施される浅鉢形土器の口縁部破片である。195 は波状口縁を有する。197は沈線による格子目状の文様がみられる。198は口縁部以下全面に縄文が施される深鉢形土器の口縁部破片である。2つの補修孔がみられる。199～208は口縁部直下に横位の紐線文を有する粗製土器の口縁部破片で、紐線文以下が縄文のみのものと、半截竹管などの工具で沈線文を加えるものがある。209は安行式の粗製土器の破片である。210～213は早期撚糸文系土器の破片である。

214～227には縄文時代以外の時期の遺物をまとめた。214～216は弥生土器で、214・215が壺形土器、

216は甕形土器である。214は頸部の破片で、横位の沈線区画内に羽状縄文がみられる。215は胴部下半から底部にかけての資料である。底径7.0㎝、残存器高10.8㎝をはかる。部分的に赤彩の痕跡が認められる。216は胴部下半から底部にかけての資料である。底径7.0㎝、残存器高14.0㎝をはかる。217は土師器坏の口縁部破片、218・219は須恵器坏の口縁部破片、220は土師器甕の底部破片で底径6.5㎝、221は土師器坏で、口径13.5㎝・底径推定6.3㎝・器高4.5㎝をはかる。222は土師器坏の口縁部破片である。224～226は須恵器坏の蓋の破片である。227は布目瓦の破片である。

4　層（貝層下）（第26表・第99～101図）

２Ｅ・２Ｆ区の貝層下に存在した土層中の遺物である。上部が貝層に覆われているので、これ以外の貝層のない地点とは保存状況（後からの遺物の混入）などの点で多少違いのある可能性があるため分けて扱うこととした。

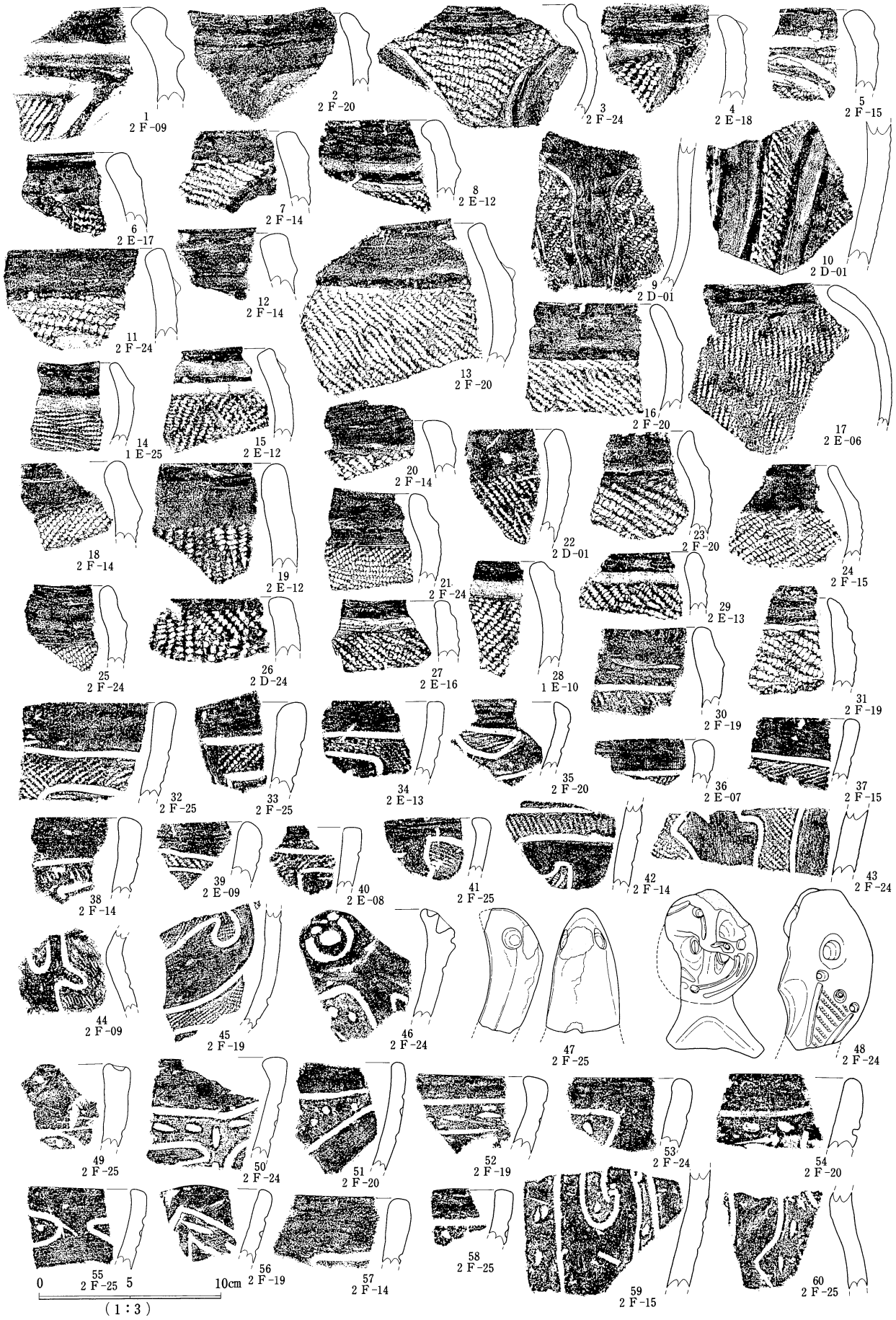
１～31は加曽利Ｅ式の深鉢形土器の口縁部および胴部の破片である。１～10は口縁部直下に無文部をもち、それ以下に縄文が施されるが、部分的に微隆起や浅い沈線で区画した磨消のみられるものである。11～31は、口縁部直下に無文部をもち、その下全面に縄文が施される、口縁部がやや内湾する深鉢形土器の口縁部破片である。無文部と縄文部の境界には、微隆起や浅い沈線のみられるものもある。

32～75は称名寺式の深鉢形土器の口縁部および胴部破片である。32～45は沈線による区画内に縄文が充填される。46・49～75は沈線による区画内に列点が施されるものである。47・48は把手部分である。47は鳥の嘴状の形態を呈し、上部に一対の円形の窪みが有り目の表現のようにも見える。

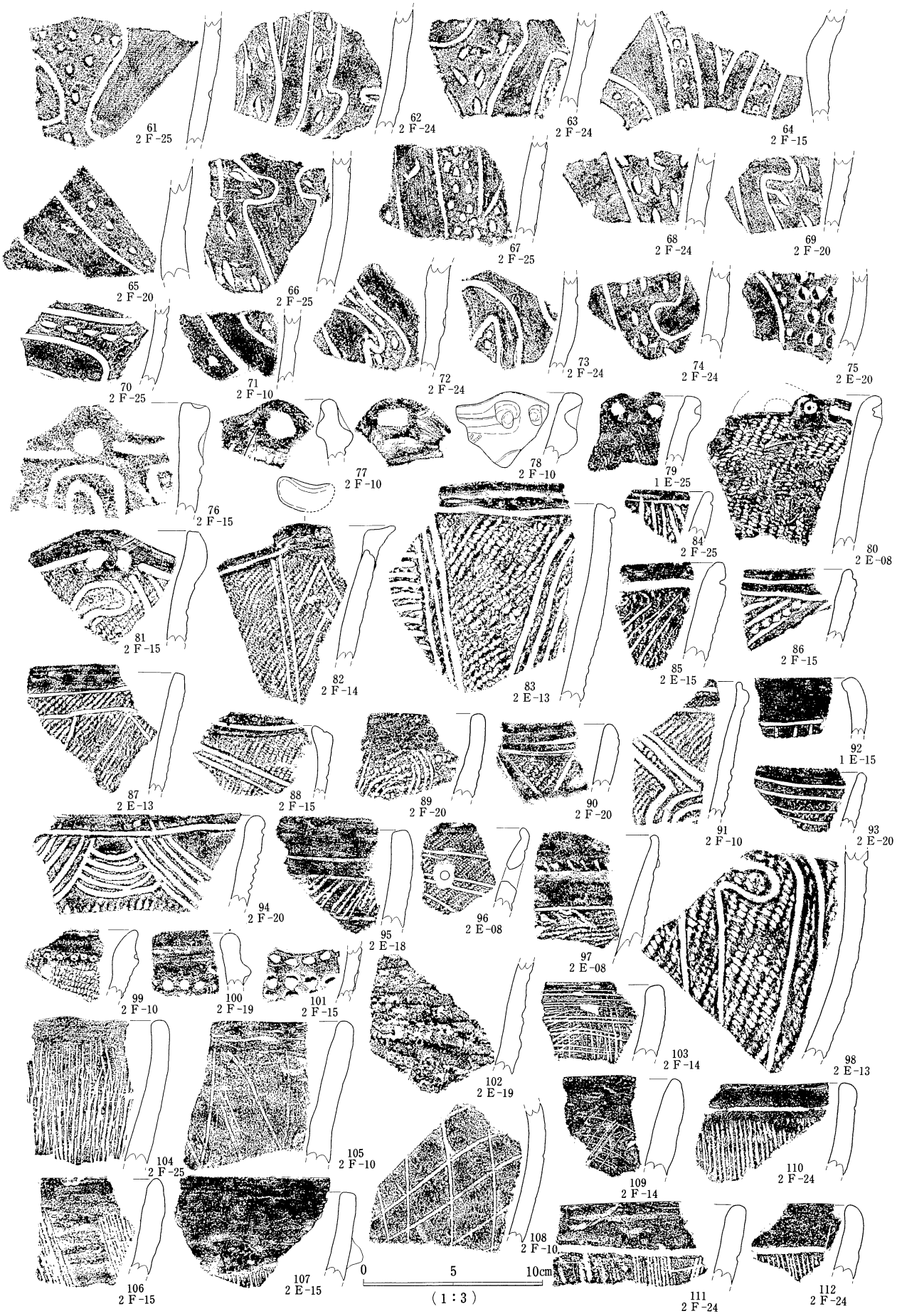
76～106・108～134・136は堀之内Ⅰ式の深鉢形土器の口縁部および底部破片である。80～91・93・94・96～98は、地文に縄文をもちその上に沈線による直線・曲線文様を施すものである。92・95・103～116は、地文に縄文をもたずに沈線による直線・曲線文様を施すものである。107は口縁部直下が無文となり、その下に櫛状の工具を使った沈線文様が施されるが、無文部との境界に舌状の突起がみられる。綱取式とみられる。117 ～123・126は、口縁部直下に横位の沈線が一条施され、その下にわずかに無文部をもって縄文を施すものである。124・125・127～133は口縁部直下から全面に縄文を施すものである。124・125・127・128の口縁部はゆるい山形の波状をえがく。102は胴部破片であるが、指頭または工具による横位の調整痕を器面全体に残す資料である。Ⅲブロック貝層中に同様の土器の口縁部資料がある（Ｐ53）。

140～158は堀之内Ⅱ式・加曽利Ｂ式である。144・146・147は沈線区画内に縄文を充填する。また、143・144・146には８の字貼付文がみられる。140は底部破片で、底径10.4㎝を測り、底面には網代痕跡が認められる。142は口縁部が「く」の字状に屈曲し、口唇部が内側に折れる土器の口縁部破片である。141・145・148 は深鉢形および浅鉢形土器の口縁部や口縁部付近の破片で、内面に沈線などによる文様がみられる。149～158は、口縁部直下に横位の紐線文を有する粗製土器の口縁部破片で、紐線文以下が縄文のみのものと、半截竹管などの工具で沈線文を加えるものがある。

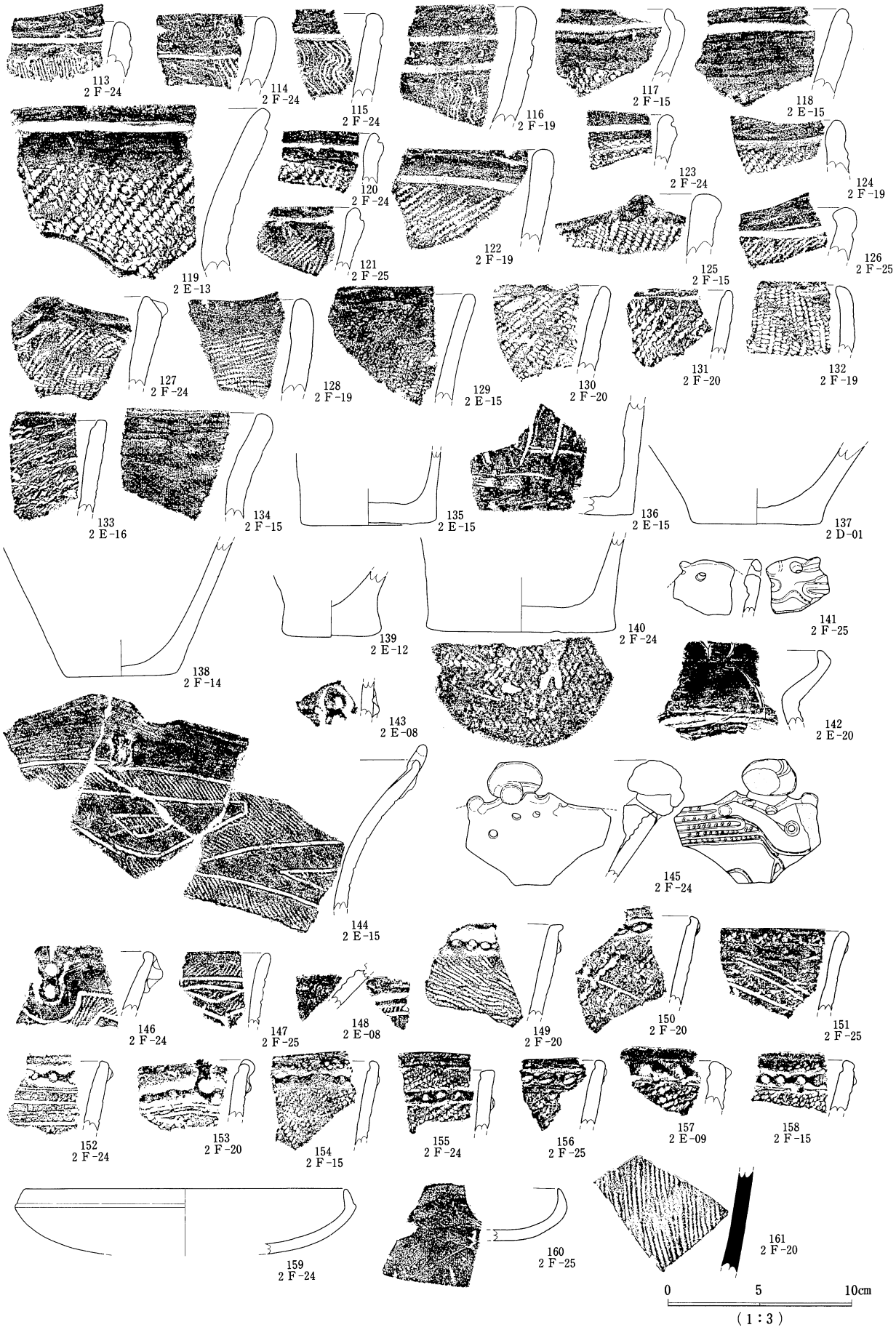
159～161は縄文時代以外の時期の遺物である。159・160は土師器の坏で、159は口径推定17.6㎝を測る。161は須恵器甕の胴部破片である。



第99図　4層(貝層下)出土土器(1)



第100図　4層(貝層下)出土土器(2)



第101図　4層(貝層下)出土土器(3)

5　層（第27表・第102 図）

1～12は加曽利E式の深鉢形土器の口縁部破片である。1・4には、口縁部直下に縄文を施した浅い沈線による楕円形区画文がみられる。2・3・5・6・10～12は口縁部直下に無文部をもち、その下全面に縄文が施される、口縁部がやや内湾する深鉢形土器の口縁部破片である。無文部と縄文部の境界には、微隆起や浅い沈線のみられるものもある。8・9は器形はほぼ同じとみられるが、無文部がなく、口縁部以下全面に縄文が施されると思われるものである。9には羽状縄文がみられる。

13～16は称名寺式の深鉢形土器の口縁部および胴部破片である。13・14は沈線による区画内に縄文が充填される。15・16は沈線による区画内に列点が施されるものである。

17～24は堀之内Ⅰ式の深鉢形土器の口縁部破片である。17～22は、地文に縄文をもちその上に沈線による直線・曲線文様を施すものである。23は口縁部直下に横位の沈線が一条施され、その下にわずかに無文部をもって縄文を施すものである。24は口縁部直下から全面に縄文を施すものである。

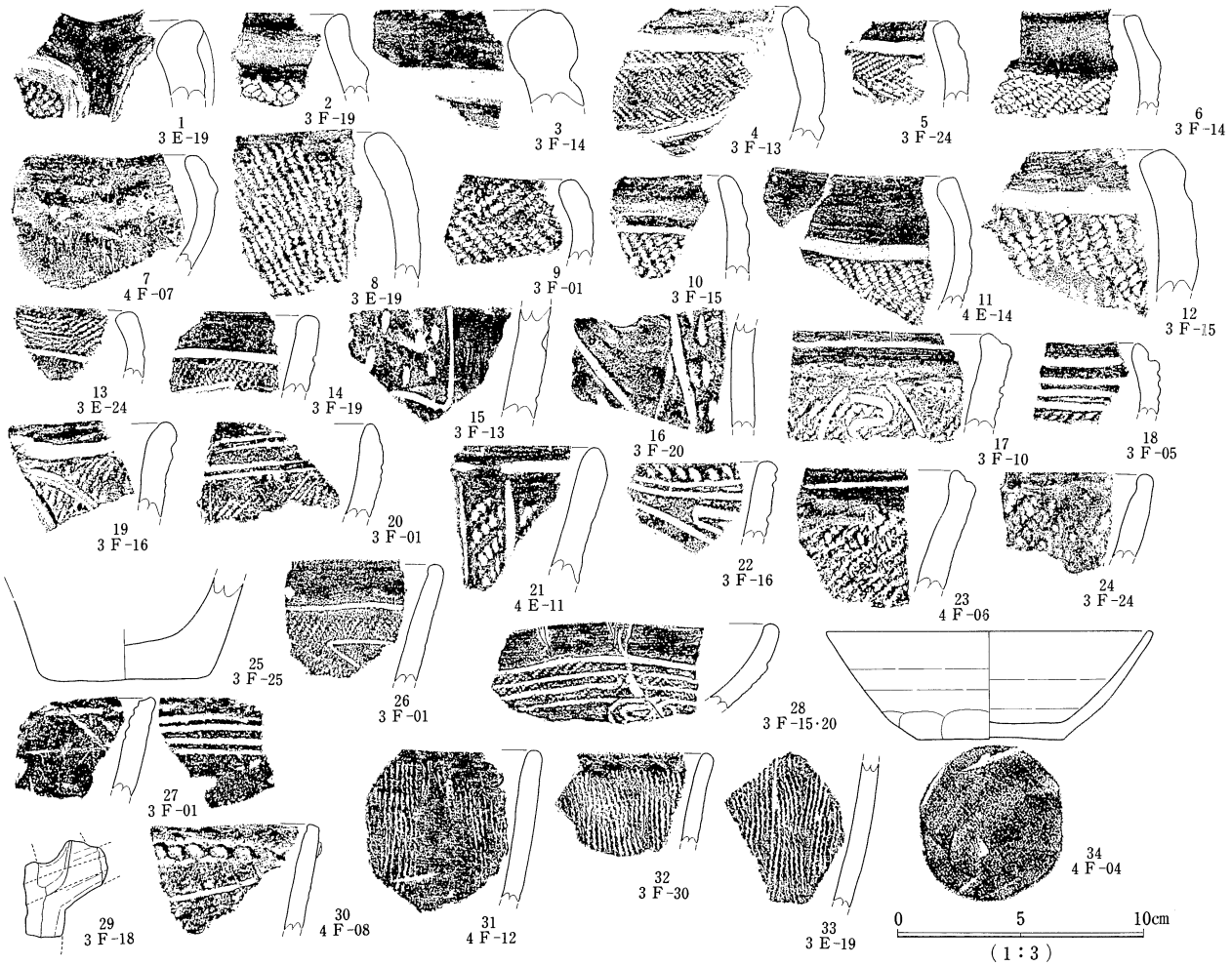
第27表　5層グリッド別土器組成

（重量比：単位ｇ）

グリッド＼型式	加曽利E	称名寺	堀之内Ⅰ	堀之内Ⅱ	加曽利B	不明	その他※	計
2C－24			9			4		13
2C－25	47		80			10	3	140
1D－10			53			3	17	73
1D－15			7					7
1D－20			7					7
1D－24			26			3		29
1D－25	234		160			19		413
2D－21			47			3		50
2D－22	10	14	146			29	1	200
2D－23	20		120			21	9	170
2D－24	60		31			26		117
2D－25	96		133			25	11	265
1E－10	55	35	183			15		288
1E－15	595	30	865			90	5	1585
1E－20	217		51			48		316
1E－25	90	55	641			39		825
2E－01			24					24
2E－02			1793			93	14	1900
2E－06			35					35
2E－07			94			1		95
2E－08	18		42					60
2E－09	12		53			10		75
2E－12	180		611			102	33	926
2E－13			42			8		50
2E－14	427		1535	122		148	18	2250
2E－15	484	21	1302	74	15	154		2050
2E－16	206	8	558			98	14	884
2E－17	8		222					230
2E－18	209		69			7	5	290
2E－19	197		128					325
2E－20			8			6	11	25
2E－24	102		194			45	4	345
2F－03	78		222					300
2F－04	337		423			266	9	1035
2F－05	219		235			1	5	460
2F－08	113		212			5	22	352
2F－09	90		52			4		146
2F－10	203	46	772	6		44	7	1078
2F－13	210		184			21		415
2F－14	28		105			4		137
2F－15	204	81	1812			100	28	2225
2F－18	169	16	101			16	73	375
2F－19	39	39	261		5	105	1	450
2F－20	29	49	991		32	199	30	1330
2F－22			90					90
2F－23	605	213	1579			340	13	2750
2F－24	146	185	1117		10	121	26	1605
2F－25	78	157	1255			151	3	1644
3E－16	22		37			31		90
3E－17	30		148			17		195
3E－19	61	10	535			93	55 注1	754
3E－20			24				6	30
3E－21			39			7	4	50
3E－22	33	24	58			31	9	155
3E－23			54			8		62
3E－24		11	192			34	13	250
3E－25	38	41	518			55	3	655
3F－01	43	45	669	49		121	27	954
3F－02			40					40
3F－03	68	20	229			45	14	376
3F－04	14	41	618			117		790
3F－05	8		169		17	53	18	265
3F－06	69	7	194			44	1	315
3F－07	83		103			94		280
3F－08	41	13	113	15		83		265
3F－09	104	9	244			11		368
3F－10			461			104		565
3F－11	11		314					325
3F－12		20	151			69	5	245
3F－13	53	44	268					365
3F－14	112	24	412	7				555
3F－15	244		419		12	5		680
3F－16			388			77		465
3F－17			129			5	26	160
3F－18			318		27	70		415
3F－19	54	21	277			18		370
3F－20	20	54	759		25	69	18 注2	945
3F－21			32			13		45
3F－22	25		129			24	2	180
3F－23	19		310	5		28	3	365
3F－24	14		120			11		145
3F－25		61	239			214		514
4E－11			152			3		155
4E－12	47		137			16		200
4E－13	35	11	198			12	4	260
4E－14	90		59			125	26	300
4E－15						7		7
4E－16・17			9					9
4E－21			7					7
4E－22	56		37			12		105
4F－01	42	16	69			3		130
4F－02	79		313			33	10	435
4F－04			8				162	170
4F－05		8	102					110
4F－06			142			23		165
4F－07	36		87			7	6	136
4F－08	17	30	27		22	4		100
4F－09	27		52			30	51	160
4F－11			12					12
4F－12			18				49 注3	67
4F－13			22					22
4F－14	11		28				3	42
4F－16		14	18					32
4F－17			45					45
4F－18			152			3		155
4F－19			92		19	11	43	165
4F－22			23					23
4F－24						7	2	9
5層総計	7421	1473	29199	278	184	4231	922	43708

※ 弥生・土師・須恵・瓦など

注1　うち撚糸文 23　　注2　撚糸文　　注3　うち撚糸文 43



第102図　5層出土土器

26～28・30は堀之内Ⅱ式・加曽利B式である。26は沈線区画内に縄文が充填される。三角形区画のモチーフの一部がみえる。27は内面横位の沈線による文様がみられる。28は浅鉢形土器の口縁部破片で、間隔の狭い横帯文中に縄文を充填している。30は口縁部直下に横位の紐線文を有する粗製土器の口縁部破片で、紐線文以下の縄文上に半截竹管などの工具で沈線文を加える。

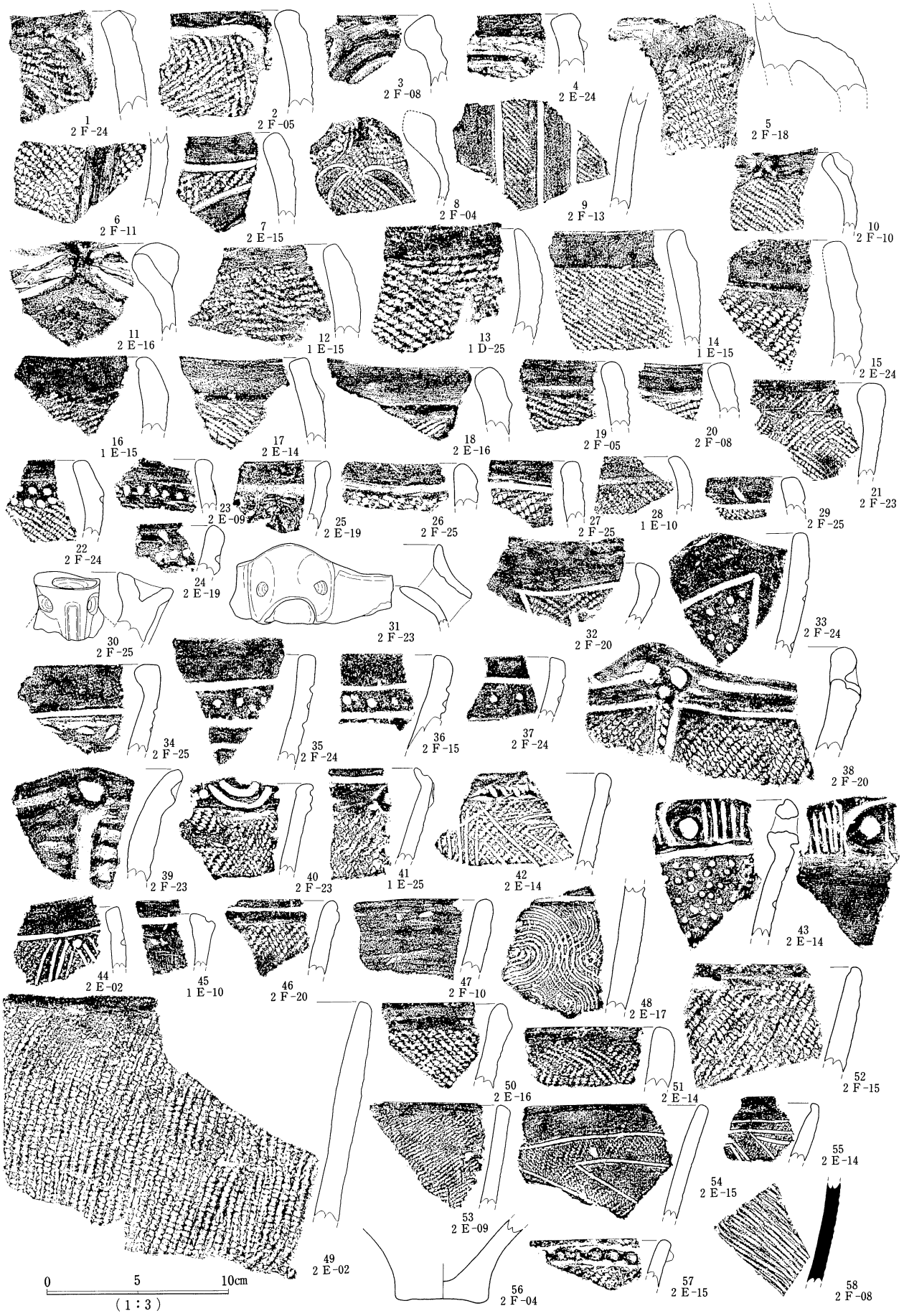
31～33は早期撚糸文系土器の口縁部および胴部破片である。

34は土師器坏である。口径13.4cm・底径6.0cm・器高4.4cmを測る。

5　層（貝層下）（第27表・第103 図）

2E・2F区の貝層下に存在した土層中の遺物である。上部が貝層に覆われているので、これ以外の貝層のない地点とは保存状況（後からの遺物の混入）などの点で多少違いのある可能性があるため分けて扱うこととした。

1～29は加曽利E式の深鉢形土器の口縁部破片である。1～4には口縁部直下に縄文を施した微隆起や浅い沈線による楕円形区画文がみられる。5は耳状の把手部分で、側面に縄文を有する。6～29は口縁部直下に無文部をもち、その下全面に縄文が施される、口縁部がやや内湾する深鉢形土器の口縁部破片である。6～9には縄文部内に部分的に磨消がみられる。無文部と縄文部の境界には、微隆



第103図　5層(貝層下)出土土器

起や浅い沈線のあるものもある。22～24は無文部と縄文部の境に１ないし２列の円形の刺突文をもつ。

30～37は称名寺式の深鉢形土器の口縁部破片である。30は頂部が円形に窪む把手である。31は２つの孔をもった橋状の把手である。32は沈線による区画内に縄文を充填する。33～37は沈線による区画内に列点を施す。

第28表　４～５層グリッド別土器組成

（重量比：単位ｇ）

グリッド＼型式	加曽利E	称名寺	堀之内Ⅰ	堀之内Ⅱ	加曽利B	不明	その他※	計
2A－23			174		13	54	29	270
2A－24			34					34
1D－09	24		61			32		117
1D－10			83	25		3		111
1D－14			26					26
1D－15			16					16
1D－20	85		19			3		107
1D－25			17					17
2D－06			98			5		103
2D－07			9					9
2D－08	167	26	211	6		10		420
2D－09	66		182	21		16	45	330
2D－12			225			5		230
2D－13	334	17	1905	40	66	465	123	2950
2D－14	285	365	3395			401	4	4450
2D－15	199	111	981		14	155		1460
2D－16	21		21			19		61
2D－17	14		282	16			13	325
2D－18			637			98		735
2D－18(確認)	410	126	2381			715	8	3640
2D－19	508	790	1494		40	545	23	3400
2D－21			5			11		16
2D－22			180			29	6	215
2D－23	186	17	366			28		597
2D－24	505	270	3100		50	975	80	4980
2D－25	872		1464	25	10	678	59	3108
2E－01	99		86			61		246
2E－02	111	134	2104	10		36		2395
2E－03	386	31	4912	8		875	38	6250
2E－04	297	93	3869	18		1113	60	5450
2E－05	101	153	2545		19	752	142	3712
2E－06	110	72	1214	6		240	48	1690
2E－07	242		2275			195		2712
2E－08	557	72	3408		65	618		4720
2E－09	117	29	4109	21	28	1293	27	5624
2E－10	455	33	4766	64	39	2173	111	7641
2E－11	310		528		13	84		935
2E－14		23	422			50		495
2E－20	308	175	3930		45	835	42	5335
2E－21	502	137	1902			111		2652
2E－22	183		854			263		1300
2E－23	205	38	797			65	5	1110
2E－24	79	20	566			89	26	780
2E－25	340	48	2236	10		420	46	3100
1F－25			53			5		58
2F－02	157	9	253			14	2	435
2F－03	74	27	247	12		61	19	440
2F－04	29	59	854			53	32	1027
2F－07			167			6	2	175
2F－08	181	62	905		9	246	39	1440
2F－09	255	140	1084			175	10	1664
2F－12	635	180	1430	42	13	232	18	2550
2F－13	605	260	1996	11		360	133	3365
2F－14	92	410	2414	6		508	70	3500
2F－16	339	14	564			62	21	1000
2F－17	645	64	1332		14	295	250	2600
2F－18	722	200	2932	6		345	78	4283
2F－19	209	176	1892	40		990	126	3433
2F－21			90					90
2F－22	102	14	223			26	9	374
2F－23	99	33	409		7	35	27	610
2F－24	37	74	1165	22		600	87	1985
2F－25			113			73	9	195
3E－18	445	43	1676	6		1345	185	3700
4E－20	84		64			170	166	484
4E－25		62	543			18	67	690
4F－03			232			13		245
4F－21			63			19	12	94
６トレ	675	265	4682		16	1534	390	7562
5E－11	28		556			77	64	725
4～5層総計	13491	4872	83828	415	459	20782	2751	126598

※ 弥生・土師・須恵・瓦など

38～53は堀之内Ⅰ式の深鉢形土器の口縁部および胴部破片である。38・40～42・44は地文の縄文上に沈線による直線・曲線文を施すものである。48は地文に縄文を持たず、櫛状の工具で曲線文様をつけたものである。43には口縁部直下に穿孔・縦位の沈線文、それ以下に円形の刺突文がみられ、また裏面にも縦位の沈線文を有する。50～53は口縁部以下全面に縄文を施すものである。

54・55は堀之内Ⅱ式の深鉢形土器の口縁部破片である。沈線による区画内に充填縄文がみられる。57は加曽利Ｂ式の、口縁部直下に横位の紐線文を有する粗製土器の口縁部破片である。紐線文以下には縄文が施される。

58は須恵器甕の胴部破片である。

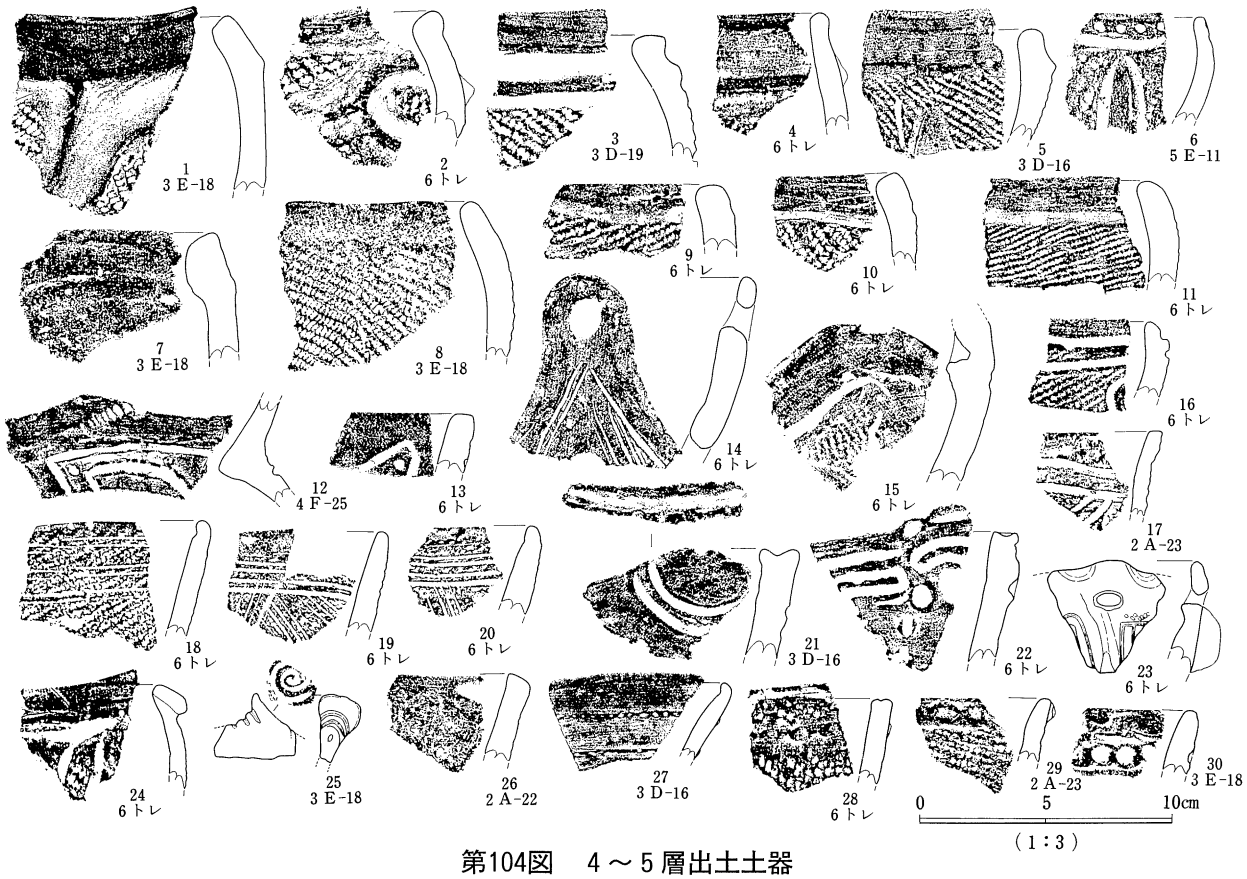
４～５　層（第28表・第104 図）

４・５層の区別の困難な土層中の遺物である。

１～11は加曽利Ｅ式の深鉢形土器の口縁部破片である。２は口縁部直下に、縄文を施した微隆起による楕円形区画文がみられる。１・３～11は、口縁部直下に無文部をもち、その下全面に縄文が施される、口縁部がやや内湾する深鉢形土器の口縁部破片である。１・５～７には縄文部内に微隆起や浅い沈線で区画された磨消がみられる。６の口縁部直下には１列の円形の刺突文が施される。

12～15は称名寺式の深鉢形土器の口縁部および胴部破片である。12・13には沈線区画内に列点がみられる。14は山形の把手部分の破片で、頂部と破損面に孔を有する。

16～23は堀之内Ⅰ式の深鉢形土器の口縁部部破片である。17～20は地文の縄文上に沈線による直線文を施すものである27は堀之内Ⅱ式の深鉢形土器の口縁部破片で、２本の細い紐線文がみられる。28～30は加曽利Ｂ式の、口縁部直下に横位の紐線文を有する粗製土器の口縁部破片である。28・29は紐線文以下に縄文が施される。



第104図　4～5層出土土器

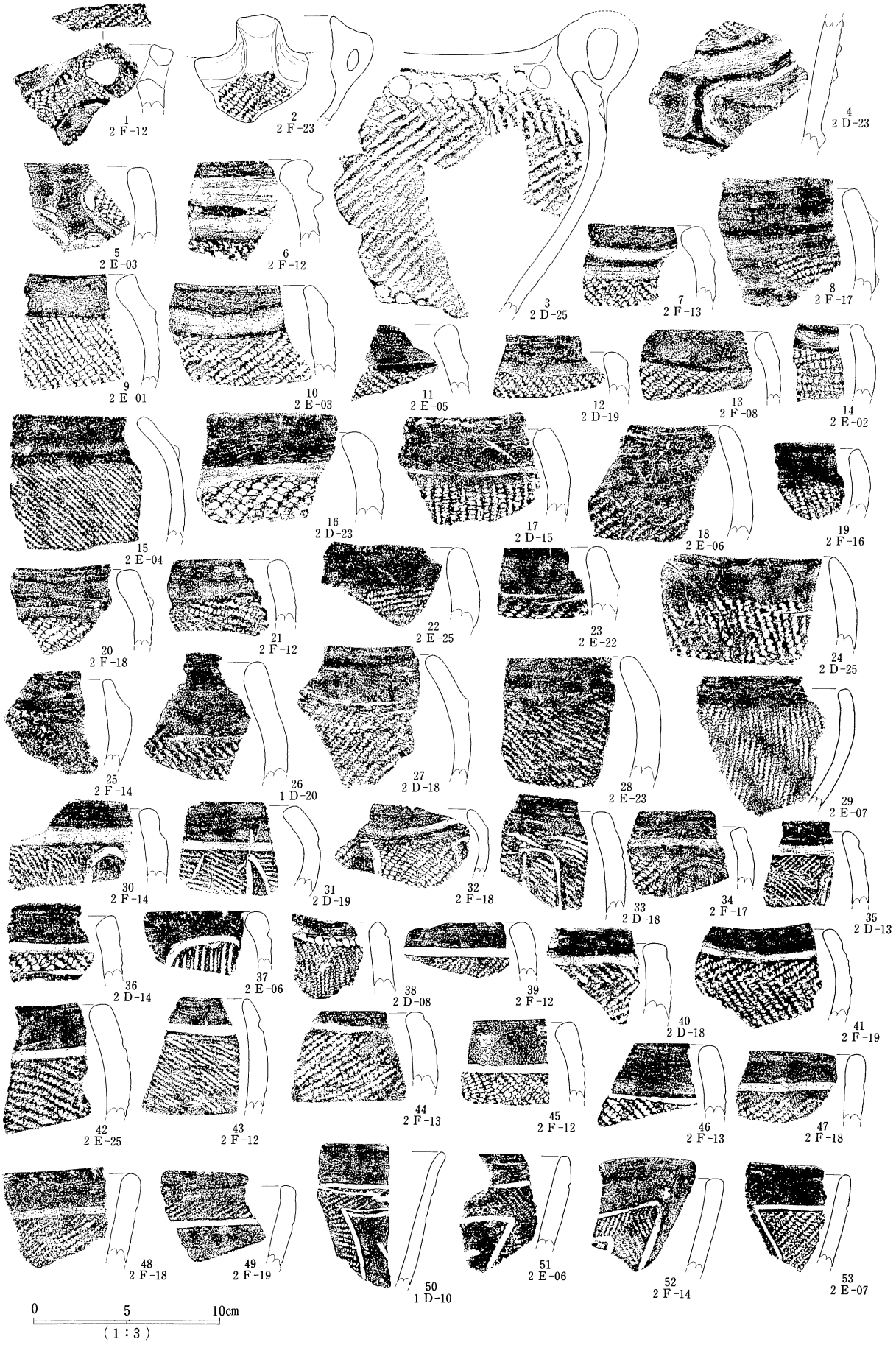
4～5　層（貝層下）（第28表・第105 ～109 図）

2D・2E・2F区の貝層下に存在した土層中の遺物である。上部が貝層に覆われているので、これ以外の貝層のない地点とは保存状況（後からの遺物の混入）などの点で多少違いのある可能性があるため分けて扱うこととした。

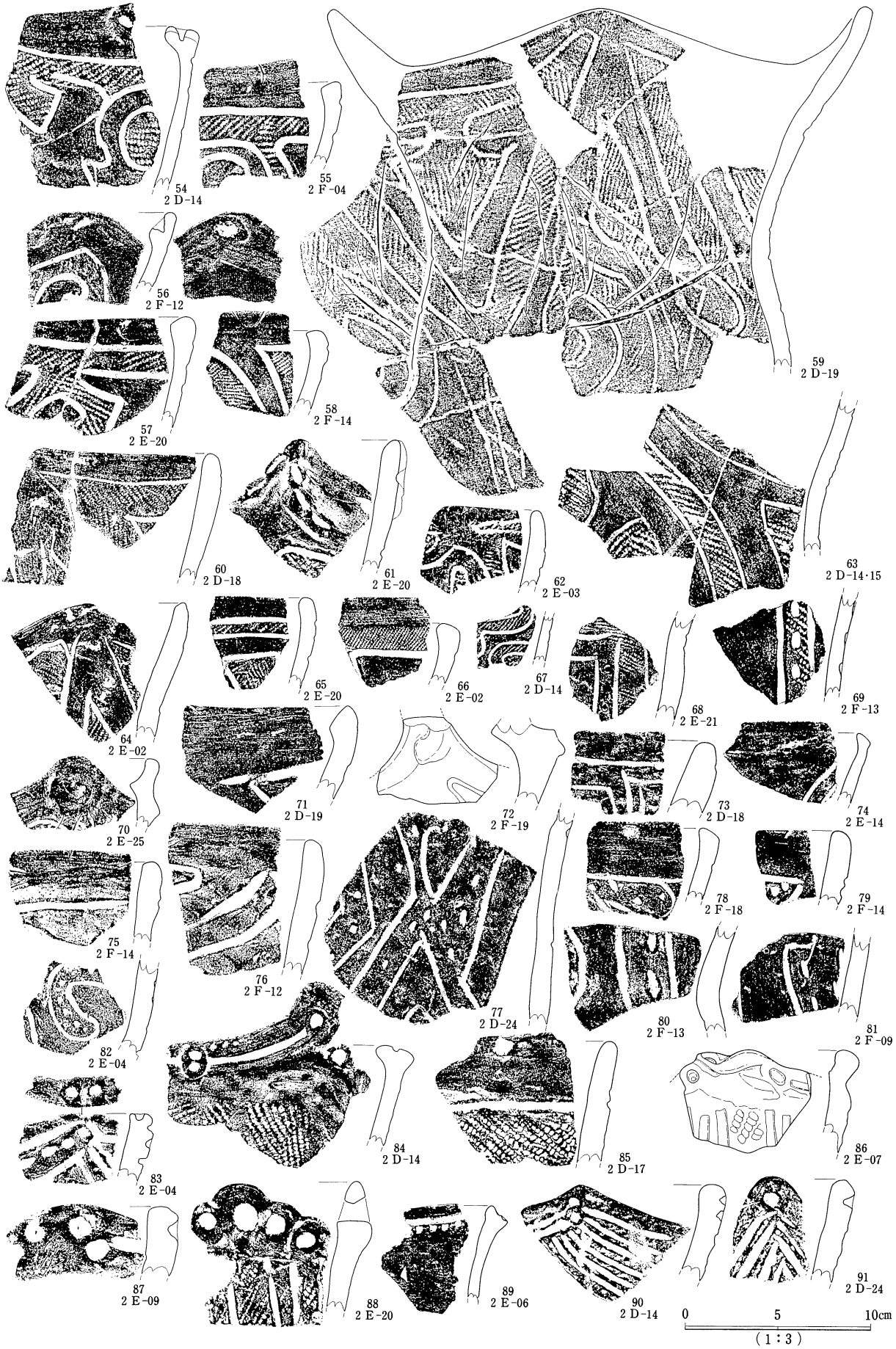
1～47は加曽利E式の深鉢形土器の口縁部および胴部破片である。5・8には口縁部直下に、縄文を施した微隆起による楕円形区画文がみられる。4は胴部破片であるが、微隆起による区画内磨消縄文がみられる。2・3・6・7・9～47は口縁部直下に無文部をもち、その下全面に縄文が施される、口縁部がやや内湾する深鉢形土器の口縁部破片である。30～36には縄文部内に浅い沈線で区画された磨消がみられる。無文部と縄文部の境界には、微隆起や浅い沈線のあるものもある。41には羽状縄文がみられる。2・3には耳状の把手が付く。また、3には無文部と縄文部の境界に円形の刺突文が1列施される。

48～84は称名寺式の深鉢形土器の口縁部および胴部破片である。48～66は沈線による区画内に縄文を充填するものである。59は口径推定29.6㎝・残存器高19.5㎝、4単位の波状口縁を有すものとみられ、沈線区画内にRL単節縄文を充填する。77～83は沈線による区画内に列点を有するものである。68・69には区画内に縄文と列点の両方がみられる。

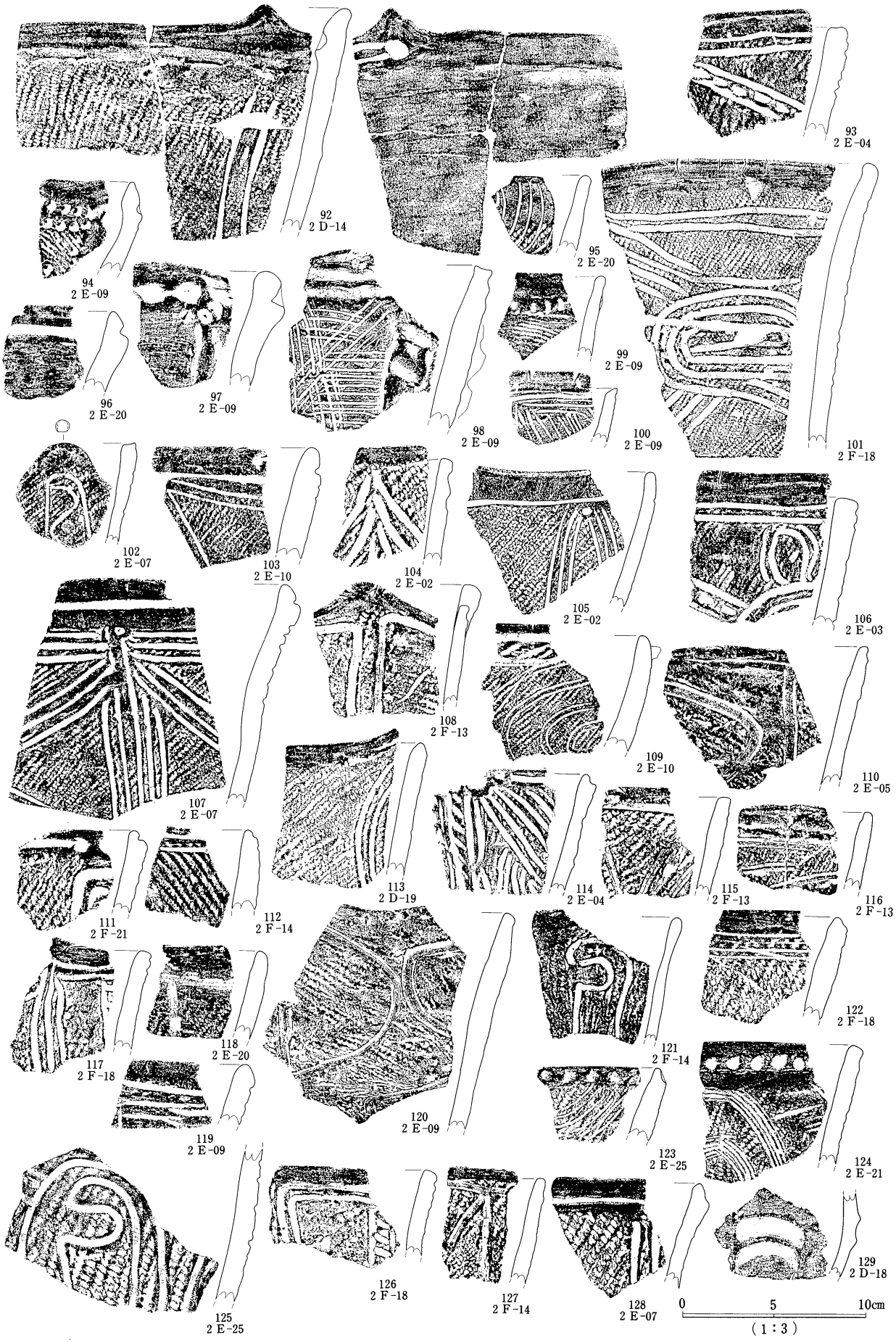
85～140・142～161は堀之内I式の深鉢形土器の口縁部および胴部破片である。86・88・90～93・95・99・101～118・120～128は、地文の縄文上に沈線による直線・曲線文を施すものである。98・100・119・136・137は地文の縄文をもたずに、直線文を施すものである。98には縦位の太い紐線文がみら



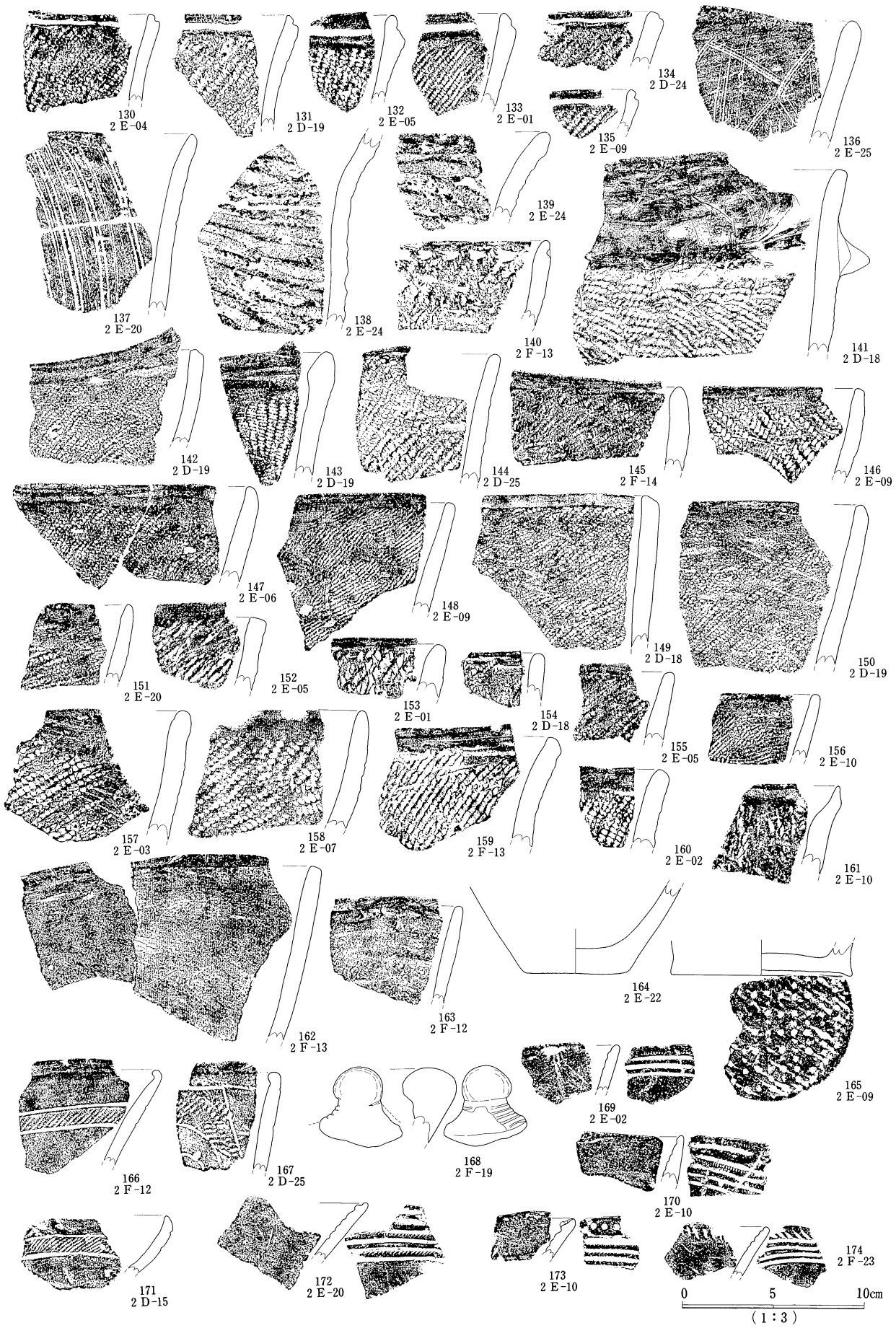
第105図　4～5層(貝層下)出土土器(1)



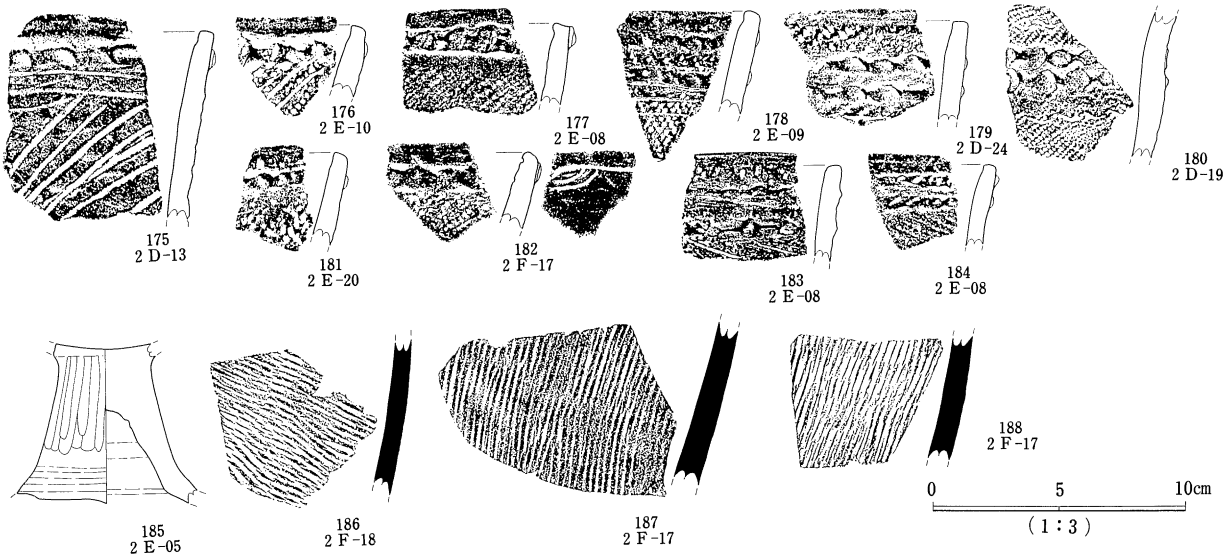
第106図　4～5層(貝層下)出土土器(2)



第107図　4～5層(貝層下)出土土器(3)



第108図　4～5層(貝層下)出土土器(4)



第109図　4～5層(貝層下)出土土器(5)

れる。94は地文の縄文上に半截竹管などの工具による円形刺突文が施される。130～135 は口縁部直下に横位の沈線文をもち、その下に縄文を施すものである。138・139は指頭または工具による調整痕を器面全面に残す土器の胴部および口縁部資料である。141は口縁部以下に無文部をもち、その下に縄文部を設ける土器の口縁部破片であるが、無文部と縄文部の境界に舌状の突起を有する。綱取式とみられる。140・142～161は、口縁部以下全面に縄文を施す土器の口縁部破片である。142・143の口縁部はゆるい山形を呈する部分がある。140には口縁部直下に1列の刺突文がみられる。

67・165～184は堀之内Ⅱ式・加曽利B式である。166・167は沈線区画内に縄文を充填する。165は底部破片であり、底径推定10.0cmを測る。底面に網代痕が認められる。171は浅鉢形土器の口縁部破片で、横帯文中に縄文を充填する。169・170・172～174は深鉢形および浅鉢形土器の口縁部破片で、内面に間隔の狭い横帯文がみられ、170・172・173では横帯文中に刻みを付す。175～184は口縁部直下に横位の紐線文を有する粗製土器の口縁部破片である。紐線文以下が177・181・182・184のように縄文のもの、176・178・179・183のように縄文に沈線文を加えるもの、175のように沈線文だけのものがある。180には紐線文の上下に縄文・結節文がみられる。また、182の内面には沈線文がわずかにみられる。

185～188は縄文時代以外の時期の遺物である。185は土

第29表　7層グリッド別土器組成

(重量比：単位g)

グリッド＼型式	加曽利E	称名寺	堀之内Ⅰ	堀之内Ⅱ	加曽利B	不明	その他※	計
2A－21			76		7	4	25	112
2A－22			48		8	14	4	74
2A－23			26			2	6	34
2A－24			6			4		10
2A－25							4	4
1B－03			17				16	33
1B－04			10				14	24
1B－08						10		10
1B－13			15			10		25
1B－14			13			4		17
1B－15								+
1B－18						8	19	27
1B－19			62			25		87
1B－20			23					23
2B－01			5			5	1	11
2B－02						5	6	11
2B－12			13					13
2B－13	54		30			18	6	108
2B－14	30		14					44
2B－16			48					48
2B－18		49	21					70
2B－19			38					38
2B－20			300					300
2B－22			51					51
2B－23			54			2	5	61
2B－24	63		41		10	8	7	129
2B－25	76		1529			675	225	2505
1C－14			143			30		173
1C－19	171	40	496		23	370	15	1115
1C－24			56					56
1C－25	39		22					61
2C－21			29			24		53
2C－22			16			25		41
2C－24			11					11
2C－25	47	3						50
1D－03			32					32
1D－05			25				14	39
1D－08			27			30	6	63
1D－10			8			2		10
1D－13		17	109			5		131
1D－24			86					86
1D－25			12					12
2D－01			38			3		41
2D－02			3			15		18
2D－03	22		6			14		42
2D－06		6	28			10	12	56
2D－07	11		53			12	25	101
2D－08						9		9
2D－10	9		31					40
2D－18(確認)	36		204					240
3E－20	29		14			11		54
3E－25			45			4		49
5E－13			39			1		40
5E－22			5					5
5E－23			29					29
5E－24			5					5
5F－14			8					8
	587	115	4020		48	1359	410	6539

※ 弥生・土師・須恵・瓦など

師器高坏の破片である。186～188は須恵器甕の胴部破片である。

7　層（第29表・第110図）

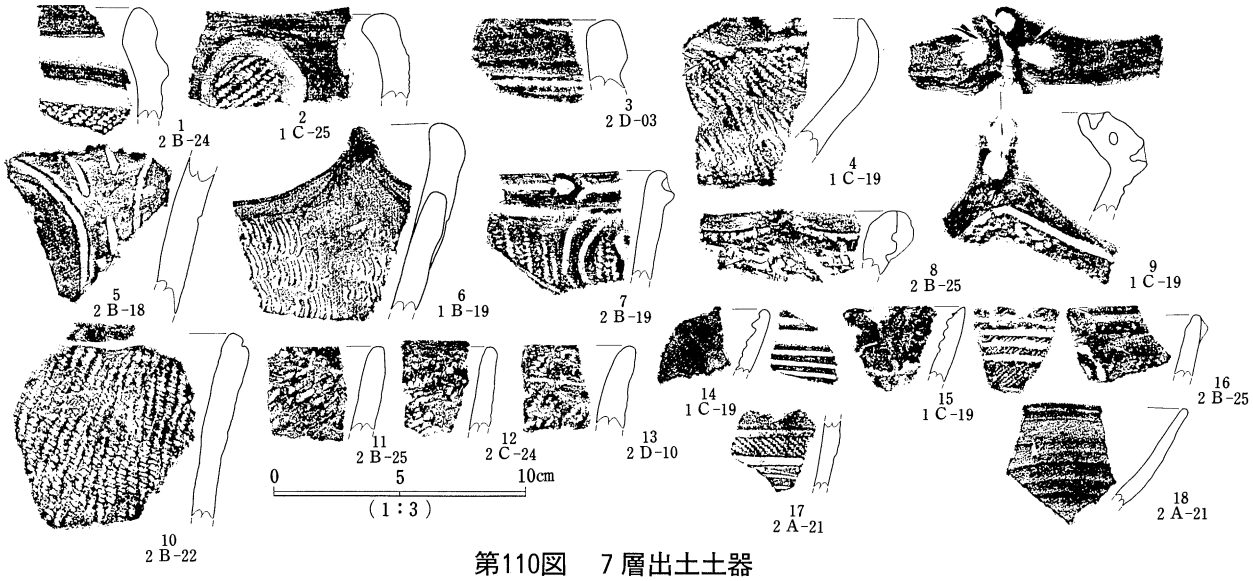
1～4は加曽利E式の深鉢形土器の口縁部破片である。2は口縁部直下に、縄文を施した微隆起による楕円形区画文がみられる。1・3・4は口縁部直下に無文部をもち、その下全面に縄文が施される、口縁部がやや内湾する深鉢形土器の口縁部破片である。

5・9は称名寺式の深鉢形土器の口縁部および胴部破片である。5は沈線による区画内に列点が施され、9は縄文が充填される。また、9の口縁部は波状を呈し、内側に屈曲する

6～8・10～13は堀之内Ⅰ式の深鉢形土器の口縁部破片である。6の口縁部は波状を呈し、やや長い短い縦位の爪形文状の沈線文が連続して器面全体にみられる。7・13は、地文に縄文を有しその上に沈線による直線・曲線文を施すものである。8は口縁部直下に2条の沈線を有し、その中に連続する刺突文を施すもので、中央に張付文がある。10は口縁部直下に1条の横位の沈線をもち、それ以下が縄文となる。11・12は口縁部以下全面に縄文を施すものである。

14～16は堀之内Ⅱ・加曽利B式である。14・15は深鉢もしくは浅鉢形土器の口縁部破片で、内面に間隔の狭い横帯文をもち、15には横帯文中に刻みを付す。16は口縁部直下に紐線文をもつが、かなり摩滅している。17は安行式の胴部破片と思われる。横帯文中に縄文が充填される。

18は土師器坏の口縁部破片である。



第110図　7層出土土器

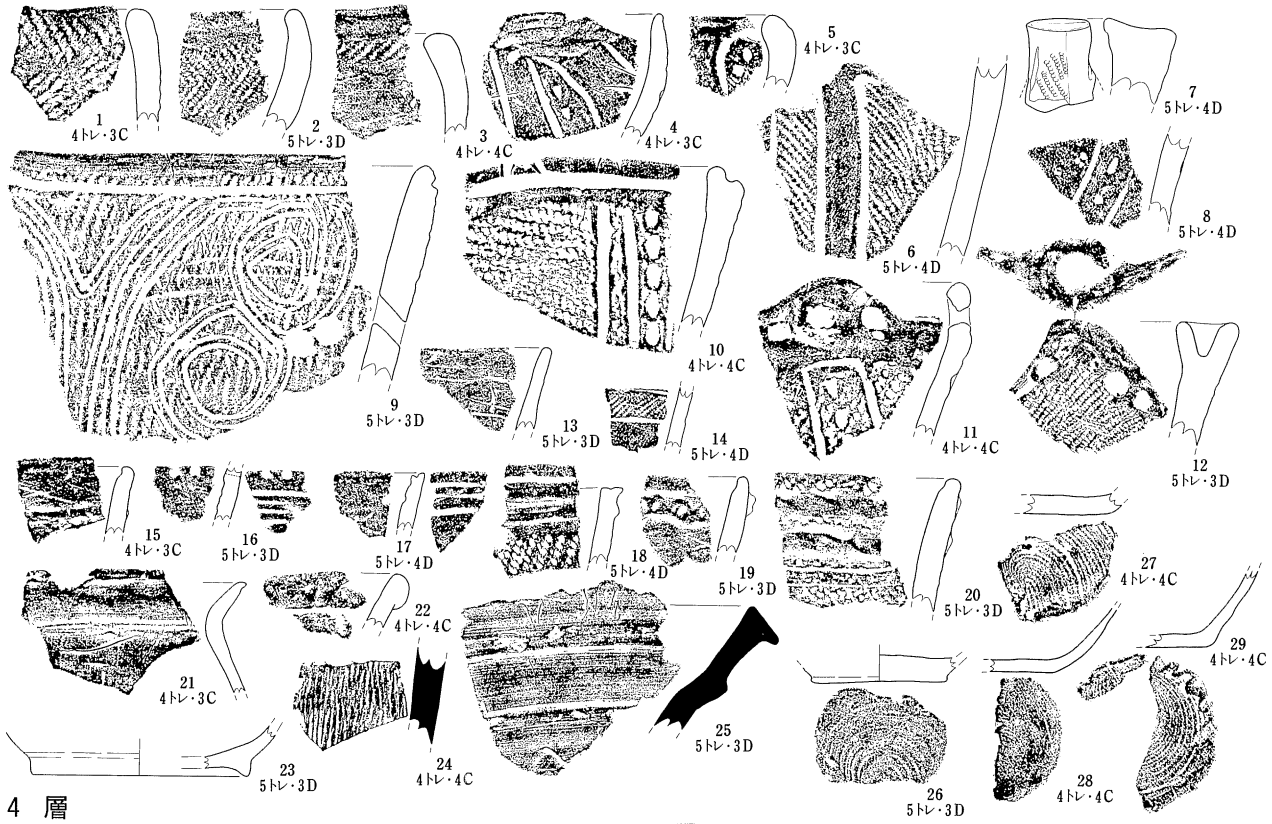
谷部包含層（第30表・第111・112図）

3　層

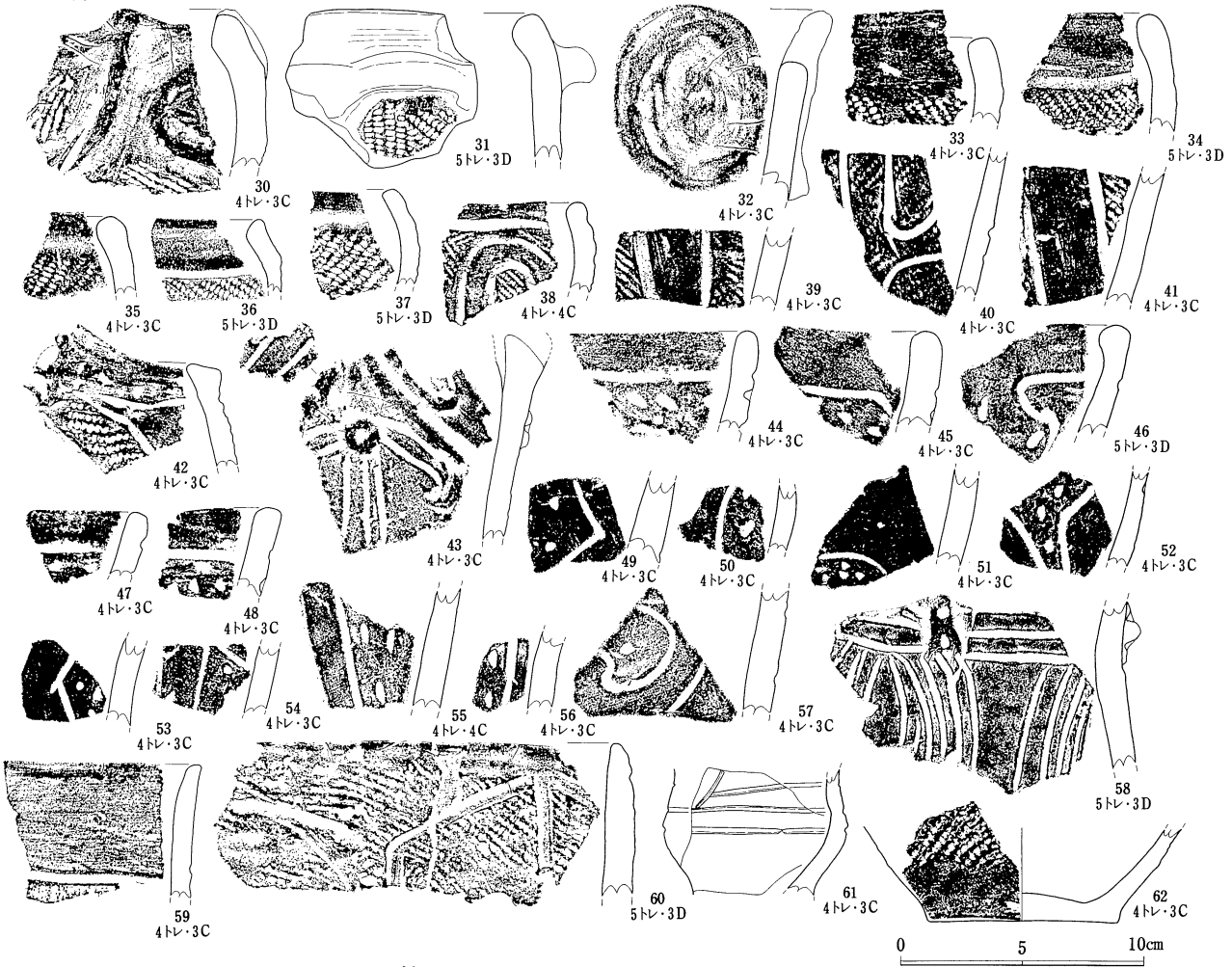
1～3は加曽利E式の口縁部がやや内湾する深鉢形土器の口縁部破片である。1・2は口縁部以下ほぼ全面に縄文が施されるものと思われる。羽状縄文である。3は縄文が帯状に残るように磨消されている。

4～8は称名寺式の深鉢形土器の口縁部および胴部の破片である。4・5・8は沈線による区画内

3 層

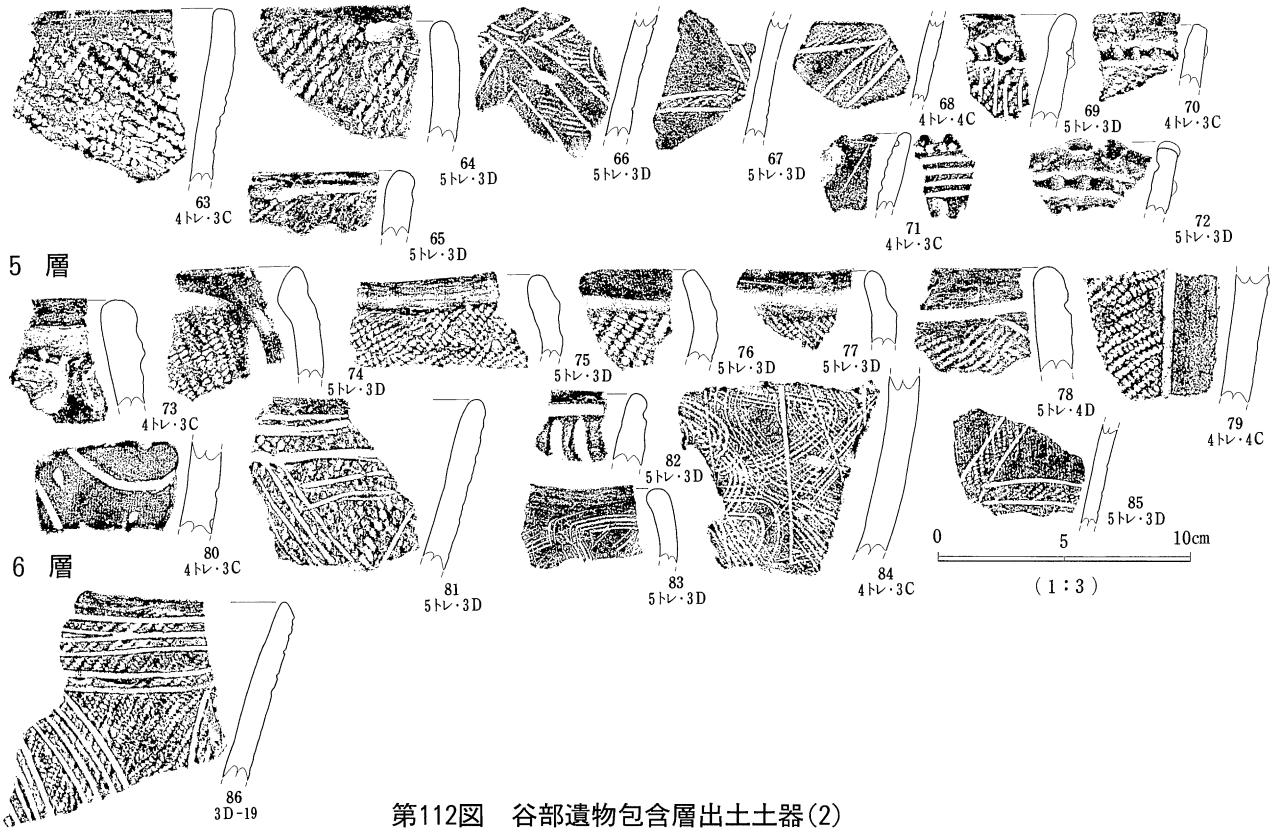


4 層



第111図　谷部遺物包含層出土土器(1)

(1:3)



第112図　谷部遺物包含層出土土器(2)

第30表　谷部遺物包含層　層位・トレンチ別土器組成

型式 / 層 / グリッド	加曽利E					称名寺					堀之内Ⅰ					堀之内Ⅱ					加曽利B					その他(弥生・土師・須恵・瓦など)					不　明					計				
	2	3	4	5	6	2	3	4	5	6	2	3	4	5	6	2	3	4	5	6	2	3	4	5	6	2	3	4	5	6	2	3	4	5	6	2	3	4	5	6
4トレ(3C)		60	920	213			50	610	196			4438	3986	664			37						17				675	319				4650	2624	87			9910	9476	1160	
4トレ(4C)		132	270	124			11	43				3832	2082	46				10									615	155				4700	1900	55			9290	4460	225	
5トレ(3D)		220	530	230			70	84	7			6571	3794	1562			30	70	18			55	15				550	30				9100	1550	251			16596	6073	2068	
5トレ(4D)		95	235	172			101	13				2597	1057	282			27										190	250	7			1950	400	56			4941	1955	517	
5トレ(5D)			28									29	95															7				21					50	130		
3D-16(確認)		12	170				48	105				1894	1922					44					22				190	57				1477	830				3621	3150		
3D-19(確認)		27	66		30		15			21		1889	1939		511		9					13	26				82	33		13		2300	1715				4335	3779		575

に列点を施すもので、6は縄文を充填している。7は円柱状の把手である。

9～12は堀之内Ⅰ式のの深鉢形土器の口縁部破片である。縄文を地文にもち、その上に沈線による直線・曲線文が施される。12は山形を呈する口縁で、頂部は逆「の」の字状に巻いている。

13～20は堀之内Ⅱ式・加曽利B式である。14は胴部破片で、沈線区画内に充填縄文がみられる。15は口縁直下に細い紐線文を有する。16・17は深鉢もしくは浅鉢形土器の口縁部破片で、内面に横位の沈線文がみられる。18～20は口縁部直下に紐線文をもつ粗製土器の口縁部破片で、紐線文以下には18は縄文、20は縄文と沈線文がみられる。

21～29は縄文時代以外の時期の遺物である。21は土師器甕の口縁部破片である。23は高台付坏の破片で、底径推定8.5cm。24・25は須恵器甕の破片である。26～29は糸切り底のみられる土師器坏の底部破片である。26は底径5.4cm。

4　層

30～39・41は加曽利Ｅ式の口縁部がやや内湾する深鉢形土器の口縁部および胴部の破片である。30には口縁部直下に、縄文を施す微隆起による楕円形区画がみられる。31は、口縁部下に突起状の貼付がある。38・39・41には磨消縄文がみられる。33～37は口縁部直下に無文部をもち、それ以下に縄文が施される。無文部と縄文部の境界には浅い沈線のみられるものもある。

42～57は称名寺式の深鉢形土器の口縁部および胴部の破片である。44～57には沈線による区画内に列点文が施され、42には縄文が充填される。

40・58～64は堀之内Ⅰ式の深鉢形土器の口縁部および胴部の破片である。40・60は縄文を地文としその上に沈線による直線・曲線文をもつ。58・59・61は沈線だけによって文様を施している。61は胴部最大径7.0㎝を測る小形の土器である。58には８の字貼付文がみられる。63～65は口縁部以下全面に縄文が施されるものである。

66～72は堀之内Ⅱ式・加曽利Ｂ式である。66～68は沈線区画内に縄文を充填する。71は深鉢もしくは浅鉢形土器の口縁部破片であり、内面に横位の沈線文が施される。69・70・72は口縁部直下に紐線文をもつ粗製土器の口縁部破片で、紐線文以下には70は縄文、69は縄文と沈線文がみられる。

5　層

73～79は加曽利Ｅ式の、口縁部がやや内湾する深鉢形土器の口縁部および胴部の破片である。73・74には口縁部直下に、縄文を施す微隆起による楕円形区画がみられる。75～78は口縁部直下に無文部をもち、それ以下に縄文が施される。無文部と縄文部の境界は、微隆起と浅い沈線によるものとがある。79は胴部破片で、磨消縄文がみられる。

80は称名寺式の深鉢形土器の胴部破片で、沈線による区画内に列点が施される。

81～84は堀之内Ⅰ式の深鉢形土器の口縁部および胴部の破片で、81は地文に縄文をもち、その上に沈線による直線文を施し、83・84は地文をもたずに沈線による曲線文を施している。

85は堀之内Ⅱ式の深鉢形土器の胴部の破片で、沈線区画内に縄文を充填する。

6　層

86は堀之内Ⅰ式の深鉢形土器の口縁部破片で、地文に縄文をもち、その上に沈線による直線文を施している。

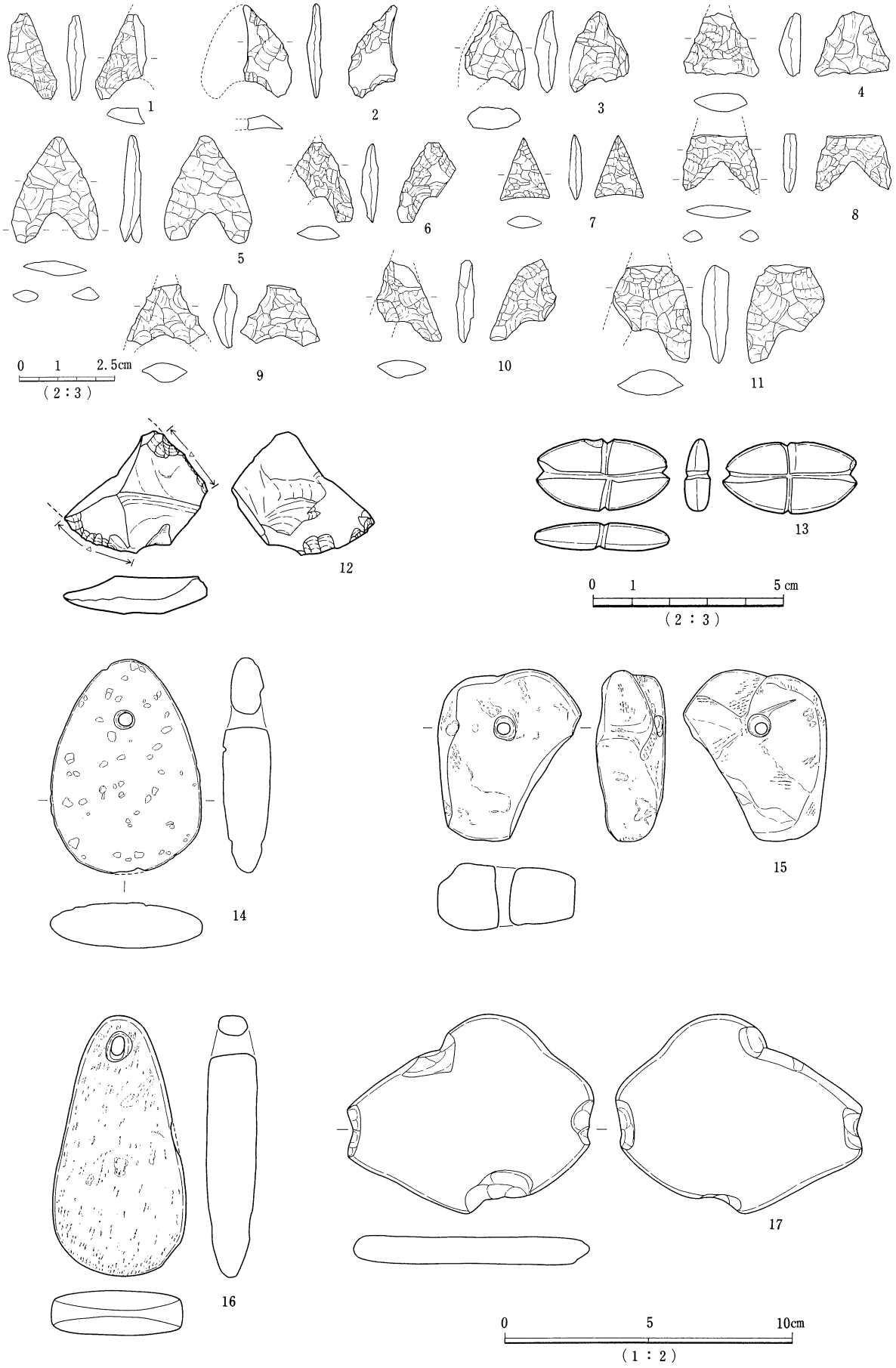
b　石　器・石製品（第31・32表、第113～116図）

遺物包含層中からは、２層11点・３層19点・４層23点・５層９点・４～５層15点・７層３点・不明５点、計85点の石器が検出され、また剥片石器の製作などに関連するフレーク・コアが78点、被熱したものを含めて大小様々な礫が484点出土している。それぞれの遺物の計測データなどについては、第31・32表に一覧としたが、ここではそれぞれの器種について特徴を述べる。

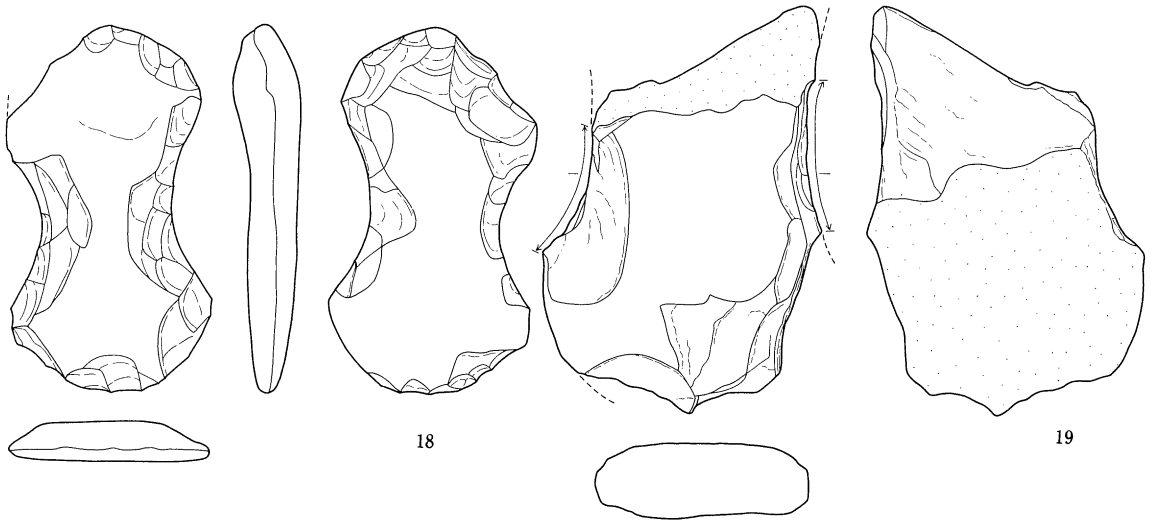
石　鏃（第113図－１～11）

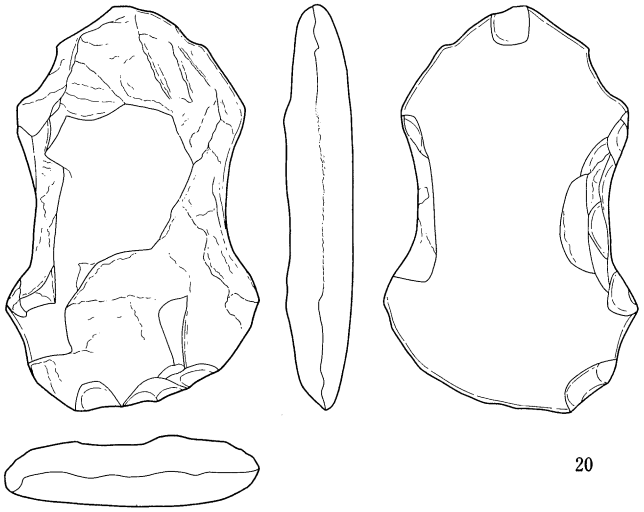
11点検出されている。形態的には凹基無茎鏃９点、平基無茎鏃２点で、貝層中から検出されたものと同様に全て無茎鏃でしかも凹基のものが多い。大きさは最小1.7㎝・最大2.8㎝、重さは最小0.5g・最大2.2gである。石材は黒曜石・チャートが使われている。

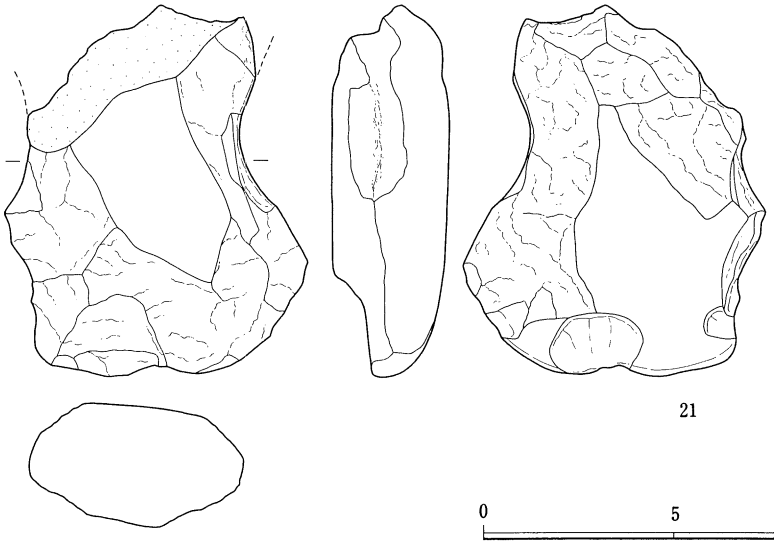
スクレーパー（第113図－12）



第113図　遺物包含層出土石器・石製品(1)

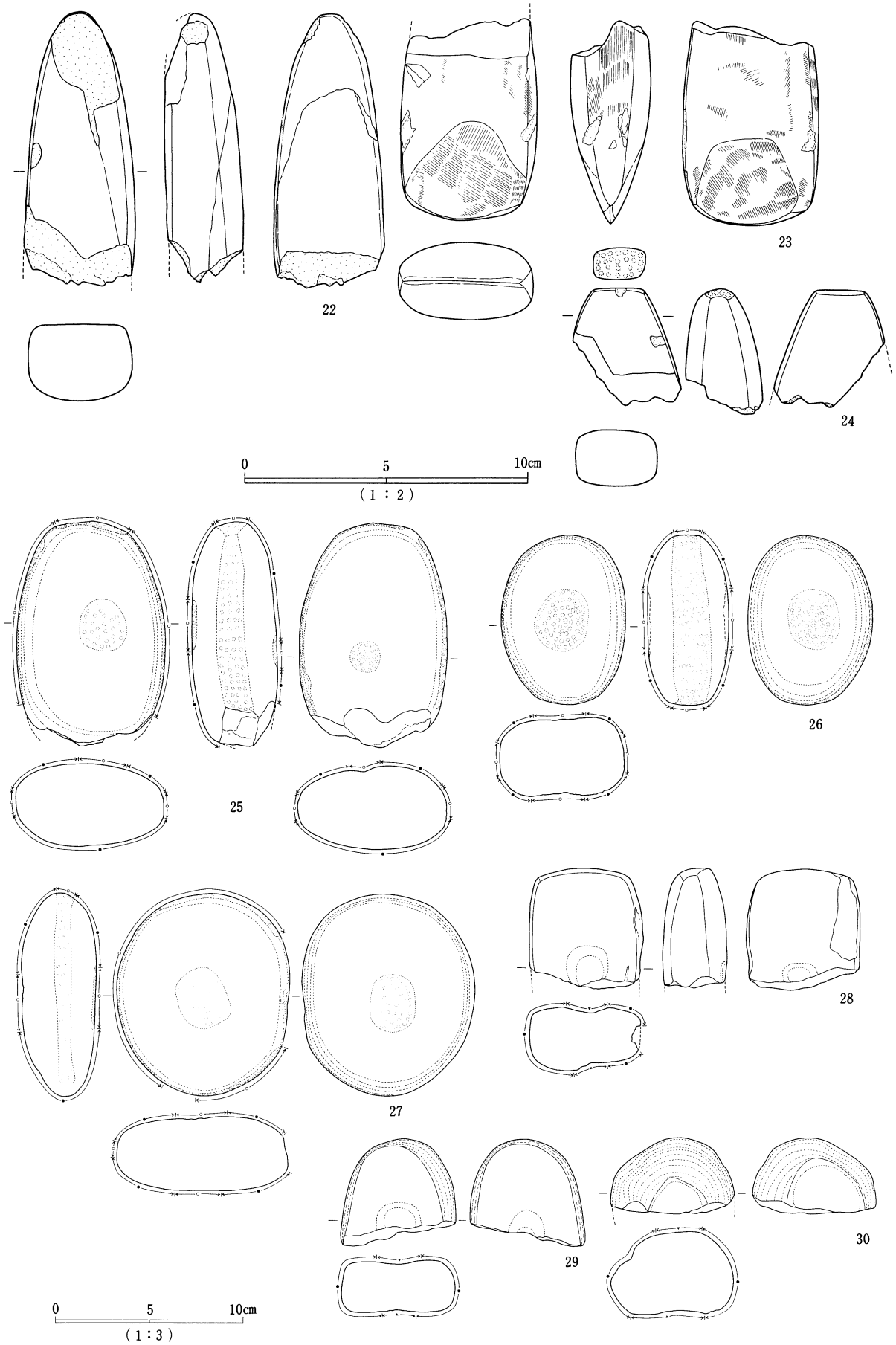




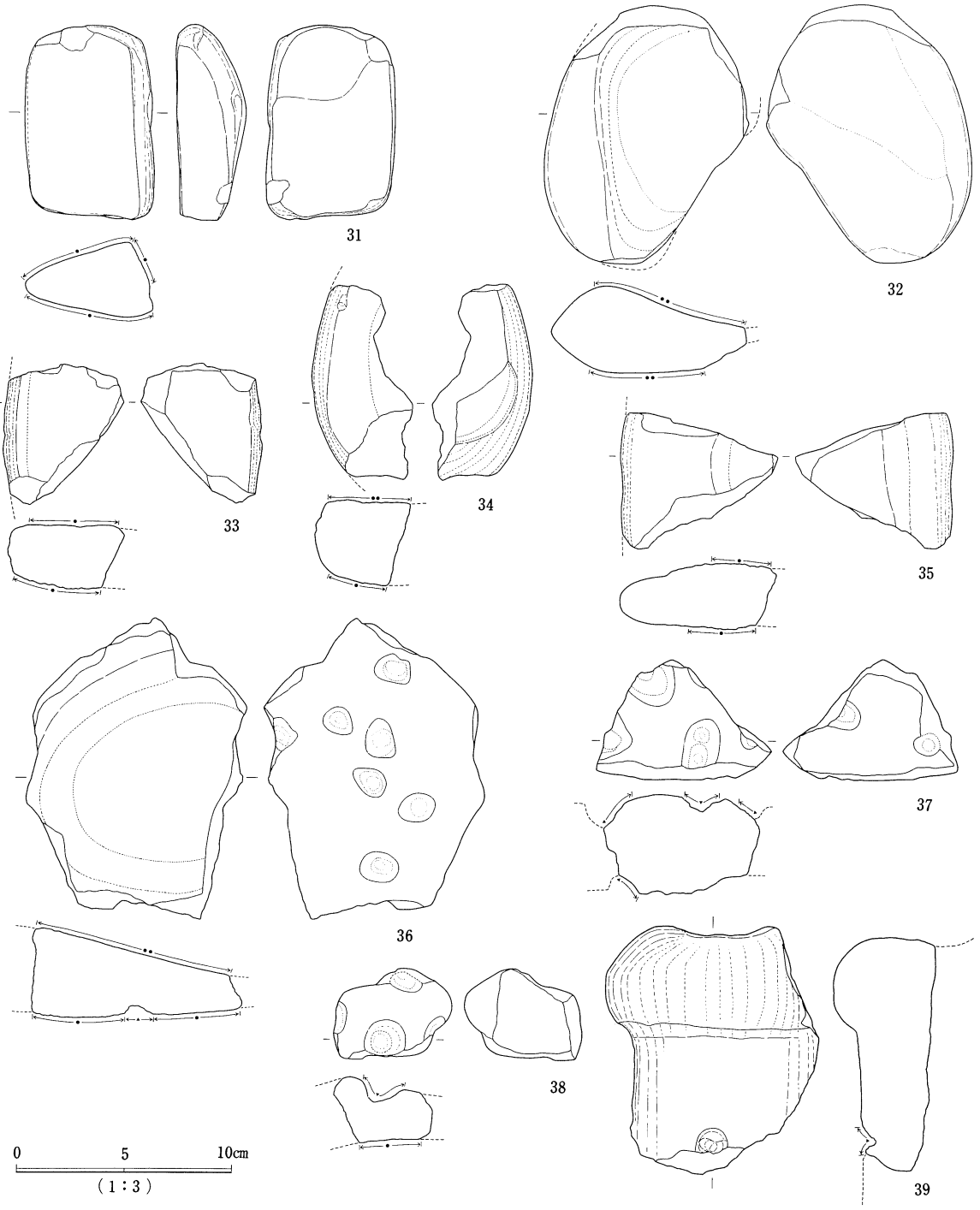


0 5 10cm
(1:2)

第114図　遺物包含層出土石器・石製品(2)



第115図　遺物包含層出土石器・石製品(3)



第116図　遺物包含層出土石器・石製品(4)

比較的大型のものが１点検出されたが、76点のフレークの中にはスクレーパーとして機能したものも存在している可能性はある。最大3.7㎝、8.5gを測り、石材には黒曜石を使用している。２側面に刃部加工が施される。

石　錘（第113図－13・17）

２点検出された。１点は有溝石錘で、最大長3.6㎝・最大幅1.9㎝・最大厚0.6㎝・重さ6.8gを測る。自然石の長軸・短軸方向に幅1.5㎜ほどの溝を十の字状に入れたものであり、貝層中から検出された資料と大きさ・形態とも非常によく似ており、この器種が道具としてこの地域の後期前葉段階にある

第31表　遺物包含層出土石器・石製品　計測表

番号	器種	出土区	出土層	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石質	残存状態	図番号
1	石鏃	2D－18	2	(2.3)	(1.2)	0.4	0.8	黒曜石	半欠	113－1
2	石鏃	2E－22	2	2.5	(1.2)	0.3	0.8	黒曜石	半欠	113－2
3	石鏃	4トレ(3C)	3	(2.6)	(1.6)	0.5	1.4	黒曜石	一部欠	113－3
4	石鏃	5トレ(3D)	3	(1.7)	2.0	0.5	1.4	黒曜石	一部欠	113－4
5	石鏃	5トレ(4D)	3	2.8	2.8	0.4	2.2	チャート	完形	113－5
6	石鏃	3F－17	4	(2.2)	(1.5)	0.4	1.0	黒曜石	一部欠	113－6
7	石鏃	6トレ	5	1.7	1.3	0.3	0.5	黒曜石	完形	113－7
8	石鏃	2E－18	4～5	(1.5)	2.0	0.3	0.9	黒曜石	半欠	113－8
9	石鏃	2F－24	4～5	(1.6)	(2.1)	0.5	1.3	チャート	一部欠	113－9
10	石鏃	表採	－	(2.6)	(2.0)	0.6	2.9	黒曜石	一部欠	113－11
11	石鏃	表採	－	(2.2)	(1.4)	0.4	1.2	黒曜石	一部欠	113－10
12	スクレーパー	2E－20	4～5	(3.3)	(3.7)	1.0	8.5	黒曜石	一部欠	113－12
13	打製石斧	3F－19	4	(9.8)	(7.4)	3.0	240.0	安山岩	一部欠	114－21
14	打製石斧	3F－04	4	9.7	5.3	1.4	80.0	砂岩	完形	114－18
15	打製石斧	3F－20	4	(10.8)	(7.4)	1.8	145.7	頁岩	一部欠	114－19
16	打製石斧	2E－09	4～5	10.6	6.8	1.5	139.5	安山岩	完形	114－20
17	磨製石斧	3F－09	3	(4.2)	(3.4)	2.4	55.5	砂岩	破片	115－24
18	磨製石斧	2F－19	4	(9.6)	3.8	2.6	171.7	蛇紋岩	一部欠	115－22
19	磨製石斧	3F－25	5	(8.2)	4.8	2.9	164.2	砂岩	一部欠	115－23
20	石錘	3F－08	2	1.9	3.6	0.6	6.8	砂岩	完形	113－13
21	石錘	2E－12	5	7.0	8.5	1.0	84.3	砂岩	完形	113－17
22	浮子	1C－20	3	9.1	4.6	1.4	15.8	軽石	完形	113－16
23	浮子	3F－12	4	6.0	4.9	2.3	19.3	軽石	完形	113－15
24	浮子	2F－10	4～5	7.5	5.2	1.6	12.7	軽石	完形	113－14
25	軽石	5トレ(4D)	3	3.3	3.4	2.4	7.9	軽石	完形	
26	軽石	3F－08	4	(4.7)	(3.1)	1.8	11.4	軽石	破片	
27	軽石	3F－08	4	4.3	(3.6)	3.3	11.5	軽石	破片	
28	軽石	5F－09	4	8.4	5.4	2.6	29.7	軽石	一部欠	
29	軽石	2E－09	4～5	1.2	1.1	0.7	0.1	軽石	完形	
30	軽石	2F－02	4～5	1.4	1.2	0.9	0.3	軽石	完形	
31	軽石	2F－14	4～5	4.8	2.6	2.4	6.2	軽石	完形	
32	石棒	3F－14	3	(11.0)	(8.6)	(4.6)	705.0	緑泥片岩	破片	116－39
33	たたき石	2B－21	3	10.0	5.2	3.1	217.9	砂岩	完形	
34	凹石	2B－12	3	(11.9)	7.9	4.6	700.0	安山岩	一部欠	115－25
35	凹石	2F－24	4	10.8	9.3	4.0	610.0	石英斑岩	完形	115－27
36	たたき石	5F－19	4	7.5	5.6	3.1	194.6	チャート	一部欠	
37	凹石	2E－08	ベルト4	(5.0)	6.1	2.7	108.7	砂岩	半欠	115－29
38	凹石	4E－24	4	(6.4)	6.1	3.4	168.1	安山岩	半欠	115－28
39	凹石	2F－10	4	9.1	6.7	4.3	435.0	安山岩	完形	115－26
40	凹石	3E－25	7	(3.9)	6.5	4.4	90.0	安山岩	破片	115－30
41	磨石	2D－04	2	(3.7)	(3.5)	(2.0)	13.1	安山岩	破片	
42	磨石	2E－02	2	(5.3)	5.2	(1.0)	47.7	石英斑岩	破片	
43	磨石	2E－02	2	(3.3)	(3.9)	4.5	90.1	石英斑岩	破片	
44	磨石	2E－15	2	(7.8)	(4.2)	(3.8)	207.5	石英斑岩	破片	
45	磨石	3E－22	2	(5.3)	(2.6)	(2.9)	42.7	安山岩	破片	
46	磨石	3F－03	2	(6.8)	(2.2)	(3.9)	75.9	安山岩	破片	
47	磨石	2B－22	3	(4.0)	(3.3)	(1.5)	24.7	石英斑岩	破片	
48	磨石	2B－22	3	7.9	5.5	(2.6)	134.5	安山岩	半欠	
49	磨石	2C－12	3	(5.2)	(3.3)	4.0	87.9	安山岩	破片	
50	磨石	2C－13	3	(4.5)	(3.5)	(1.7)	34.5	砂岩	破片	
51	磨石	1D－05	3	(6.0)	(6.9)	(2.6)	96.7	安山岩	破片	
52	磨石	2D－07	3	(2.5)	(2.2)	(3.0)	23.6	石英斑岩	破片	
53	磨石	3E－22	3	(3.8)	(2.4)	(3.6)	45.3	砂岩	破片	
54	磨石	3F－11	3	(3.9)	(3.8)	(2.0)	43.8	ホルンフェルス	破片	
55	磨石	3F－12	3	(6.5)	(3.3)	(3.4)	89.6	砂岩	破片	
56	磨石	3F－14	3	(6.6)	(4.4)	3.9	128.5	安山岩	破片	
57	磨石	2C－11	4	(6.4)	6.0	3.8	225.0	砂岩	半欠	
58	磨石	2F－19	4	(2.4)	(4.5)	(1.1)	9.7	安山岩	破片	
59	磨石	2F－20	4	9.1	7.1	5.7	495.0	石英斑岩	完形	
60	磨石	2F－20	4	(4.2)	(4.3)	(2.5)	54.5	安山岩	破片	
61	磨石	2F－24	4	(5.0)	(7.0)	4.4	192.3	砂岩	破片	
62	磨石	2F－24	4	14.8	8.7	5.2	1035.0	石英斑岩	完形	
63	磨石	3F－07	4	9.0	4.9	3.7	255.0	砂岩	完形	
64	磨石	3F－13	4	(1.9)	(5.9)	(4.5)	68.2	砂岩	破片	
65	磨石	2F－10	5	9.7	5.9	4.2	305.0	安山岩	一部欠	
66	磨石	3E－19	5	(4.8)	(4.2)	(3.8)	86.2	チャート	破片	
67	磨石	3F－01	5	(6.9)	(3.7)	(3.3)	96.2	石英斑岩	破片	
68	磨石	3F－09	5	(3.9)	(6.5)	(1.7)	56.9	安山岩	破片	
69	磨石	2D－14	4～5	(4.9)	(6.8)	3.4	145.6	石英斑岩	破片	
70	磨石	2D－24	4～5	(3.1)	(6.1)	(2.0)	33.5	安山岩	破片	
71	磨石	2E－05	4～5	(4.5)	(3.7)	(3.9)	88.1	石英斑岩	破片	
72	磨石	2E－08	4～5	10.7	5.6	6.2	530.0	チャート	一部欠	
73	磨石	2E－09	4～5	(4.4)	(5.1)	3.2	88.7	砂岩	破片	
74	磨石	2E－20	4～5	(6.0)	(4.5)	(4.4)	132.3	石英斑岩	破片	
75	磨石	2F－13	4～5	(6.7)	7.3	1.7	81.6	石英斑岩	破片	
76	磨石	2B－25	7	(6.0)	(4.2)	(1.5)	49.5	石英斑岩	破片	
77	磨石	2E－20	3～5	(4.7)	(4.9)	3.6	115.9	安山岩	破片	
78	磨石	1トレ	一括	(5.8)	(4.1)	5.2	226.4	石英斑岩	破片	
79	磨石	2トレ	一括	(9.0)	5.9	3.5	222.9	砂岩	一部欠	116－31
80	石皿	2C－21～25	2	(6.2)	(7.3)	3.2	131.0	安山岩	破片	116－35
81	石皿	2F－15	2	(6.3)	(5.2)	3.1	139.3	安山岩	破片	116－33
82	石皿	5トレ(4D)	3	(2.9)	(4.7)	2.1	34.4	安山岩	破片	
83	石皿	3F－12	4	(3.9)	(5.6)	2.8	64.1	砂岩	破片	116－38
84	石皿	2F－20	4	(12.4)	(9.2)	4.2	535.0	砂岩	一部欠	116－32
85	石皿	3F-21・2F-19	4	(6.9)	(6.2)	2.1	133.0	ホルンフェルス	破片	
86	石皿	5F－12	4	(13.9)	(9.8)	3.9	585.0	安山岩	破片	116－36
87	石皿	2F－20	5	(8.7)	(4.2)	4.4	130.0	安山岩	破片	116－34
88	石皿	3F－25	5	(2.7)	(4.2)	2.1	26.9	安山岩	破片	
89	石皿	2D－23	4～5	(7.1)	(5.7)	2.3	80.6	砂岩	破片	
90	石皿	2E－09	4～5	(4.0)	(6.4)	(2.9)	93.2	安山岩	破片	
91	石皿	2F－14	4～5	(4.3)	(6.1)	(5.7)	275.0	砂岩	破片	
92	石皿	2A－22	7	(5.5)	(8.1)	4.9	194.8	安山岩	破片	116－37
93	フレーク	2B－19	2	3.5	2.7	1.0	10.8	チャート		
94	フレーク	2C－24	2	2.8	1.6	1.2	4.8	黒曜石		
95	フレーク	2D－03	2	2.5	2.0	1.1	7.6	チャート		
96	フレーク	2D－14	2	4.4	1.7	0.7	6.8	チャート		
97	フレーク	2D－19	2	2.9	2.0	0.7	4.6	頁岩		
98	フレーク	2D－21～25	ベルト2	1.3	1.0	0.4	0.5	黒曜石		
99	フレーク	2D－21～25	ベルト2	1.3	0.6	0.1	0.2	黒曜石		
100	フレーク	2E－10	2	3.0	1.8	1.1	5.3	黒曜石		
101	フレーク	2E－20	2	2.5	1.4	1.2	4.1	黒曜石		
102	フレーク	2E－24	2	1.8	1.8	0.7	2.6	チャート		
103	フレーク	3E－19	2	1.7	1.1	0.8	1.1	黒曜石		
104	フレーク	3E－19	2	1.7	0.9	0.4	0.6	黒曜石		
105	フレーク	3E－20	2	2.7	2.5	1.2	6.3	?		
106	フレーク	2F－10	2	4.2	1.6	1.6	13.8	チャート		
107	フレーク	2F－17	2	1.8	1.5	0.6	1.5	黒曜石		
108	フレーク	2F－25	2	2.4	1.8	0.7	2.9	チャート		
109	フレーク	3F－18	2	3.3	1.6	0.7	4.3	チャート		
110	フレーク	3F－18	2	2.8	1.5	1.0	3.2	黒曜石		
111	フレーク	3F－21	2	3.2	2.3	1.5	9.3	チャート		
112	フレーク	3F－25	2	3.6	2.4	1.2	12.2	チャート		
113	フレーク	2B－24	3	3.1	2.6	0.9	7.8	チャート		
114	フレーク	2C－12	3	2.1	1.6	0.8	2.5	黒曜石		
115	フレーク	2C－13	3	3.9	2.8	0.6	6.9	チャート		
116	フレーク	2C－16	3	4.6	2.0	1.0	8.6	チャート		
117	フレーク	2C－21	3	3.8	1.4	0.6	2.6	頁岩		
118	フレーク	2C－22	3	1.7	0.6	0.3	0.3	黒曜石		
119	フレーク	3E－16	3	2.9	2.0	1.0	5.1	黒曜石		
120	フレーク	3E－22	3	1.9	1.8	0.4	2.2	チャート		
121	フレーク	3E－22	3	2.0	1.5	0.8	2.0	チャート		
122	フレーク	3E－22	3	3.1	2.4	1.8	7.2	チャート		
123	フレーク	3E－23	3	3.3	3.2	1.4	15.2	チャート		
124	フレーク	3E－24	3	3.3	2.6	0.7	5.3	チャート		
125	フレーク	4E－12	3	4.3	1.7	1.3	9.6	チャート		
126	フレーク	4E－16・17	3	2.3	1.7	0.6	3.9	チャート		
127	フレーク	3F－01	3	1.9	1.8	1.3	6.0	チャート		
128	フレーク	3F－02	3	3.1	1.8	0.5	3.2	チャート		
129	フレーク	3F－04	3	2.5	2.1	1.0	4.3	チャート		
130	フレーク	3F－06	3	1.6	1.3	0.4	0.9	黒曜石		
131	フレーク	3F－06	3	2.7	1.2	0.3	1.3	チャート		
132	フレーク	3F－08	3	3.4	2.9	0.8	8.8	珪質頁岩		
133	フレーク	3F－08	3	2.8	2.2	1.4	10.5	チャート		
134	フレーク	3F－10	3	2.1	1.4	0.4	1.2	黒曜石		
135	フレーク	3F－10	3	1.8	1.4	0.9	1.8	黒曜石		
136	フレーク	3F－10	3	2.9	2.1	0.6	6.1	チャート		
137	フレーク	3F－16	3	1.3	1.0	0.3	0.3	黒曜石		
138	フレーク	3F－16	3	3.8	2.5	1.6	11.9	黒曜石		
139	フレーク	3F－18	3	4.8	2.5	1.1	11.3	チャート		
140	フレーク	3F－22	3	4.1	1.6	1.4	15.2	チャート		
141	フレーク	2C－21・22	3	6.0	1.4	0.7	6.8	黒曜石		
142	フレーク	4トレ(3C)	3	2.2	1.8	0.8	2.4	黒曜石		
143	フレーク	5トレ	3	1.5	2.0	0.7	2.3	黒曜石		
144	フレーク	5トレ(3D)	3	3.2	2.1	1.9	7.2	チャート		
145	フレーク	5トレ(3D)	3	2.8	1.7	0.7	2.6	黒曜石		
146	フレーク	2C－22	4	2.4	1.6	0.9	3.3	黒曜石		
147	フレーク	3E－17	4	2.8	2.3	0.8	5.2	チャート		
148	フレーク	4E－18	4	3.4	2.6	0.4	3.7	頁岩		
149	フレーク	2F－14	4	3.2	1.5	0.6	1.9	黒曜石		
150	フレーク	2F－14	4	2.1	1.6	0.6	2.4	黒曜石		
151	フレーク	2F－15	4	4.2	2.3	1.0	12.0	チャート		
152	フレーク	2F－20	4	3.1	1.6	0.8	3.4	チャート		
153	フレーク	2F－24	4	2.9	1.3	1.0	3.2	黒曜石		
154	フレーク	2F－24	4	2.2	2.0	0.5	2.0	チャート		
155	フレーク	3F－16	4	3.0	2.3	0.8	5.2	チャート		
156	フレーク	4トレ(4C)	4	2.9	1.9	1.6	5.2	黒曜石		
157	フレーク	1D－25	ベルト5	2.5	1.8	0.4	2.4	チャート		
158	フレーク	1E－10	5	2.3	1.3	0.4	1.0	黒曜石		
159	フレーク	3F－14	5	4.6	2.0	1.8	6.0	黒曜石		
160	フレーク	2E－02	4～5	2.6	2.0	1.0	5.5	黒曜石		
161	フレーク	2E－10	4～5	1.9	1.5	1.1	3.4	黒曜石		
162	フレーク	2E－21	4～5	3.3	2.9	0.7	5.4	チャート		
163	フレーク	2F－22	4～5	3.0	2.1	0.9	5.7	チャート		
164	フレーク	2F－22	4～5	2.7	1.4	0.3	1.9	緑泥片岩		
165	フレーク	1D－10・15	1～2	3.0	2.2	0.9	6.8	チャート		
166	フレーク	2E－05	3～5	4.5	3.8	1.2	18.1	チャート		
167	フレーク	1C－19	7	2.9	1.7	0.6	4.6	チャート		
168	フレーク	2C	－	1.3	1.2	0.2	0.4	黒曜石		
169	コア	3トレ	3～4	4.7	4.4	2.6	60.4	チャート		
170	コア	4F－14	4	10.9	4.7	3.8	280.0	頁岩		

第32表　礫の出土量（遺物包含層）

番号	グリッド	層	重量（g）	個数
1	2C－25	2	53.8	2
2	2C－21～25	2	64.5	8
3	2D－01	2	9.8	2
4	2D－03	2	49.3	1
5	2D－04	2	93.0	1
6	2D－08	2	18.4	1
7	2D－10	2	59.1	2
8	2D－13	2	21.2	3
9	2D－14	2	6.3	1
10	2D－15	2	54.5	2
11	2D－18	2	63.5	5
12	2D－19	2	33.2	2
13	2D－20	2	5.3	1
14	2D－23	2	26.7	2
15	2D－24	2	6.9	1
16	2D－25	2	42.7	6
17	2E－01	2	32.3	2
18	2E－02	2	54.9	3
19	2E－03	2	21.5	1
20	2E－06	2	21.5	2
21	2E－09	2	14.8	2
22	2E－10	2	6.7	1
23	2E－13	2	24.1	1
24	2E－16	2	3.4	1
25	3E－18	2	138.2	3
26	3E－19	2	14.6	1
27	3E－20	2	73.6	1
28	3E－21	2	13.4	2
29	3E－23	2	20.6	1
30	3E－24	2	88.3	6
31	5E－11	2	17.3	3
32	1F－09	2	6.1	1
33	1F－14	2	11.7	1
34	1F－15	2	130.3	6
35	1F－19	2	14.5	1
36	1F－20	2	15.8	2
37	2F－01	2	63.6	5
38	2F－04	2	38.4	2
39	2F－08	2	25.9	3
40	2F－09	2	40.7	1
41	2F－10	2	35.9	4
42	2F－11	2	131.6	7
43	2F－12	2	33.8	3
44	2F－13	2	68.2	5
45	2F－14	2	43.0	1
46	2F－15	2	111.7	2
47	2F－16	2	99.8	5
48	2F－17	2	77.8	6
49	2F－18	2	53.1	5
50	2F－20	2	12.8	2
51	2F－22	2	139.1	11
52	2F－25	2	1.7	1
53	3F－05	2	1.6	1
54	3F－06	2	18.6	2
55	3F－07	2	57.2	2
56	3F－11	2	17.7	1
57	3F－14	2	5.5	1
58	3F－17	2	10.2	1
59	3F－18	2	24.8	2
60	3F－19	2	10.0	1
61	3F－20	2	46.8	2
62	3F－21	2	15.4	1
63	3F－22	2	6.6	1
64	3F－23	2	2.4	1
65	5F－16	2	58.5	1
66	5F－21	2	25.8	2
67	1トレ	2	270.0	28
68	6トレ	2	13.8	1
69	2E・2F	2	45.0	3
70	1B－25	3	21.1	2
71	2B－18	3	18.0	1
72	2B－19	3	26.1	1
73	2B－22	3	72.0	1
74	2B－23	3	23.6	1
75	1C－09	3	17.5	2
76	1C－10	3	57.3	1
77	1C－15	3	15.5	1
78	1C－20	3	6.9	1
79	2C－07	3	48.4	2
80	2C－11	3	197.1	3
81	2C－12	3	4.6	1
82	2C－14	3	173.0	2
83	2C－15	3	54.0	2
84	2C－18	3	21.1	1
85	2C－19	3	37.4	1
86	2C－20	3	4.9	1
87	2C－22	3	30.8	1
88	2C－23	3	147.9	2
89	1D－05	3	75.6	1
90	2D－01	3	88.7	2
91	2D－06	3	5.1	2
92	2D－08	3	104.4	2
93	3D－16	3	5.4	1
94	2E－22	3	22.1	1
95	3E－18	3	16.5	2
96	3E－21	3	365.0	5
97	3E－22	3	5.6	3
98	3E－23	3	8.5	2
99	3E－24	3	76.7	3
100	4E－12	3	71.0	2
101	4E－15	3	58.8	3
102	4E－18	3	14.9	1
103	4E－25	3	35.2	1
104	2F－21	3	38.9	1
105	3F－01	3	37.4	3
106	3F－02	3	15.3	2
107	3F－03	3	69.7	2
108	3F－04	3	62.5	2
109	3F－05	3	11.8	2
110	3F－06	3	2.4	1
111	3F－07	3	12.8	1
112	3F－08	3	99.4	3
113	3F－11	3	102.8	3
114	3F－12	3	81.8	3
115	3F－13	3	7.0	1
116	3F－14	3	28.7	3
117	3F－15	3	63.5	2
118	3F－16	3	8.7	1
119	3F－17	3	15.8	2
120	3F－18	3	34.6	2
121	3F－21	3	460.0	1
122	3F－22	3	5.6	1
123	3F－23	3	5.4	1
124	3F－24	3	88.8	1
125	3F－25	3	17.8	1
126	4F－03	3	55.3	1
127	5F－16	3	32.8	1
128	3トレ	3	6.5	1
129	4トレ	3	43.0	2
130	5トレ	3	15.0	2
131	5トレ	3	27.9	2
132	4トレ（3C）	3	27.4	1
133	4トレ（4C）	3	10.5	2
134	5トレ（3D）	3	140.5	6
135	5トレ（4D）	3	174.7	7
136	6トレ	3	213.8	5
137	1E－10	ベルト4	2.4	1
138	3E－17	4	109.8	2
139	3E－20	4	7.1	1
140	5E－18	4	5.1	1
141	2F－15	4	115.9	1
142	2F－20	4	20.2	1
143	2F－24	4	6.9	1
144	2F－25	4	16.0	1
145	3F－03	4	7.0	1
146	3F－07	4	46.5	1
147	3F－08	4	78.4	2
148	3F－11	4	185.3	1
149	3F－13	4	9.4	1
150	3F－14	4	21.6	1
151	3F－16	4	60.6	1
152	3F－22	4	44.2	2
153	3F－23	4	9.0	2
154	4F－11	4	15.1	1
155	4F－16	4	4.5	1
156	4F－18	4	180.9	1
157	5F－01	4	38.2	2
158	5F－07	4	203.6	2
159	5F－12	4	5.5	1
160	5F－13	4	28.0	1
161	4トレ（3C）	4	11.4	1
162	4トレ（4C）	4	440.0	4
163	5トレ（3D）	4	26.2	1
164	5トレ（4D）	4	194.7	1
165	1D－10	5	17.9	1
166	1E－10	5	2.2	1
167	1E－20	5	3.8	2
168	2E－01	ベルト5	21.0	1
169	2E－16	5	137.9	1
170	2F－08	5	52.6	1
171	2F－18	5	14.9	2
172	2F－20	5	71.5	1
173	3F－03	5	14.5	1
174	3F－15	5	30.9	1
175	4F－04	5	108.4	1
176	4F－07	5	118.9	1
177	4F－12	5	3.6	1
178	5トレ（3D）	5	8.9	1
179	5トレ（4D）	5	13.3	1
180	1D－09	1～2	96.8	10
181	1D－10•15	1～2	9.6	1
182	2D－06	1～2	37.0	4
183	2E－23	3～4	37.0	1
184	3トレ	3～4	143.7	4
185	2D－14	4～5	60.5	1
186	2D－24	4～5	88.3	2
187	2D－25	4～5	41.3	1
188	2E－01	4～5	3.8	1
189	2E－03	4～5	20.9	1
190	2E－04	4～5	35.1	1
191	2E－07	4～5	38.3	2
192	2E－09	4～5	54.5	1
193	2E－10	4～5	1115.0	4
194	2E－20	4～5	57.2	3
195	2E－25	4～5	4.7	1
196	2F－09	4～5	51.0	1
197	2F－13	4～5	1.8	1
198	2F－14	4～5	1.9	1
199	2F－18	4～5	166.5	5
200	2F－19	4～5	17.9	1
201	2F－24	4～5	14.5	1
202	3E－18	4～5	2.5	1
203	4E－20	4～5	20.3	1
204	4E－25	4～5	2.1	1
205	5E－11	4～5	5.1	2
206	3D－19	4～5	6.2	2
207	6トレ	4～5	33.7	1
208	2D－15	3～5	9.9	1
209	2E－05	3～5	34.9	2
210	2E－25	3～5	35.8	1
211	2B－25	7	46.7	1
212	1D－05	7	1.4	1
213	1トレ	一括	278.3	2
214	2トレ	一括	63.0	4
215	5トレ	一括	9.5	1
216	4E-10 5E-01•06	一括	74.0	4
217	表　採	－	372.4	20
218	1E	カクラン	3.2	1
219	1F－13	カクラン	157.3	8
220	1F	カクラン	55.2	4
221	2F	カクラン	23.2	1

る程度定着していた可能性を示唆させる資料である。ただし、用途的な問題は残されている。石材は砂岩を利用しいる。もう１点は切目石錘で、最大長8.5㎝・最大幅7.0㎝・最大厚1.0㎝・重さ84.3gを測る。石材は砂岩を利用している。こちらの方は形態・重量からみて、漁網用の錘と考えるに耐えうる資料である。ただどちらのタイプの石錘も千葉県では非常に珍しい資料である。

浮　子（第113図－14～16）

周囲を研磨して形を整え、孔を１つ有するものが３点検出された。大きさは最大長で6.0 ～9.1㎝・重量は12.7～19.3gを測る。また、あまり加工の痕跡のみられない軽石が大小７点出土している。

打製石斧（第114図－18～21）

４点検出された。大きさは最大長で9.7～10.6㎝、重量は80.0～139.5gを測る。形態はいずれも器体のほぼ中央部に両側から抉りを入れた分銅形である。

磨製石斧（第115図－22～24）

３点検出された。刃部破片１点と基部破片２点である。基部破片の１点は頂部に敲打痕が認められる。また、刃部破片のものには側面と刃部両面に研磨を示す擦痕が顕著に認められる。形態はいずれも定角式である。

凹　石（第115図－25～30）

拳大の河原石の表裏両面の中央部が摩耗や敲打によって円形に窪むもので、摩耗の痕跡のあるもの３点、敲打の痕跡のあるもの３点の計６点が検出されている。またこれらの石器には、凹部以外の表裏面や側面に摩耗や敲打の痕跡の認められるものも多く、多機能を備えた石器であったことが予想される。

磨　石（第116図－31）

拳大の河原石の表裏面や側面に摩耗の痕跡のあるもので、39点検出され最も多くみられる石器である。図示した資料は、ほぼ全面に摩耗の痕跡が観察できるものである。

石　皿（第116図－32～38）

13点検出されたが全て破片資料である。図示したもののうち、36～38は皿部の片面もしくは両面に円形の窪みを複数有しており、凹石としても機能していたとみられる。

石　棒（第116図－39）

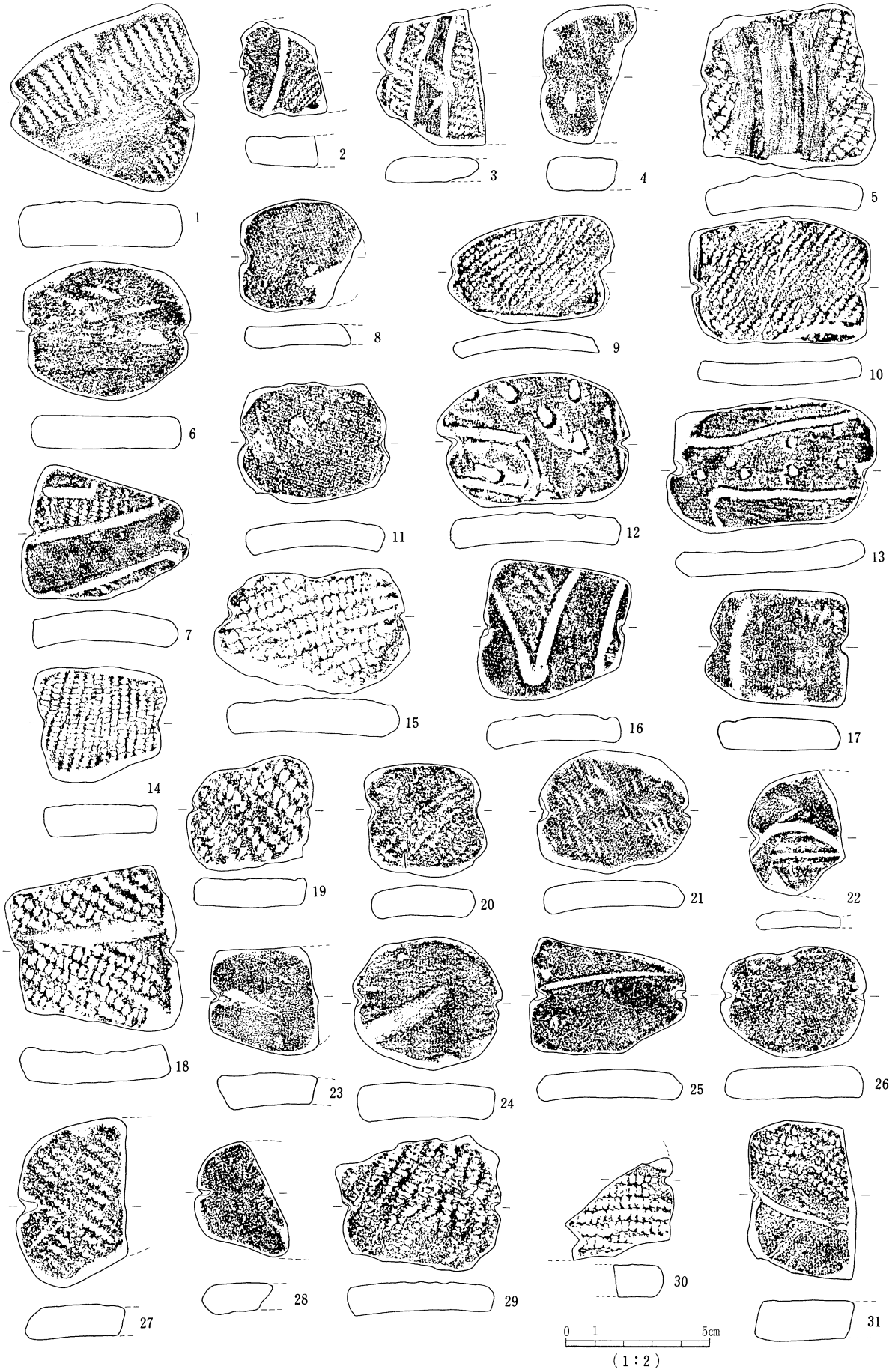
１点検出された。破片資料であるが、実際にはかなり大型であったと思われる。片側に円形の窪みを１つ有し、破損後に凹石として再利用されたものと思われる。石材は緑泥片岩を利用している。

c　土製品（第33表、第117～120図）

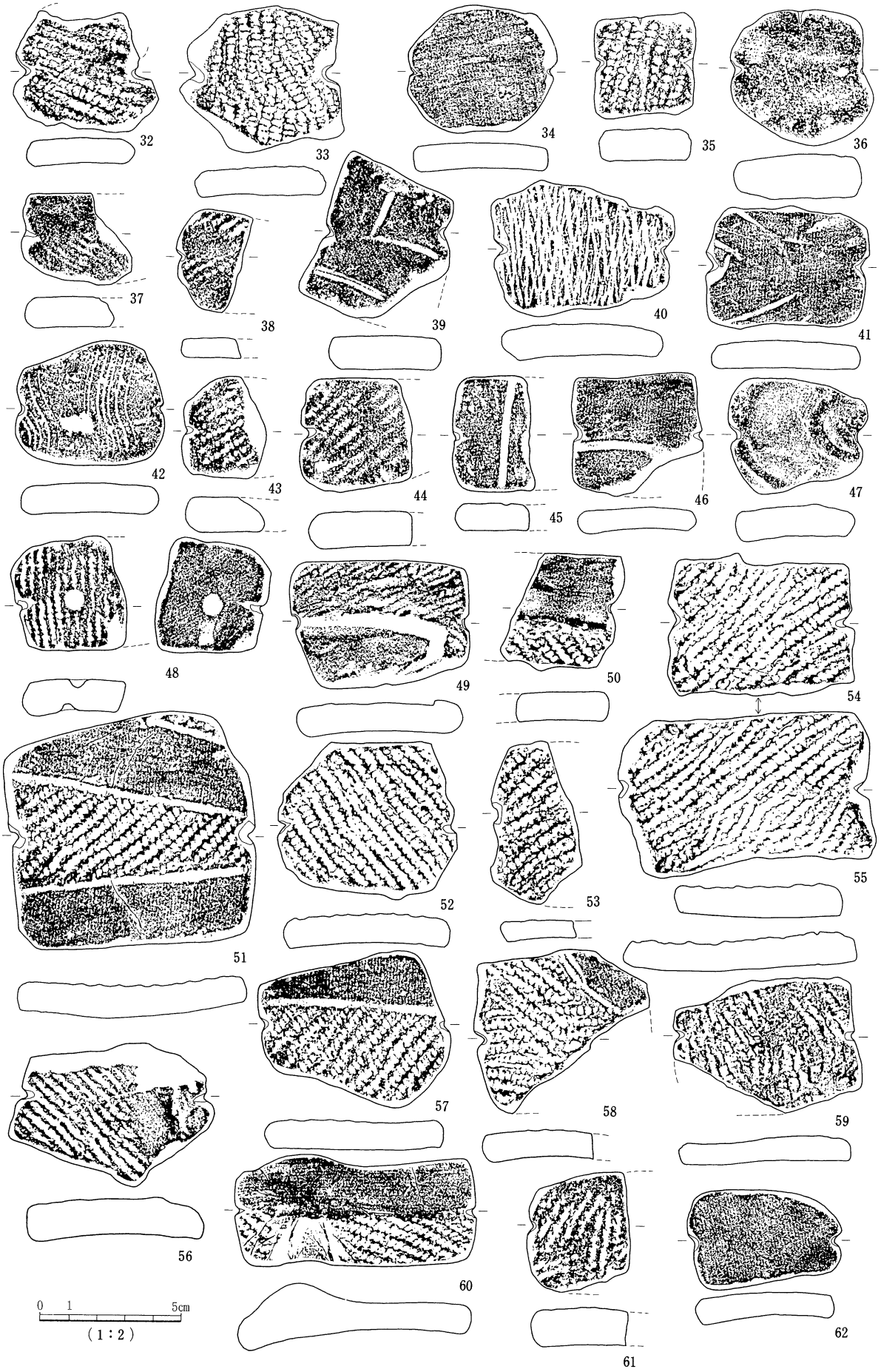
包含層中からは、２層６点・３層24点・４層24点・５層15点・４～５層３点・不明５点、計77点の土製品が検出されている。それぞれの遺物の計測データなどについては、第33表に一覧としたが、ここではそれぞれの器種について特徴を述べる。

土器片錘（第117図１～31、第118図32～62、第119図63～69）

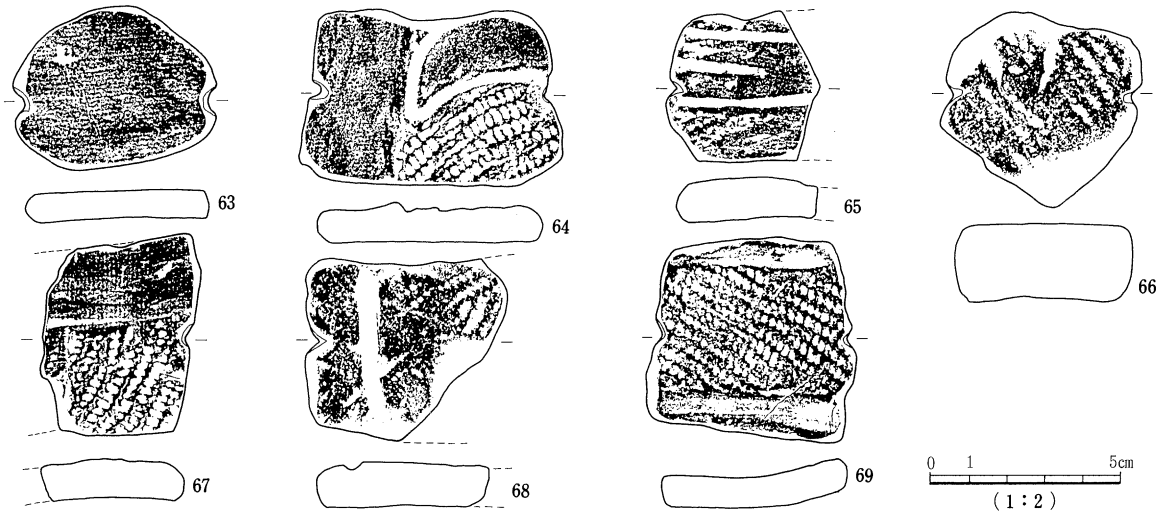
総数69点検出されている。大きさは最大長3.6 ～9.0㎝、重さは19.1～116.8gを測る。形態は土器片を隅丸長方形あるいは楕円形にし、長軸方向に紐かけ用の抉りを入れたものである。土器片の縁辺部を丁寧に研磨して整形するもの（１・６～10・12・16・17・24・28・42・45・47・61～63）と、あま



第117図　遺物包含層出土土製品(1)



第118図　遺物包含層出土土製品(2)

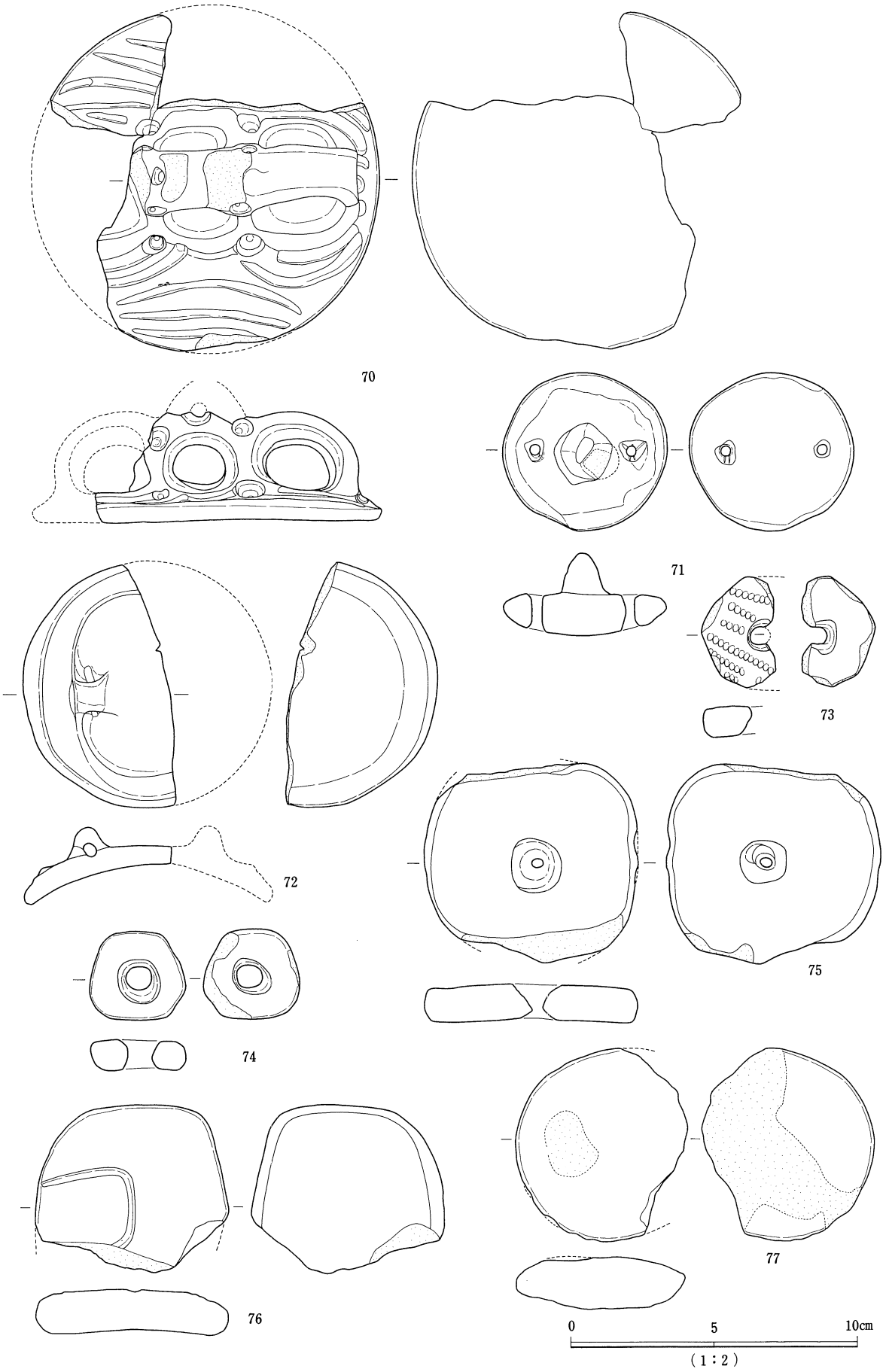


第119図　遺物包含層出土土製品(3)

り整形のおこなわれないものとがある。また、一側縁に土器の口縁部をとりいれているものもある(23・37・46・49・64・67)。1C-20・1E-15という2×2mの小グリッド中からは、それぞれ6点(8～13)、11点(50～60)と割合まとまって出土しており、あるいは一括して廃棄された可能性もある。このうち、1E-15 の54と55は直接接合する。一片の大型の土器片を2つに割ってそれぞれに紐かけ用の抉りを入れたものであるが、縁辺部は研磨されておらず製作途中で廃棄されている可能性もある。48は土器片の中央部に両側から穿孔しかけた痕跡があり、後述する有孔円盤との関連も示唆される。土器片錘に利用された土器の時期は、文様のよくわかるものでみるかぎり、加曽利E・称名寺式が多いように思われるが、土器片錘の使用された時期を決める根拠にはならないと思われる。

蓋形土製品(第120図70～72)

3点検出されているが3例とも大きさ・形態が異なり、また貝層中から検出された1例も別の形態を呈しており、この種の土製品を考えるうえで興味深い資料となると思われる。70は最も大型の資料である。一部を欠損するが、全体の形態・大きさは復元可能である。直径推定12.2cmのほぼ正円形で、裏面は平である。表面には、中央に環を3つ連ねたような橋状の把手が横たわる。欠損してしまっているが、この橋状の把手の中央(3つの環の中央)の上にもう一つの小さな環状の装飾が付されていたものと思われる。橋状の把手の周囲には、沈線や円形の刺突文様が把手を挟んで対称に施されている。71は直径5.5cmほどの正円形に近い形態で、円の中央部に1.4cmほどの突起が付き、その両側に直径3mmの孔があけられている。突起を除いた形態は、貝層中から検出された資料と類似するが、大きさは、当資料のほうが一回り大きい。72は半分が欠損しているが、全体の形態・大きさは復元可能である。直径推定8.7cmのほぼ正円形で、裏面がやや窪む椀状を呈する。表面は小さな橋状の把手が左右一対付されていたものと思われる。そして、この把手の周囲には円形に2重の微隆起線が付されている。



第120図　遺物包含層出土土製品(4)

第33表　遺物包含層出土土製品　計測表

番号	器　種	出土区	出土層	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	残存状態	図番号	備　考
1	土器片錘	2D－02	2	6.6	6.6	1.6	77.0	完形	117－1	全周研磨
2	土器片錘	2D－16	2	3.1	(2.6)	1.0	12.5	半欠	117－2	
3	土器片錘	2E－03	2	4.2	(3.6)	1.0	20.7	半欠	117－3	
4	土器片錘	2E－19	2	4.7	(2.6)	1.2	22.8	破片	117－4	
5	土器片錘	2F－05	2	5.5	6.1	1.0	52.9	完形	117－5	
6	土器片錘	2D－21～25	ベルト2	4.8	5.8	1.2	47.7	完形	117－6	全周研磨
7	土器片錘	1C－15	3	4.9	5.8	0.8	32.6	完形	117－7	全周研磨
8	土器片錘	1C－20	3	3.8	(4.2)	0.8	16.6	一部欠	117－8	全周研磨
9	土器片錘	1C－20	3	3.6	5.5	0.6	19.1	完形	117－9	全周研磨
10	土器片錘	1C－20	3	4.4	6.2	0.7	31.5	完形	117－10	全周研磨
11	土器片錘	1C－20	3	4.3	5.1	0.9	32.0	完形	117－11	
12	土器片錘	1C－20	3	4.6	6.7	1.1	42.3	完形	117－12	全周研磨
13	土器片錘	1C－20	3	4.3	7.1	0.9	44.5	完形	117－13	
14	土器片錘	2C－09	3	4.0	4.6	1.1	25.5	完形	117－14	
15	土器片錘	2C－09	3	4.3	6.9	1.3	47.1	完形	117－15	
16	土器片錘	2C－11	3	5.0	5.1	0.8	31.2	完形	117－16	全周研磨
17	土器片錘	2C－11	3	4.1	5.0	1.1	30.9	完形	117－17	全周研磨
18	土器片錘	2C－14	3	5.9	5.7	1.2	54.7	完形	117－18	
19	土器片錘	2C－15	3	3.4	4.3	1.0	23.4	完形	117－19	
20	土器片錘	2C－16	3	3.9	4.1	1.2	26.7	完形	117－20	
21	土器片錘	2C－24	3	4.4	5.4	0.9	26.2	完形	117－21	
22	土器片錘	2D－05	3	4.3	(3.3)	0.6	11.4	半欠	117－22	
23	土器片錘	2D－08	3	3.8	(3.8)	1.1	22.8	半欠	117－23	口縁部
24	土器片錘	3F－02	3	4.7	5.2	1.2	41.7	完形	117－24	全周研磨
25	土器片錘	3F－08	3	4.1	5.3	1.1	29.6	完形	117－25	
26	土器片錘	3F－17	3	3.7	5.0	0.9	27.3	完形	117－26	
27	土器片錘	3F－17	3	5.2	(3.9)	1.0	32.1	半欠	117－27	
28	土器片錘	4トレ3C	3	3.8	(3.1)	0.9	12.7	半欠	117－28	全周研磨
29	土器片錘	2C－25	3	4.6	5.7	1.0	37.7	完形	117－29	
30	土器片錘	1E－10	ベルト4	(2.9)	(3.9)	1.0	14.3	破片	117－30	
31	土器片錘	2E－19	4	5.4	(3.6)	1.3	42.3	半欠	117－31	
32	土器片錘	3E－21	4	(4.1)	5.2	1.2	28.3	一部欠	118－32	
33	土器片錘	3E－21	4	5.1	5.7	1.0	38.8	完形	118－33	
34	土器片錘	2F－04	ベルト4	4.5	5.3	0.9	32.0	完形	118－34	
35	土器片錘	2F－15	4	3.6	3.6	1.1	23.3	完形	118－35	
36	土器片錘	2F－24	4	4.9	5.1	1.6	48.4	完形	118－36	
37	土器片錘	2F－25	4	3.1	(3.7)	1.1	15.9	半欠	118－37	口縁部
38	土器片錘	2F－25	4	4.3	5.8	0.7	33.5	完形	118－41	
39	土器片錘	3F－03	4	5.9	4.8	1.2	39.5	一部欠	118－39	
40	土器片錘	3F－04	4	4.6	6.5	1.2	49.8	完形	118－40	
41	土器片錘	3F－11	4	3.6	(2.3)	0.8	9.6	半欠	118－38	
42	土器片錘	3F－15	4	4.5	5.2	1.0	33.0	完形	118－42	全周研磨
43	土器片錘	3F－16	4	3.6	(2.9)	1.4	17.1	半欠	118－43	
44	土器片錘	3F－18	4	4.0	(4.0)	1.1	26.5	半欠	118－44	
45	土器片錘	4F－02	4	4.1	(2.8)	1.1	17.1	半欠	118－45	全周研磨
46	土器片錘	4トレ(3C)	4	4.2	4.6	0.9	20.6	一部欠	118－46	口縁部
47	土器片錘	4トレ(3C)	4	4.1	4.9	1.2	26.9	完形	118－47	全周研磨
48	土器片錘	5トレ(3D)	4	4.6	6.4	1.1	50.3	完形	118－49	口縁部
49	土器片錘	5トレ(4D)	4	4.0	(3.8)	1.0	25.1	半欠	118－48	
50	土器片錘	1E－15	5	8.2	8.7	1.1	116.8	完形	118－51	
51	土器片錘	1E－15	5	5.5	9.0	0.8	79.1	完形	118－55	
52	土器片錘	1E－15	5	4.7	6.7	1.1	54.6	完形	118－54	
53	土器片錘	1E－15	5	3.8	8.6	2.1	52.7	完形	118－60	
54	土器片錘	1E－15	5	5.8	(3.0)	0.7	15.2	半欠	118－53	
55	土器片錘	1E－15	5	4.1	(4.1)	1.2	24.5	半欠	118－50	
56	土器片錘	1E－15	5	5.4	6.1	0.9	49.6	完形	118－52	
57	土器片錘	1E－15	5	5.5	6.7	0.9	43.5	完形	118－57	
58	土器片錘	1E－15	5	4.9	6.9	1.3	45.4	完形	118－56	
59	土器片錘	1E－15	5	4.8	6.5	0.8	34.6	完形	118－59	
60	土器片錘	1E－15	5	5.3	6.3	1.0	37.7	半欠	118－58	
61	土器片錘	2F－10	5	3.8	(3.6)	1.1	22.2	半欠	118－61	全周研磨
62	土器片錘	2F－15	5	3.6	5.5	0.9	25.1	完形	118－62	全周研磨
63	土器片錘	5トレ(3D)	5	4.2	5.3	0.8	23.6	完形	119－63	全周研磨
64	土器片錘	2E－21	4～5	4.6	6.9	1.2	47.6	完形	119－64	口縁部
65	土器片錘	2F－04	4～5	3.9	(3.9)	0.9	20.5	半欠	119－65	
66	土器片錘	4トレ	一括	4.9	5.2	1.9	59.4	完形	119－66	
67	土器片錘	表採	－	5.2	(3.9)	1.0	31.1	半欠	119－67	口縁部
68	土器片錘	表採	－	4.6	(5.1)	1.2	33.9	半欠	119－68	
69	土器片錘	表採	－	5.3	5.4	0.9	36.0	完形	119－69	
70	蓋	2D－01	4	8.6	(5.2)	1.7	52.6	半欠	120－72	
71	蓋	2F－24	4	5.4	5.7	2.8	48.9	完形	120－71	
72	蓋	3F－22	4	(8.8)	(8.8)	3.7	186.2	一部欠	120－70	
73	有孔円盤	5トレ(3D)	3	3.2	3.4	1.0	12.0	完形	120－74	
74	有孔円盤	2E－15	4	(6.8)	7.4	1.4	94.2	完形	120－75	
75	有孔円盤	2F－08	5	3.7	(2.4)	1.0	10.4	半欠	120－73	
76	土製円盤	2E－03	4～5	(5.8)	6.7	1.4	66.6	一部欠	120－76	
77	土製円盤	3トレ	3～4	6.7	(5.6)	1.7	68.0	一部欠	120－77	

有孔円盤（第120図73～75）

3点検出されているが、大きさは大小ある。小型のものは直径3.3cm、大型のものは直径7.4cmである。ただし、孔の大きさはそれぞれ1.5cm・2.0cmとあまりかわらない。このうち73と75は明らかに土器片を再生したものであるが、74は整形のしかたが入念で若干趣を異にする。あるいは平玉状の垂飾として使用されたものかもしれない。

土製円盤（第120図76・77）

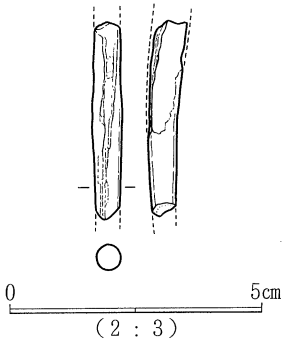
2点検出された。76は土器片の周囲を研磨して円形に整形したものであるが、77は円盤状に整形した粘土を焼いて作ったものである。

3　包含層出土の自然遺物

土層中でありながらも、遺物包含層中より動物遺存体が若干検出されている。ただし、いずれも遺存状況のあまり良くない断片的な資料である（第34・35表）。

第34表　遺物包含層出土魚類遺体出現数一覧

グリッド	層　位	魚　類	部　位	R・L	点数
2D－03	2　層	－	鰭棘	－	1
2E－07	2　層	フグ	前上顎骨	R	1
2E－09	2　層	－	鰭棘	－	1
3E－16	3　層	クロダイ	前上顎骨	R	1
2F－07	4～5(貝層下)	クロダイ	歯骨	L	1



第121図　遺物包含層出土の骨角器

包含層出土の骨角器（第121図）

包含層中から出土した動物遺存体に混ざって、1点の骨角器が検出された。両端は欠損するが、最大長3.45cm・幅5.0cm・厚さ5.0cmで、断面形は円形を呈する。素材は鹿角とみられる。入念に研磨して整形したものとみられ、一側面に内部組織であるスポンジ質部が露呈する。ただし、器体の約半分は表面の腐蝕がすすみ細部の整形痕の観察は困難である。器体はやや湾曲するが、これは素材の自然の形態からくるものと思われる。ヤス状刺突具の一部とみられるが、先端・基部のどちらに近い破片であるかは不明である。2F－12ベルト5層より出土した。

第35表　両棲綱・爬虫綱・鳥綱・哺乳綱　遺体出現数一覧　　遺物包含層

種類	両棲綱	爬虫綱	鳥綱	哺乳綱													
グリッド　層位	カエル	ヘビ		モグラ類	ウサギ	ムササビ	ネズミ	イルカ	イヌ	タヌキ	アナグマ	その他	中型獣一括	ウマ	イノシシ	シカ	イノシシもしくはシカ
2D－03　2												fr.					
2D－06　2												fr.					
2D－07　2															L.M³ I₂ R.M₂		
2D－08　2												fr.					
2D－09　2												fr.					
2D－11　2												fr.					
2D－17　2												fr.					
2D－18　2												fr.					
2D－19　2														L.P₃	R.M³		
2D－21　2												fr.					
2D－22　2												fr.					
2D－23　2												fr.					
2D－24　2														L.P³		Tal(fr)R	
2D－25　2														R.M¹ R.M(fr)		Tal.L	
2E－02　2												fr.					
2E－03　2																Hum(d)R	
2E－04　2												fr.					
2E－05　2												fr.					
2E－06　2															MtⅢ(p)R		Rib(fr)
2E－07　2																R.P²	
2E－08　2												fr.			L.P₄(fr)		
2E－09　2																	
2F－01　2												fr.					
2F－02　2												fr.					
2F－06　2												fr.					
2F－10　2												fr.					
2F－19　2															R.M₁(fr)		
2C－10　3														L.P²			
2D－08　3														歯(fr)			
5トレ(3D)　3														M(fr)3			
3E－16　3														歯(fr)			
3E－21　3															M(fr)	M(fr)	
3F－01　3												fr.					
1D・2D(確認)　3																L.M₁(fr)	
3D－16(確認)　3																M(fr)4	(fr)
1E－10　ベルト4																♂fro～	
2E－06　4																Hum(d)L	
2E－15　4												fr.					
2E－18　ベルト4														歯(fr)		Cal(fr)	
3E－21　4												fr.					
2F－04　ベルト4												fr.					
2F－10　ベルト4												fr.					
2F－10　4												fr.					
2F－15　4															I ?		
2F－19　4												fr.					
2F－24　4																Tal.L	
1E－15　5																Tal.R Phal 1	
1E－20　5												fr.					
2E－19　ベルト5												fr.					
2F－09　5																Tal.L	
2F－12　ベルト5										L.M₁							
2F－15　5															Tib(p)L		
2F－22　5												fr.					
4C－18・23(確認)　5												fr.					
2D－15　4～5(貝層下)												fr.					
2E－02　4～5(貝層下)												fr.					
2E－03　4～5(貝層下)														L.P			
2E－13　4～5(貝層下)															R. M³		
2E－16　4～5(貝層下)															L.M₃		
2E－18　4～5(貝層下)																Cal(p)	
2E－20　4～5(貝層下)														p.t			
2E－23　4～5(貝層下)															Hum(d)R		
2E－25　4～5(貝層下)												fr.					
2F－04　4～5(貝層下)												fr.					
2F－07　4～5(貝層下)														♀L.C R.C(fr)? L.P₄ I(fr)			
2F－08　4～5(貝層下)															M³		Rib(fr)
2F－09　4～5(貝層下)												fr.					
2F－12　4～5(貝層下)																Scap.R	
2F－13　4～5(貝層下)												fr.					
2F－17　4～5(貝層下)														L.P²			
2F－18　4～5(貝層下)															R.M₁	Fem(fr)	
2F－19　4～5(貝層下)															歯(fr)	Ant(fr)?	
2F－23　4～5(貝層下)																Phal 2	
3D－19(確認)　4～5														M(fr)5			
2E－20　3～5														R.M¹² L.MM²			
1E－15　ベルト5・6												fr.					
1D－13　7												fr.					
1F　カクラン												fr.					
2F　カクラン												fr.					
表　採　—															L.M²	Tal.L	

V まとめ

山田橋亥の海道貝塚遺跡は、縄文時代後期前葉・堀之内Ⅰ式期に形成された小規模な貝塚を伴う集落跡である。遺跡内には幅は狭いが比較的深い埋没谷が南北方向に存在したが、集落形成時期にはかなり埋積しており、縄文中期後葉～後期前葉の遺物を多量に含む遺物包含層が形成され、ゆるやかな谷地形を有する集落形態をとっていたものと思われる。住居跡はこの谷をめぐるように、西側と南側に展開した。そして、調査区の南西部の廃絶後の住居の窪地を中心とする一角に、小規模な貝塚を形成する。貝層形成期にもゆるやかな谷地形の埋積は進み、遺物包含層が形成される。さらに貝塚形成後には上面を新期テフラとみなされる明茶褐色の土層が覆い、現在に近い平坦な地形となった。堀之内Ⅰ式期以降の遺物は、堀之内Ⅱ式・加曽利Ｂ式の断片的な資料がわずかにみられる他はほとんど皆無で、縄文時代にはこれ以後この場所の利用はなくなり、平安時代になって、住居や溝が若干つくられ現在にいたる。

縄文時代の遺構としては、堀之内Ⅰ式期の５軒の住居址と11基の土坑が検出され、このうちの幾つかの遺構を廃絶したのちの窪地やその周辺を利用して、11カ所のブロックからなる300㎡に及ぶ小規模な地点貝塚が形成された。また、貝層下より１体の埋葬人骨を検出している。縄文時代以外の遺構としては、平安時代の住居址１軒と溝４条を検出した。

貝塚の調査は、発掘中には発見不可能な微細な資料の検出を目的におこなわれ、したがって基本的に貝層の全てをサンプリングして遺跡から一端持ち帰り、フルイを用いて水洗し土壌を洗い流した後、残留物の選別・分類・同定・集計作業をおこなった。貝塚調査から得られた成果は、まず人工遺物としては石製の玉状垂飾やツノガイを利用した管状垂飾・タカラガイ加工品・貝輪・サメの歯の垂飾など装身具関係の遺物が豊富に検出できたことがあげられる。これら微細な装身具などの人工遺物は、近年の貝塚調査に伴う詳細な貝層の分析作業の過程で検出事例が確実に増えてきており（東京都日暮里延命院貝塚・埼玉県大針貝塚・市原市西広貝塚など）、縄文時代の装飾観念や生業活動を考えるうえで詳細な貝塚調査が必要不可欠であることは自明の事実となってきている。自然遺物としては、今

第36表　山田橋亥の海貝道貝塚の貝層部分の調査に要した作業量

1　貝層サンプルの量

	フルイ前土のう袋数		フルイ後テンバコ数	
	個数	重量（kg）	個数	重量（kg）
簡易処理サンプル3b層	2,228	29,337.3	112	1,071.2
簡易処理サンプル3c層	1,524	18,543.0	163	2,556.2
詳細処理サンプル3c層	208	2,404.0	119	671.8
計	3,960	50,284.7	394	4,299.2

2　貝層分析諸作業に要したのべ人数

サンプル量と作業量 / サンプルの種類	現場						整理					
	サンプリング		乾フルイ（4㎜メッシュ）		水洗フルイ 簡易(4㎜メッシュ) 詳細(4,2,1㎜メッシュ)		内容物選別・分類（4㎜メッシュ）		内容物選別・分類 貝類同定・集計（4,2,1㎜メッシュ）		骨・陸産微小貝 分類	骨・陸産微小貝 同定 集計
簡易処理サンプル3b層	200㎡×30㎝	200人	2,228袋	150人	210袋	38人	112箱	88人	－	－	4人	15人
簡易処理サンプル3c層	100㎡×30㎝	99人	－	－	1,524袋	151人	163箱	156人	－	－	5人	25人
詳細処理サンプル3c層	3c層全体の15%	41人	－	－	208袋	77人	－	－	119箱	339人	16人	35人
小　計	300㎡×30㎝	340人	2,228袋	150人	1,942袋	266人	275箱	244人	119箱	339人	25人	75人
中　計	756人						583人				100人	
総　計	1,439人											

後の貝塚研究や貝層のサンプリング方法を考えるうえでの問題提起となりうる事実が確認されている。貝層のサンプルは地点の異なる11カ所のブロックごとに採取されたが、その内容を検討するうちに貝類・魚類・獣類・炭化物・微小貝・フジツボなどの内容物の在り方に、ブロック別・層位別・サンプル地点別に相違がみられることが明らかになった。ブロック別・層位別に内容物の在り方に相違がみられることは、ある程度予想される事実であるが、発掘時点で同一のものと見なした貝層がサンプル箇所を少しずらしただけでかなり様相を異にする事実は、貝層の分層方法やサンプリング方法を再考する必要性を示している。亥の海道貝塚は、貝塚の規模としては極めて小さく、貝層の厚さもせいぜい30～50㎝程度のものであり、調査前はこれほど多様な内容は予想していなかった。ここで得られた状況証拠からすると、われわれが考えている以上に貝層の内容は多彩で、貝層の形成がもっと複雑（単位層がもっと小規模）である可能性を示していると言わざるをえない。

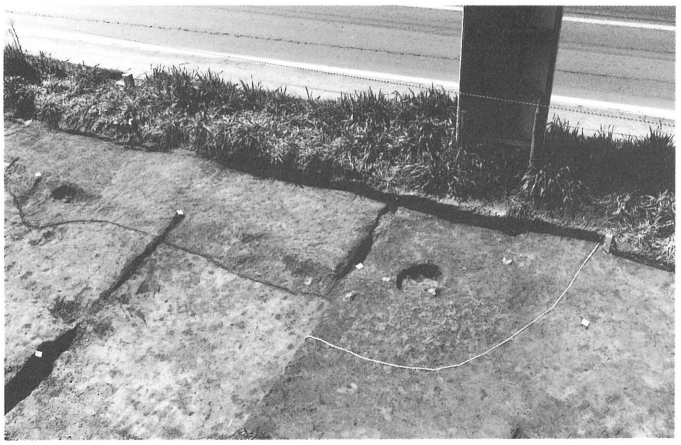
貝塚の重要性は現在では誰しもが認識することであり、その調査には莫大な時間と労力を要することもある程度承知している。したがって、限られた時間のなかでいかに効率よく、有効な事実を得るかが貝塚調査の課題となっている。亥の海道貝塚の調査においては、過去の貝塚調査の経験を踏まえた上で、抽出したいデータに合わせた貝層サンプルを採取することを前提とした。つまり、貝類の組成や微小魚類の組成の把握には、ブロックごとに設定した貝層の遺存状況が最も良好だとされるベルト内のサンプルで対応し、これらについては最小１㎜メッシュのフルイ上に残留したものまでを分析の対象とし、微細な人工遺物や獣骨・大型の魚類については、ベルト以外の貝層の全てを４㎜メッシュのフルイ上で水洗し残留したものを対象に分析した。これによって、ある程度貝層分析作業における効率化・省力化がはかれたと思われる。

また、亥の海道貝塚の貝塚調査にあたっては、サンプル量と作業量の関係をなるべくデータとして残す努力をした。貝塚の調査に必要な時間と労力については、これまで幾つもの調査例があるにもかかわらず、あまり明らかにされたことがない。将来の調査のことも考え、これらを数字として明示しておくことも必要と思われる。第36表にサンプル量と各作業別に要した労力を人数で示した。これらは、貝塚の内容（土壌の混入量、貝や骨の保存状況・包含量など）によってかなり変わってくるものと思われるが、各地での貝塚調査においてこれらのデータを積み上げてゆけば、かなり実際に近い数字が貝塚調査の早い時点で明らかにできるものと思われる。亥の海道貝塚の貝塚調査には土納袋3,960のサンプル分析に約1,400人の労力を要した。

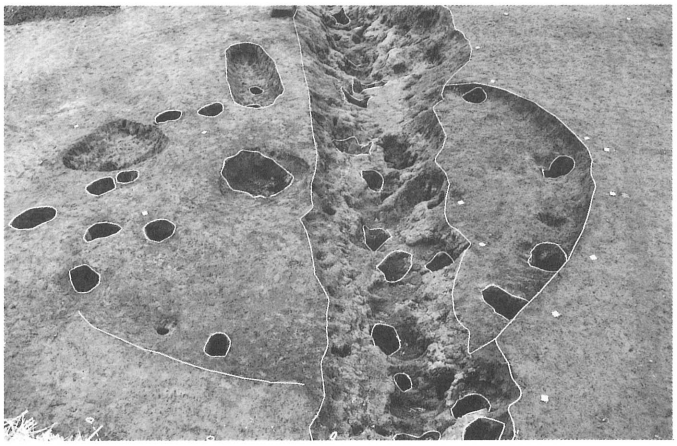
遺物包含層は地点・層位ごとに遺物の量や内容に変化があるかどうかを調べることを目的に、２×２ｍのグリッド単位で層位別に遺物を採集したが、結果からすると層によって土器型式の差が明確に表れるということはなく、谷状の地形に向かって土壌が堆積する過程で周囲の異時期の遺物が混ざり合ってしまったものと思われる。しかし、貝塚形成期（３層）と貝塚形成以前（４・５層）の土層中の遺物を比較すると、後者の遺物中に加曽利Ｅ末～称名寺式の時期のものの比率がやや高くなる傾向は指摘できる。また遺物としては、多量の土器とともに有溝石錘や浮子などの石器や土器片錘など漁撈活動を連想させる人工遺物が検出され、生業活動復元のための道具サイドからの貴重な資料になるとみられる。また形態や大きさの全く異なる蓋形土製品の出土も、類例など今後に残された課題となろう。

写　真　図　版

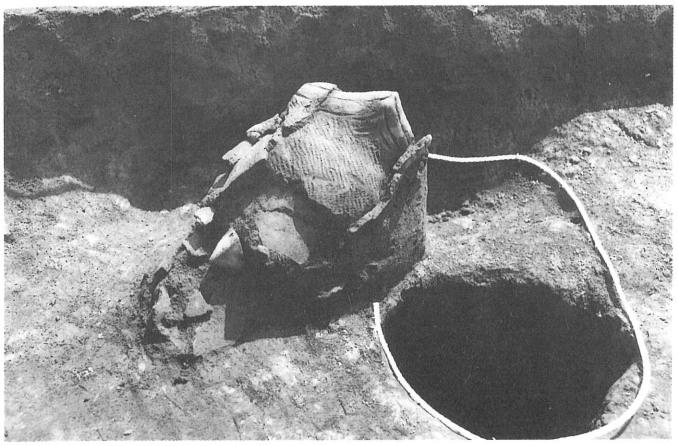
調査前風景



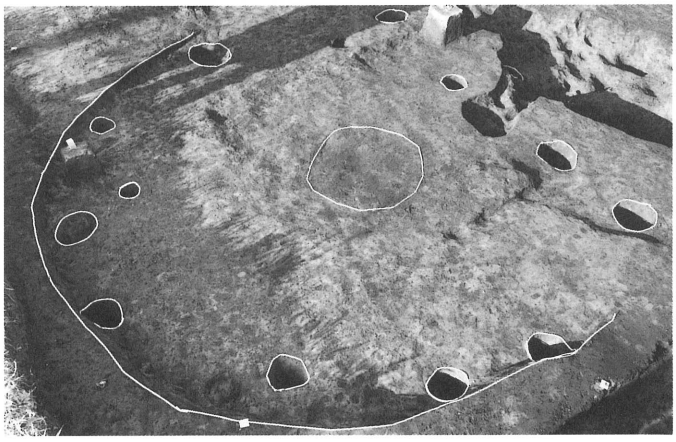
1 号住居址



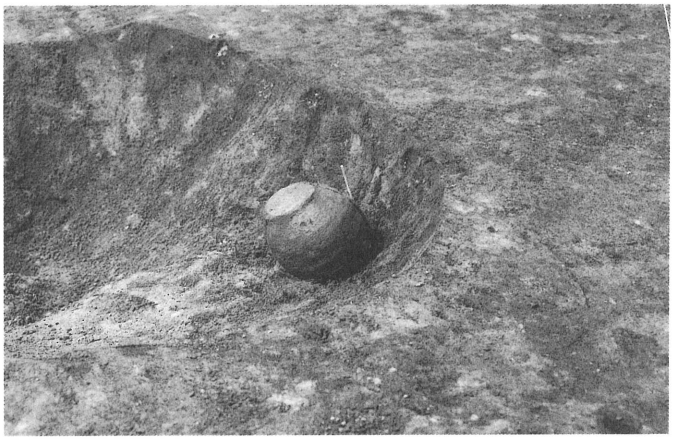
2 号住居址



2 号住居址　遺物出土状況（第 7 図－14）

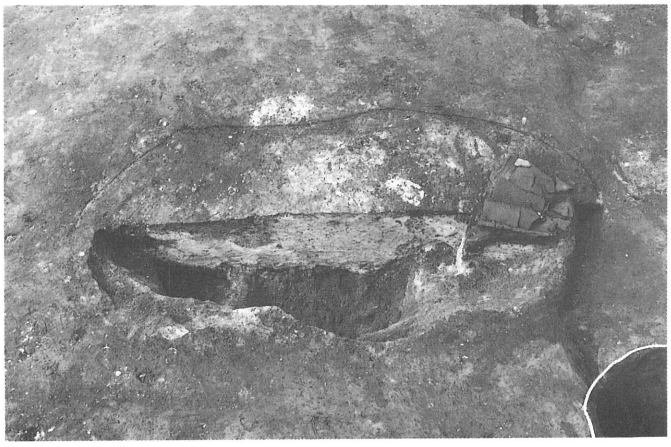


3 号住居址



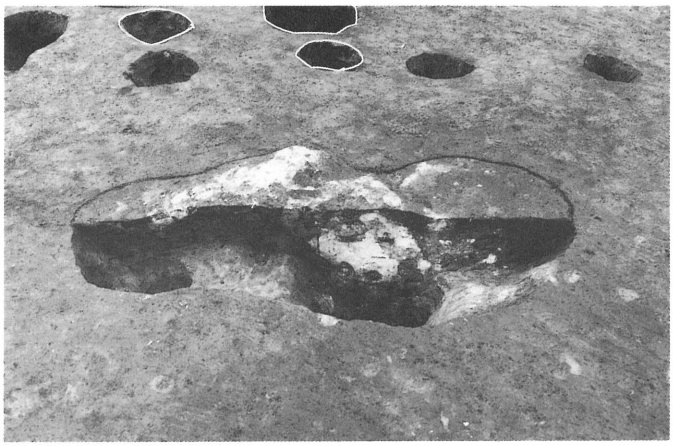
3 号住居址　遺物出土状況（第 8 図－ 1 ）

4・6 号住居址



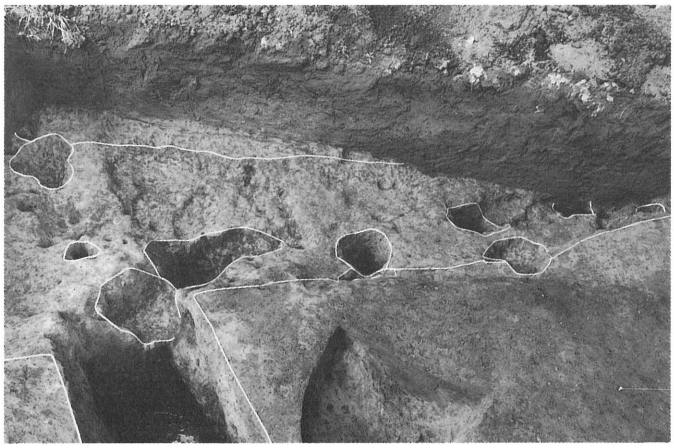
4 号住居址　炉・遺物検出状況（第13図－51）

4・5・6 号住居址

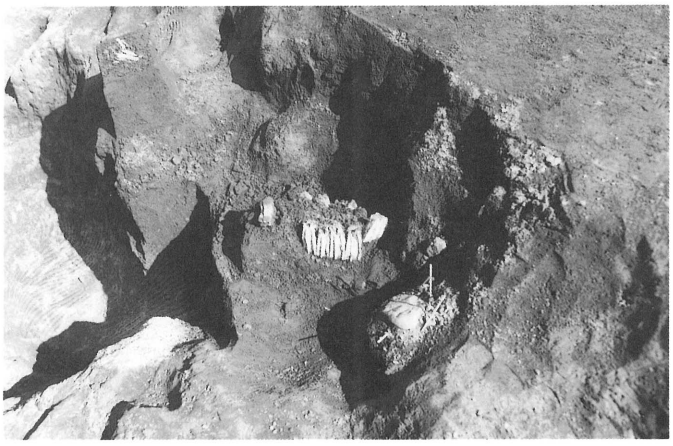


6 号住居址　炉

1 号人骨

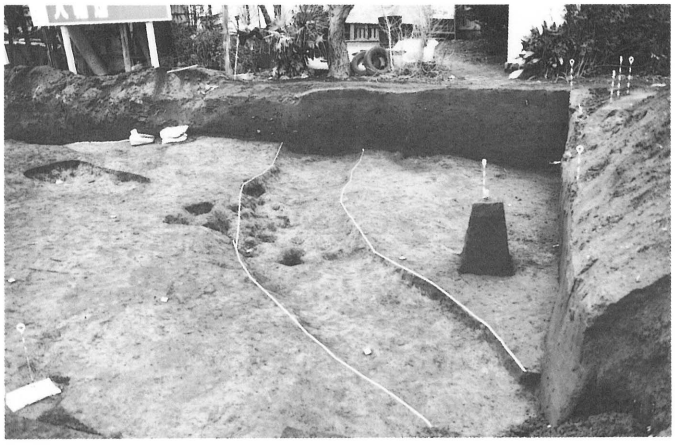


1 号溝



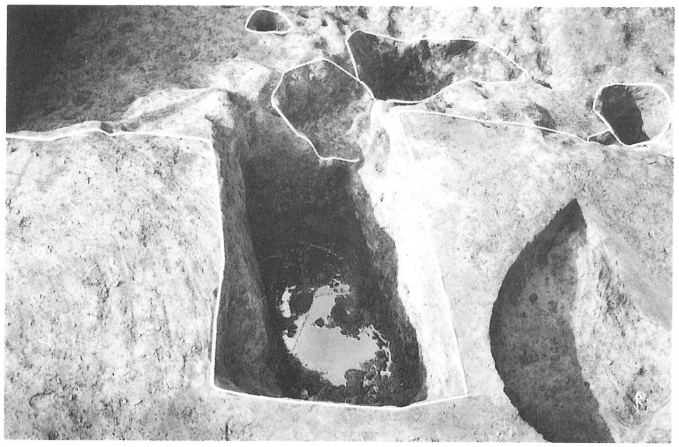
1 号溝　馬歯検出状況

2 号溝



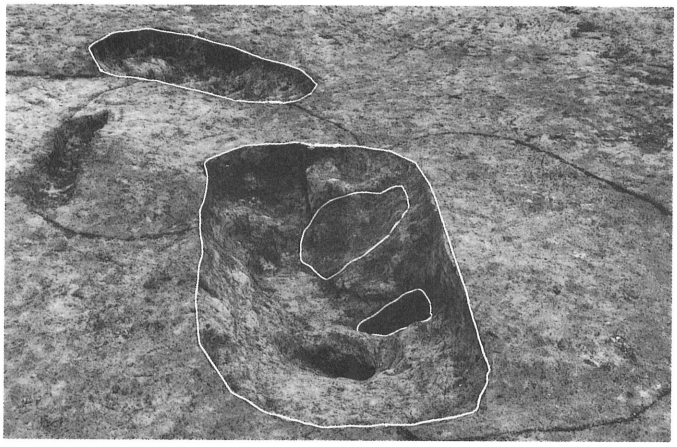
3 号溝

4 号溝

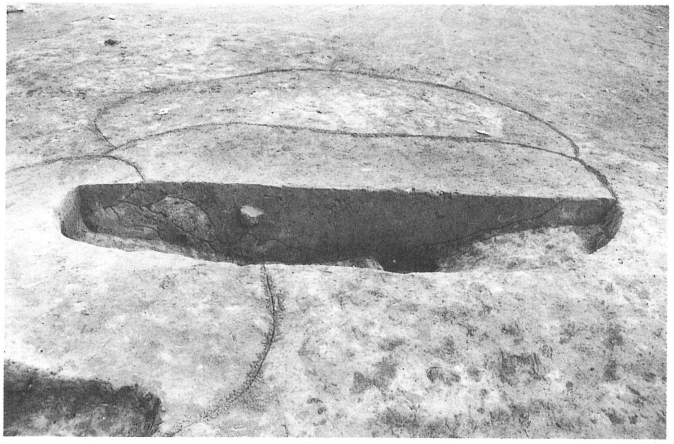


1 号土坑

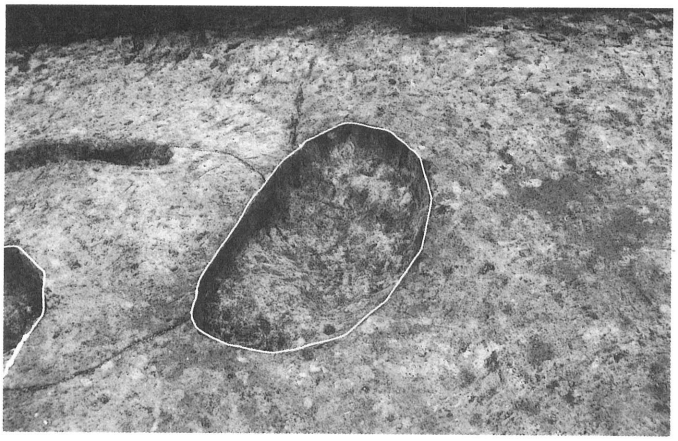
3・4・5・6 号土坑



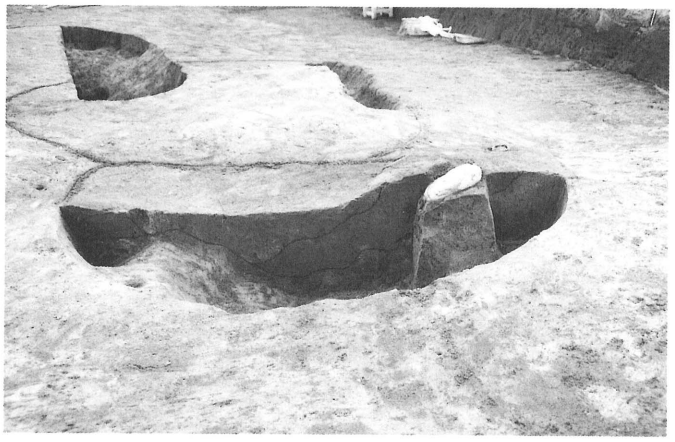
3 号土坑



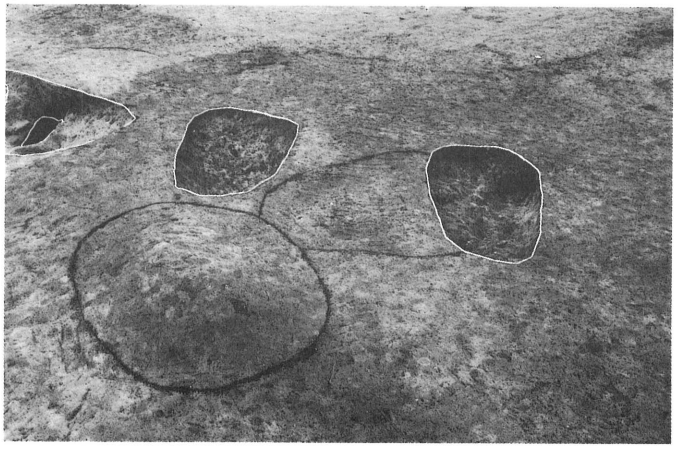
3 号土坑断面



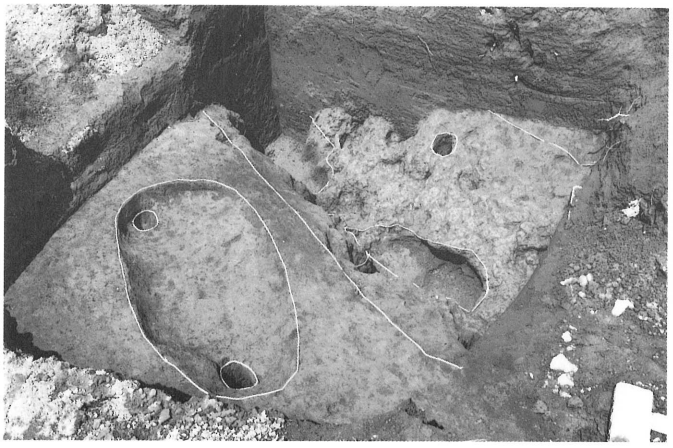
4 号土坑



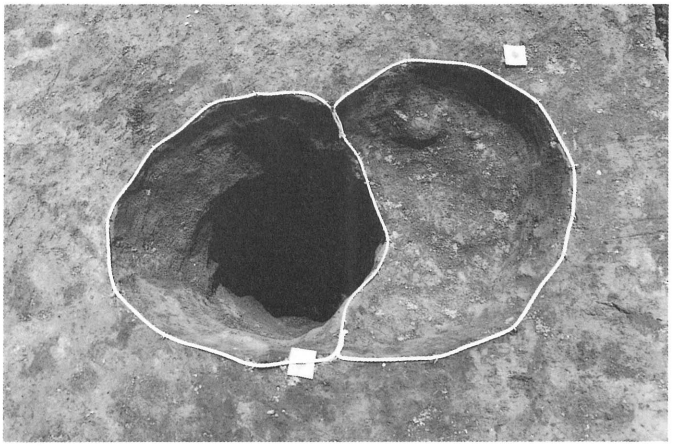
4 号土坑断面



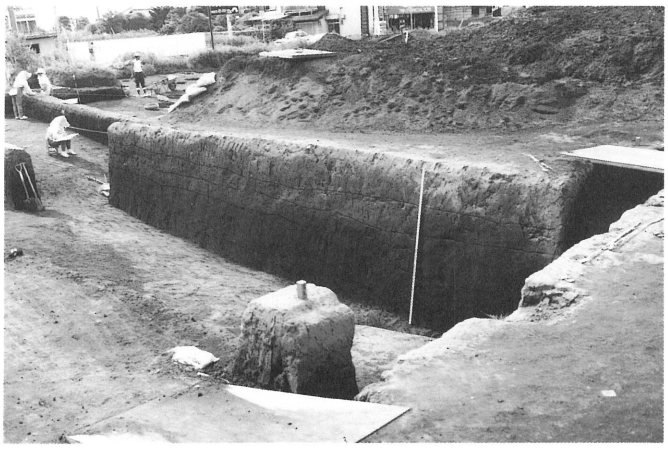
5・6 号土坑



7 号土坑



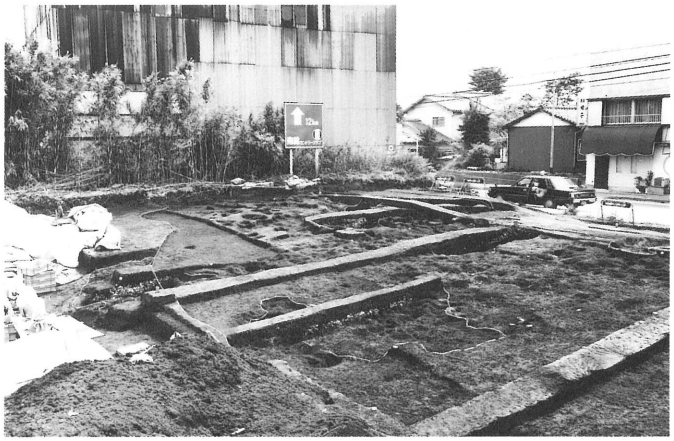
11号土坑



遺物包含層　基本層序(上から2・3・4・5・6層)

谷部遺物包含層　基本層序(上から2・3・4・5層)

貝塚　遠景(北から)



貝塚　近景

Ⅰブロック貝層　断面(A－A′)

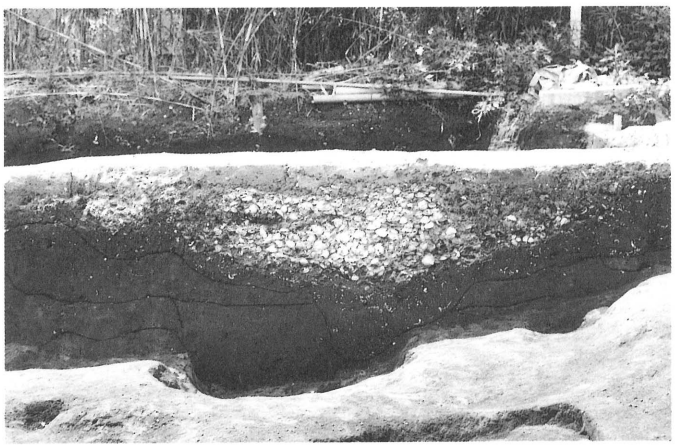
Ⅱブロック貝層　断面(C－C′)

Ⅲブロック貝層　断面(A－A′)

Ⅳブロック貝層　断面(A－A′)

Ⅴブロック貝層　断面(A－A′　B－B′)

Ⅴ・Ⅵ・Ⅸブロック貝層　断面(北から)



Ⅵブロック貝層　断面(A－A′)

Ⅶブロック貝層　断面(A－A′)

貝塚調査作業工程　①　貝層の採取(サンプリング)

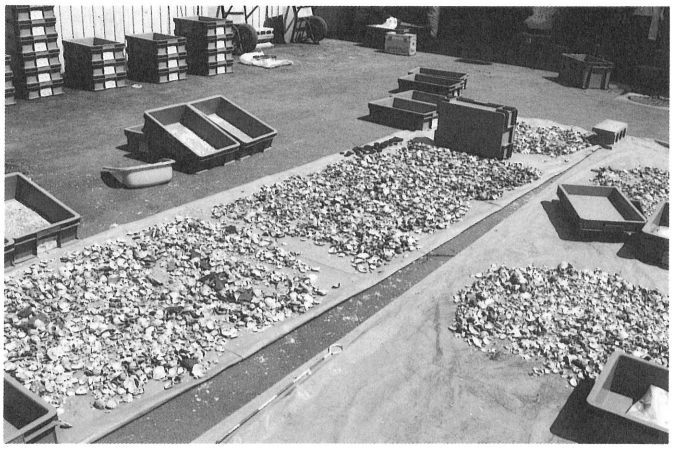
②　4㎜目フルイによる乾フルイ

③　右：4㎜目フルイ上残留物
　　左：4㎜目フルイ通過物

④　③の右を水洗い

⑤　③の左をさらに細かいフルイにかける

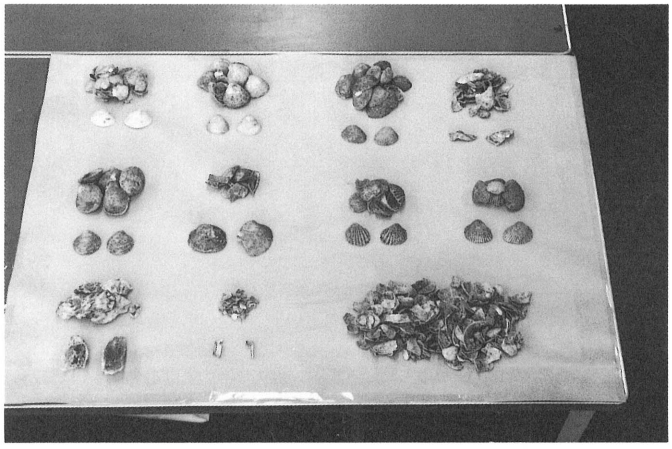
⑥　2段重ねのフルイ(上2・下1㎜)で水洗い



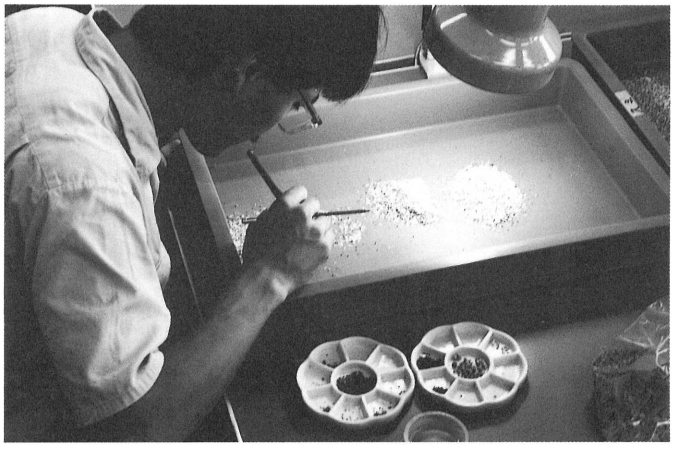
⑦　乾　燥

⑧　フルイ目ごとに収納(左から4・2・1㎜)

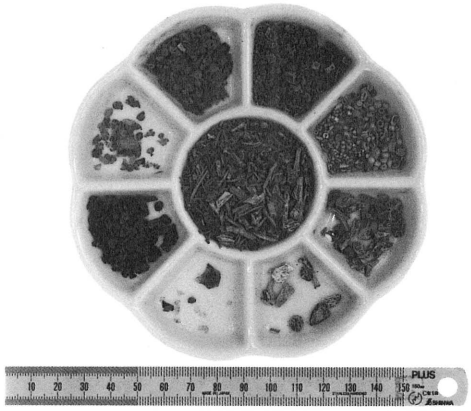
⑨　4㎜フルイ上残留物の分類作業



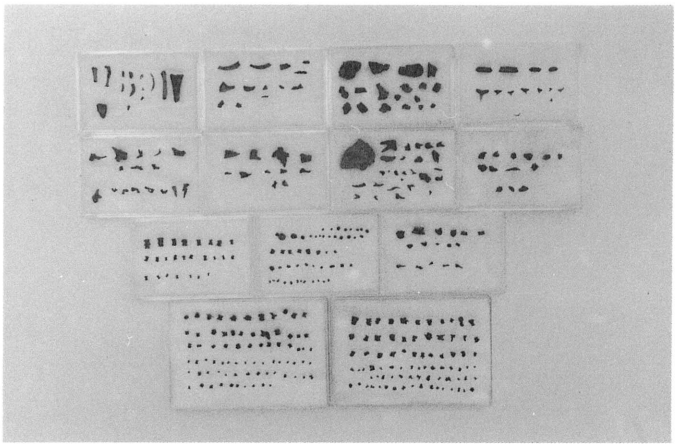
⑩　⑨で種類ごとに分類された貝



⑪　2・1㎜目フルイ上残留物の分類作業



⑫　⑪で分類された獣・魚骨・炭化物・チップ等



⑬　獣・魚骨の分類

遺　構　出　土　遺　物

1 号住居址

2

5

3 b

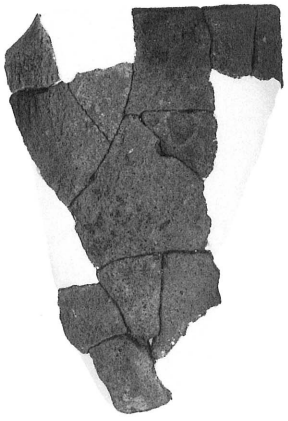
（スケール 1 / 4 ）

2 号住居址

14

16

13



15

（スケール 1 / 4 ）

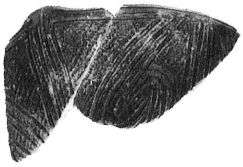
※遺物ナンバーは挿図と一致する

3 号住居址


2


1


12


3

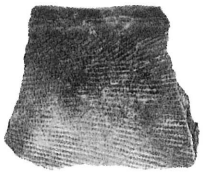

23

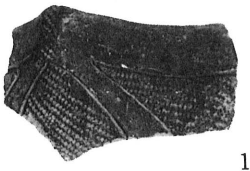

28

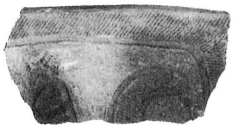
（28はスケール１/３、それ以外は１/４）

4 号住居址


2


3


1

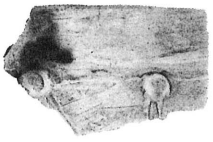

25

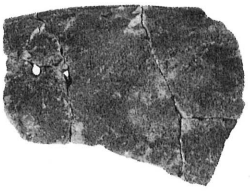

31


32


35

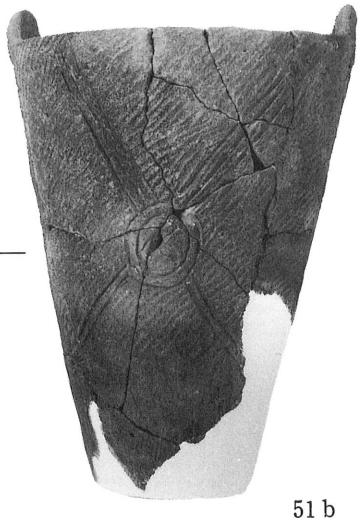

34


52


61


72


51 a


51 b


77


62

（77はスケール１/３、それ以外は１/４）

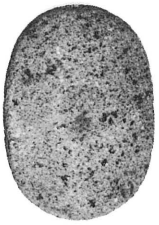
6 号住居址

（1, 54はスケール 1 / 3 、それ以外は 1 / 4 ）

1 号溝

（スケール 1 / 4 ）

2 号溝



（スケール 1 / 4 ）

3 号溝

（スケール 1 / 4 ）

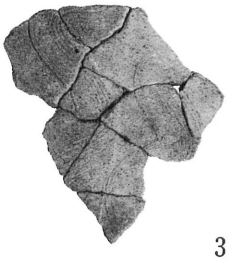
4 号溝

（スケール 1 / 4 ）

4 号土坑

（スケール 1 / 4 ）

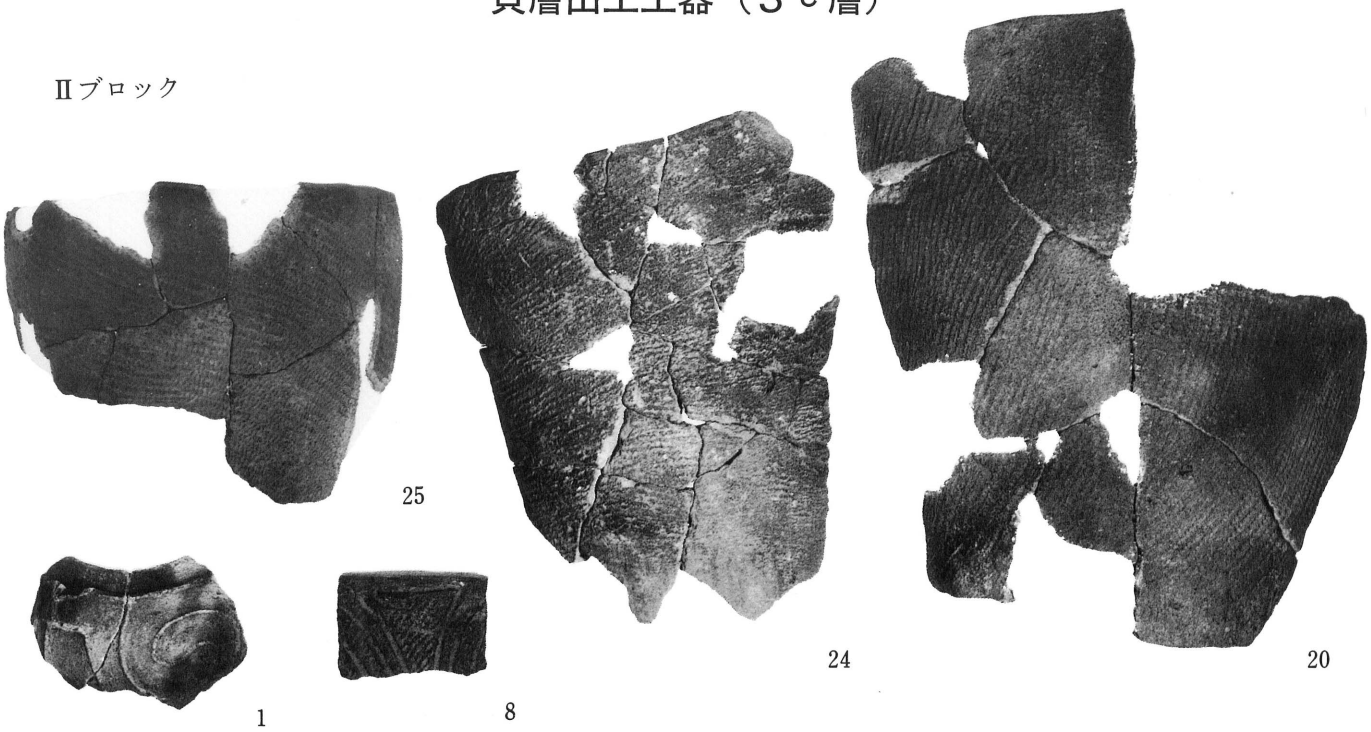
11号土坑



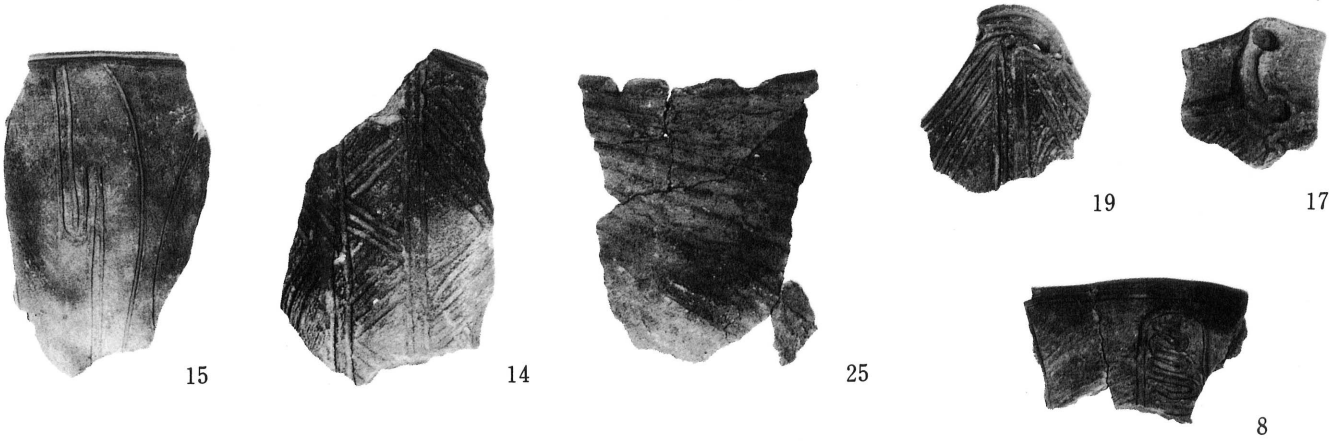
（スケール 1 / 4 ）

貝層出土土器（３ｃ層）

Ⅱブロック



Ⅲブロック



Ⅳブロック

（スケールは全て１/４）

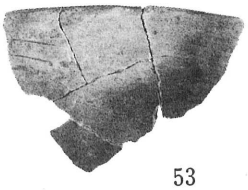
Vブロック


21


24

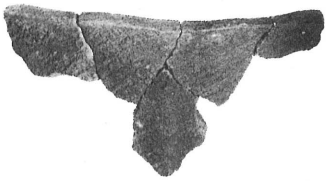

33


51

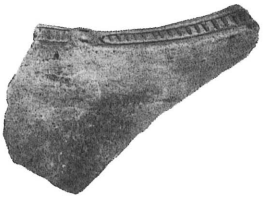

53


42

VIブロック


18

VIIブロック


6

IXブロック


11

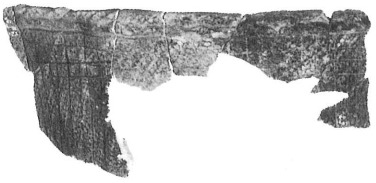

24


25


39


65


63

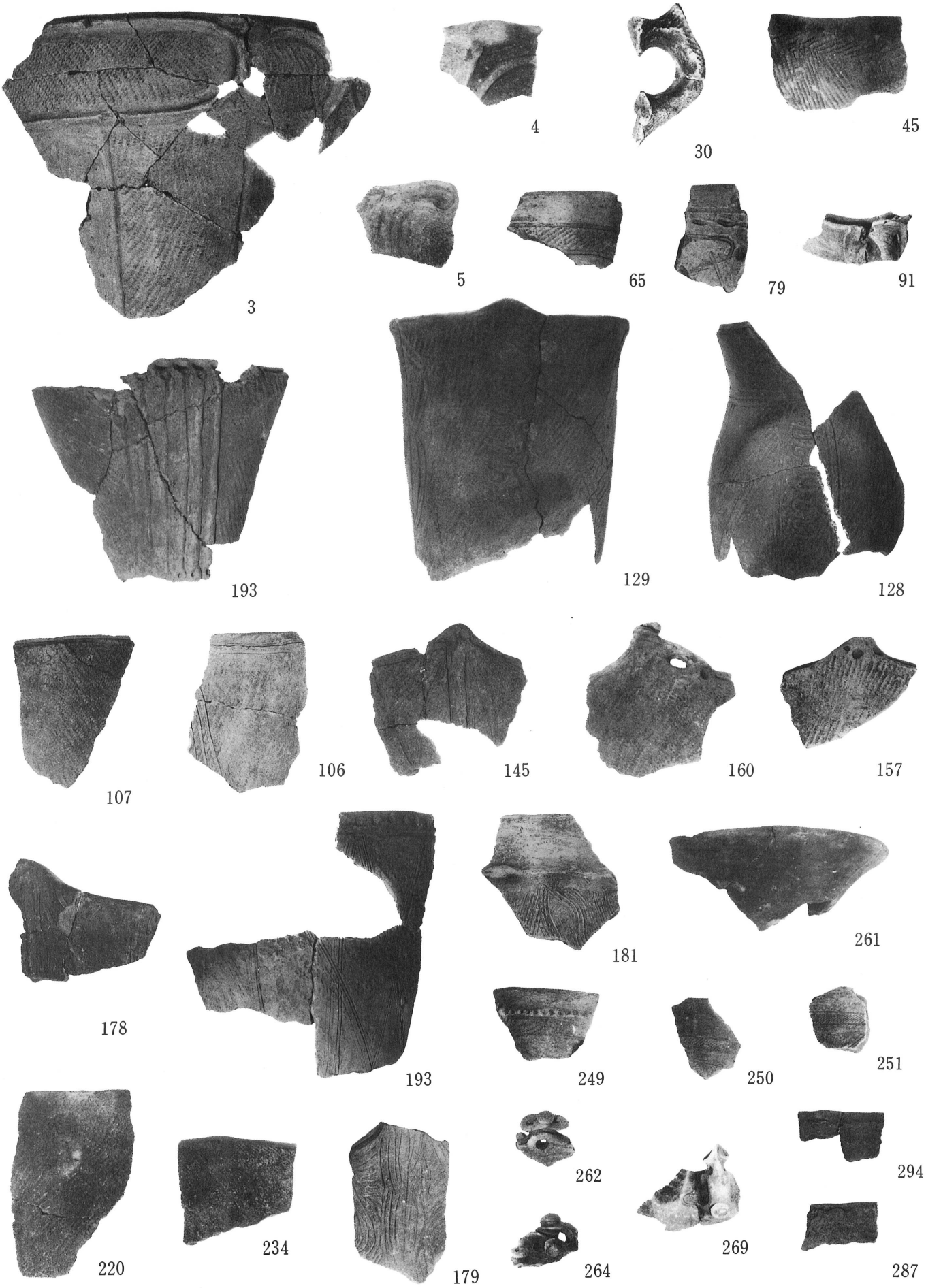

62

Xブロック


1

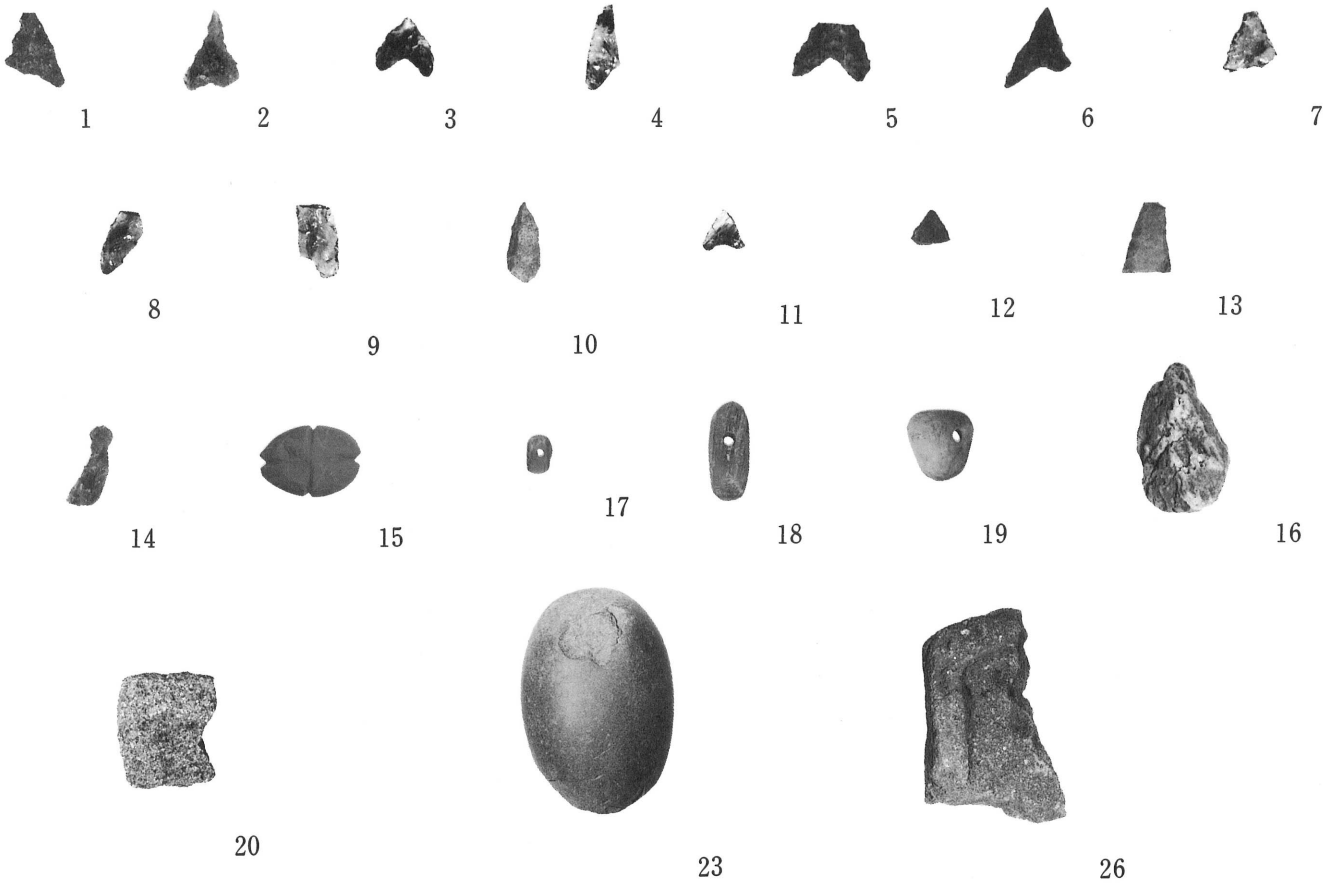
（スケールは全て１/４）

貝層出土土器（３ｂ層）



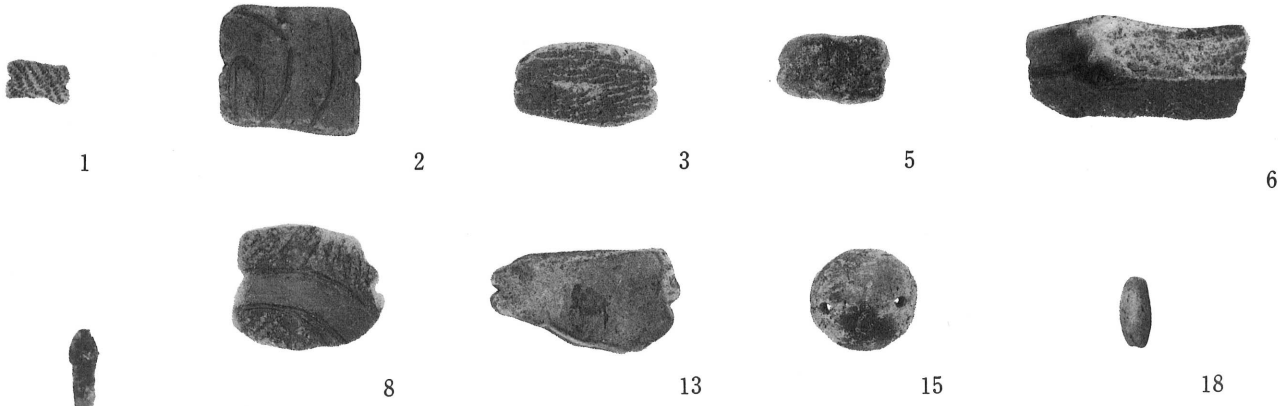
（スケールは全て１／４）

貝層出土石器・石製品



（20・23・26はスケール１／４、それ以外は１／２）

貝層出土土製品

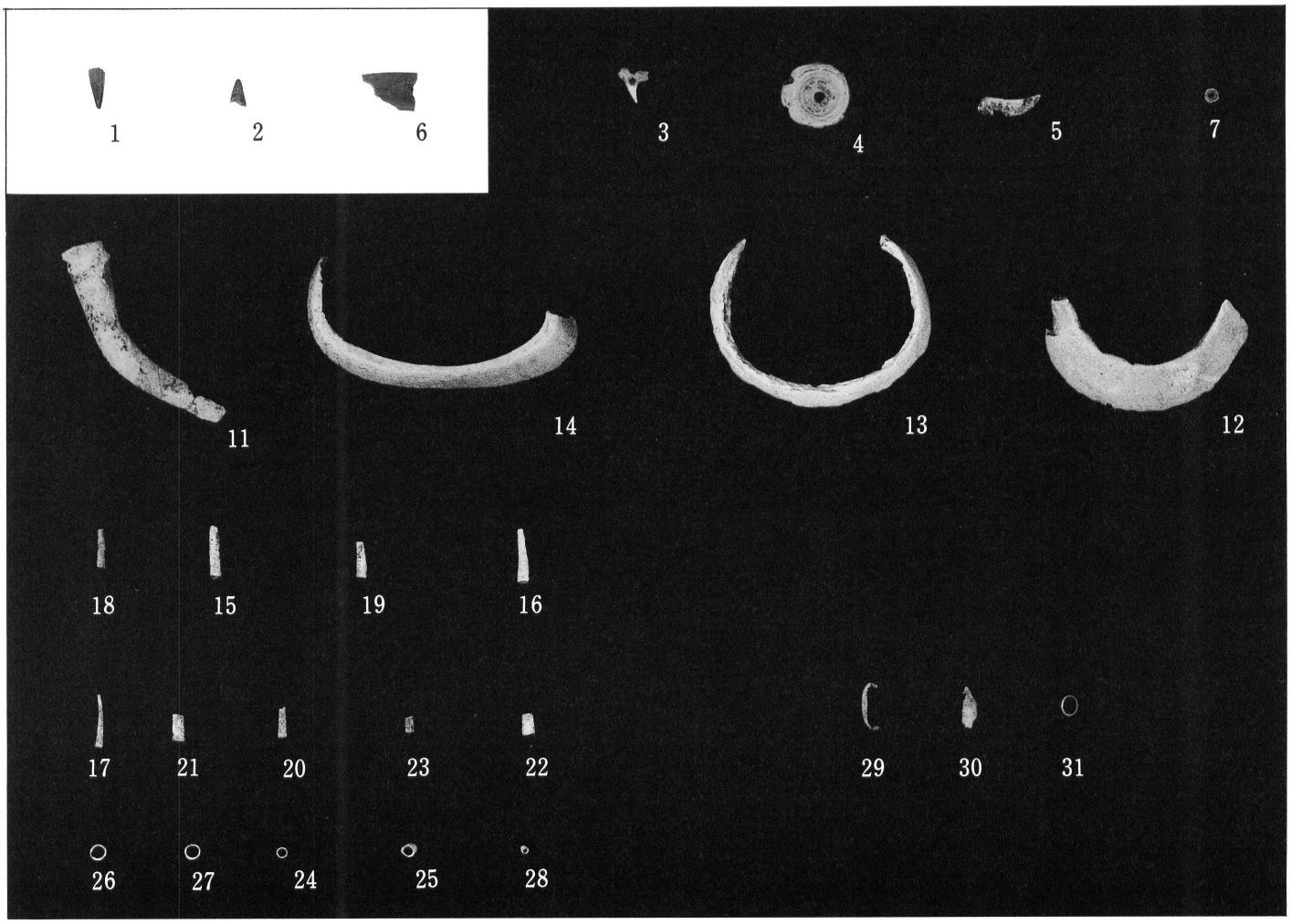


（スケールは全て１／３）

貝層出土金属製品

（スケールは全て１／２）

貝層出土骨・角・貝製品



（スケールは全て１/２）

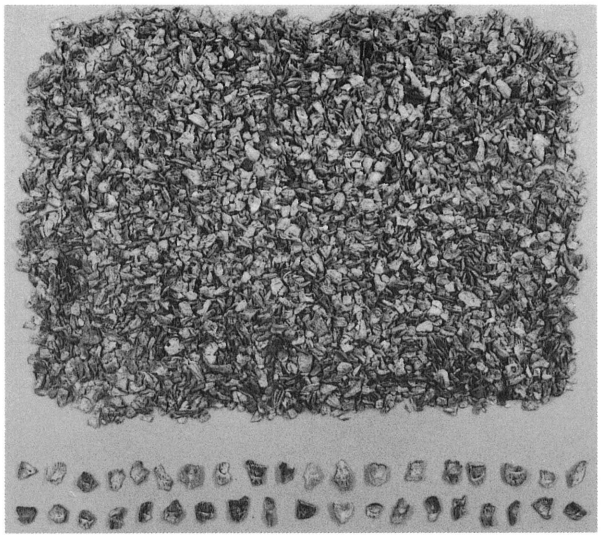
貝層出土の自然遺物

〈節足動物門：甲殻綱〉

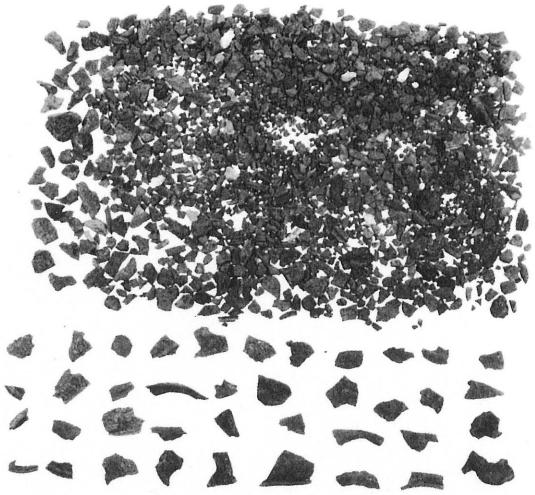
カシパンウニ

カニ

〈植物：堅果類〉



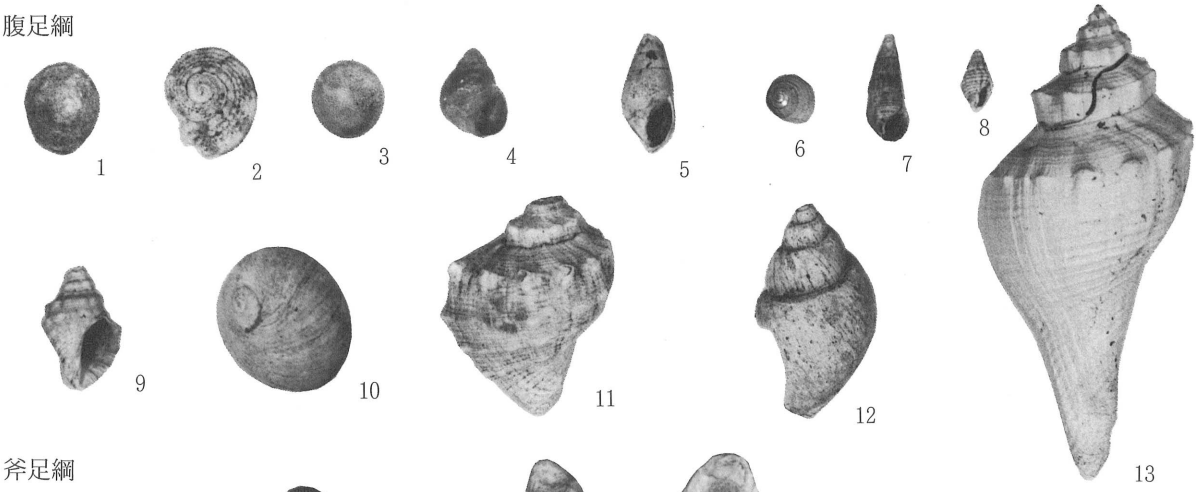
フジツボ　Ⅵブロック　2F-12　ベルト3c-③層検出



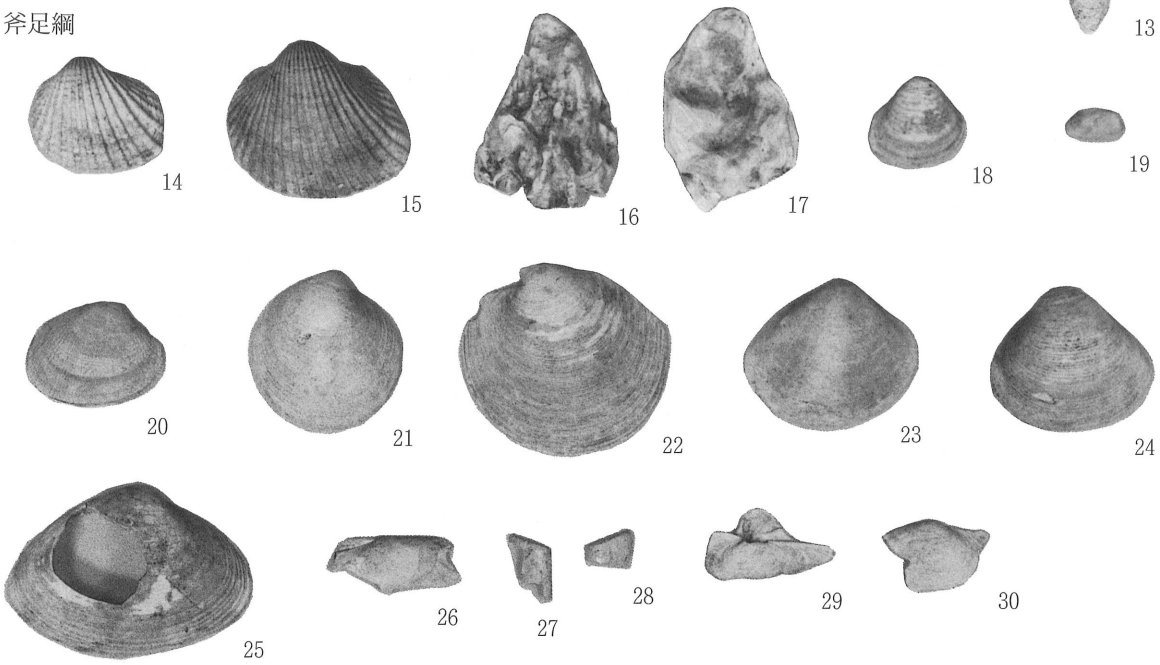
炭化物　Ⅵブロック　2F-12　ベルト3c-②層検出

〈軟体動物門〉

腹足綱



斧足綱



1．ヨメガカサ(幼貝)　2．スガイ　3．スガイ(蓋)　4．カワザンショウガイ　5．カワニナ　6．イボキサゴ　7．ウミニナ
8．アラムシロ　9．イボニシ　10．ツメタガイ　11．アカニシ　12．バイ　13．ナガニシ　14．ハイガイ　15．サルボウガイ
16．マガキ(L)　17.同（R）　18．ヤマトシジミガイ　19．ウネナシトマヤガイ　20．アサリ　21．オキシジミガイ　22．カガミガイ
23．ハマグリ　24．シオフキ　25．バカガイ　26．ムラサキガイ　27．マテガイ(L)　28．同(R)　29．オオノガイ(L)　30．同(R)

縮尺：1～4　×2，以下1／2

微小貝類

縮尺：5＝1／1，13•15＝1／2
それ以外は　×2

1．ミジンヤマタニシ　2．ヒダリマキゴマガイ　3．ゴマガイ　4．スジケシガイ　5．キセルガイ　6．ヒメギセル
7．オカチョウジガイ　8．ホソオカチョウジガイ　9．ヒメコハクガイ　10．ハリマキビガイ　11．キビガイ
12．ヒメベッコウガイ　13．オオウケマイマイ　14．ミスジマイマイ　15.ヒダリマキマイマイ　16．クチキレガイモドキ
17．カゴメイトカゲギリ　18．コメツブガイ

〈脊椎動物門〉

軟骨魚綱

サメ：1・2．歯　3．椎骨　カスザメ：4．椎骨　エイ：5．歯板　6．鱗　7．椎骨　8．尾棘

硬骨魚綱

マイワシ：1．主上顎骨R　2．歯骨R　3．角骨R　4．第1脊椎骨　5．第2脊椎骨　6．腹椎骨　7．尾椎骨　サケ：8．上顎歯
コイ：9．歯骨R　10．鰭棘　11．咽頭骨　ギギ：12．胸鰭　ウナギ：13．歯骨R　14．舌顎骨L　15．腹椎骨　16．尾椎骨

アナゴ：1．歯骨L　サヨリ：2．尾椎骨　ボラ：3．主上顎骨R　4．前上顎骨R　5．歯骨R　6．舌顎骨L　7．主鰓蓋骨L
8．眼下骨R　9・10．尾椎骨

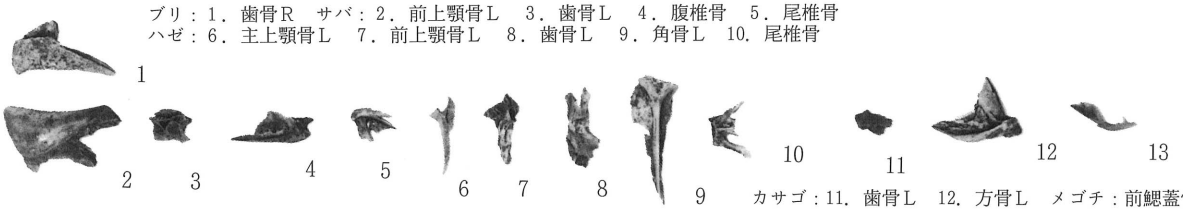
スズキ：1．主上顎骨R　2．前上顎骨R　3．歯骨R　4．角骨R　5．方骨R　6．耳石　7．腹椎骨　8．尾椎骨

キス：1．主上顎骨R　2．前上顎骨R　3．歯骨R　4．方骨L
5．腹椎骨　6．尾椎骨
カタクチイワシ：7．尾椎骨　イシモチ：8．耳石

クロダイ：1．主上顎骨L　2・3．前上顎骨R　4．歯骨R　5．角骨R　6．方骨L
7．口蓋骨L　8．上擬鎖骨L　9．肩甲骨L　10．尾椎骨　11．臀鰭第1棘
12．臀鰭第2棘　13．臀鰭血管間棘
ヘダイ：14．歯　15．歯骨R

マアジ：1．主上顎骨R　2．前上顎骨R　3．歯骨L　4．角骨L　5．方骨L　6．第1脊椎骨　7．腹椎骨　8．尾椎骨
9．綾鱗　10．尾鰭前棘

ブリ：1．歯骨R　サバ：2．前上顎骨L　3．歯骨L　4．腹椎骨　5．尾椎骨
ハゼ：6．主上顎骨L　7．前上顎骨L　8．歯骨L　9．角骨L　10．尾椎骨



カサゴ：11．歯骨L　12．方骨L　メゴチ：前鰓蓋骨L

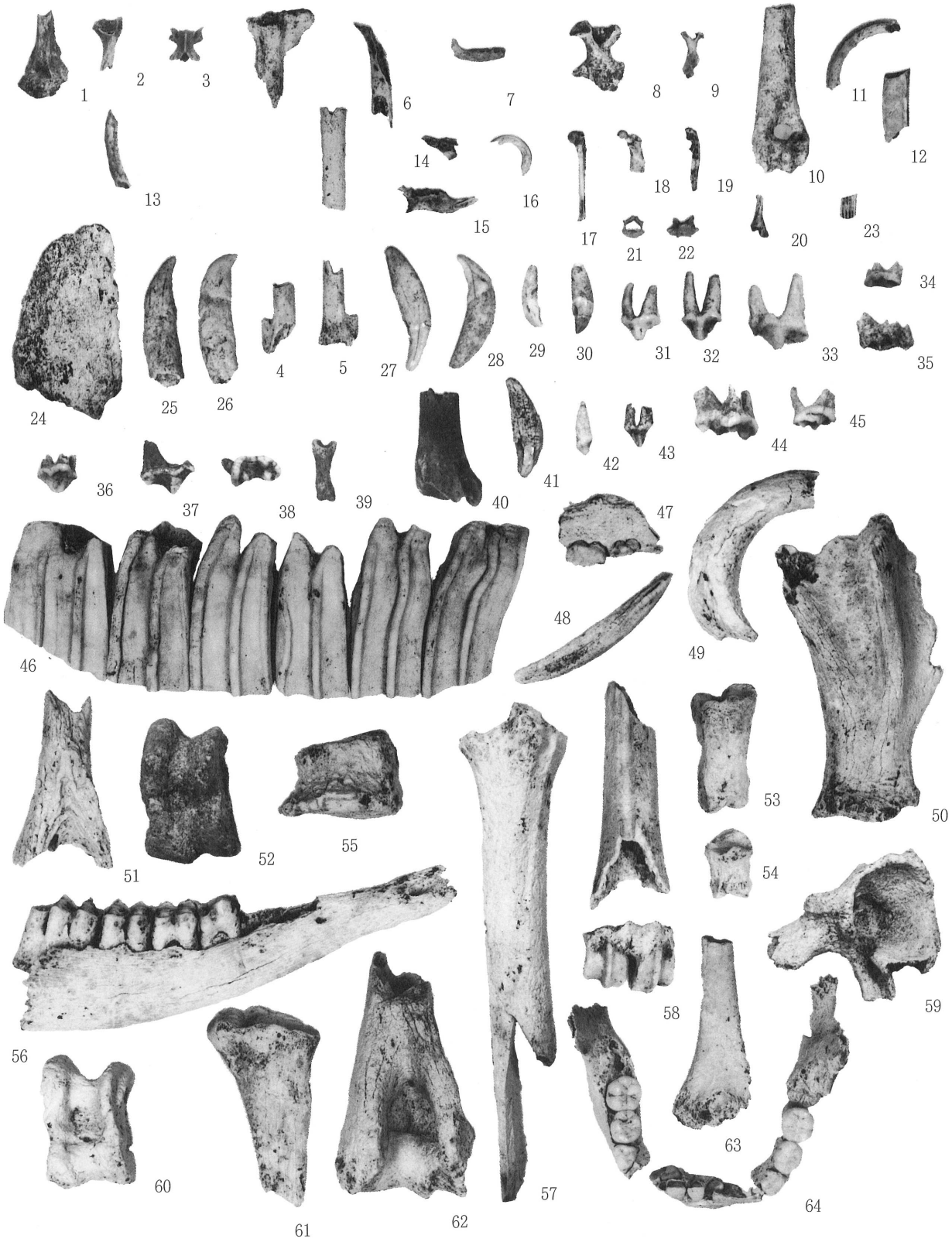
フグ：1．前上顎骨L　2．歯骨L　3．角骨L　4．方骨R　5．口蓋骨L　6．主鰓蓋骨R　7．舌顎骨R　8．角舌骨L
9．擬鎖骨L　10．尾椎骨

コチ：1．基後頭骨　2．主上顎骨R　3．前上顎骨R　4．歯骨R　5．角骨R　6．前鰓蓋骨R　7．舌顎骨R　8．腹椎骨　9．尾椎骨

カレイ：1．主上顎骨R　2．前上顎骨R　3．歯骨R　4．角骨L　5．方骨L　6舌骨　7．鱗　8．尾椎骨　シタビラメ：9．尾椎骨

（縮尺：1／1）

両棲綱・爬虫綱・鳥綱・哺乳綱

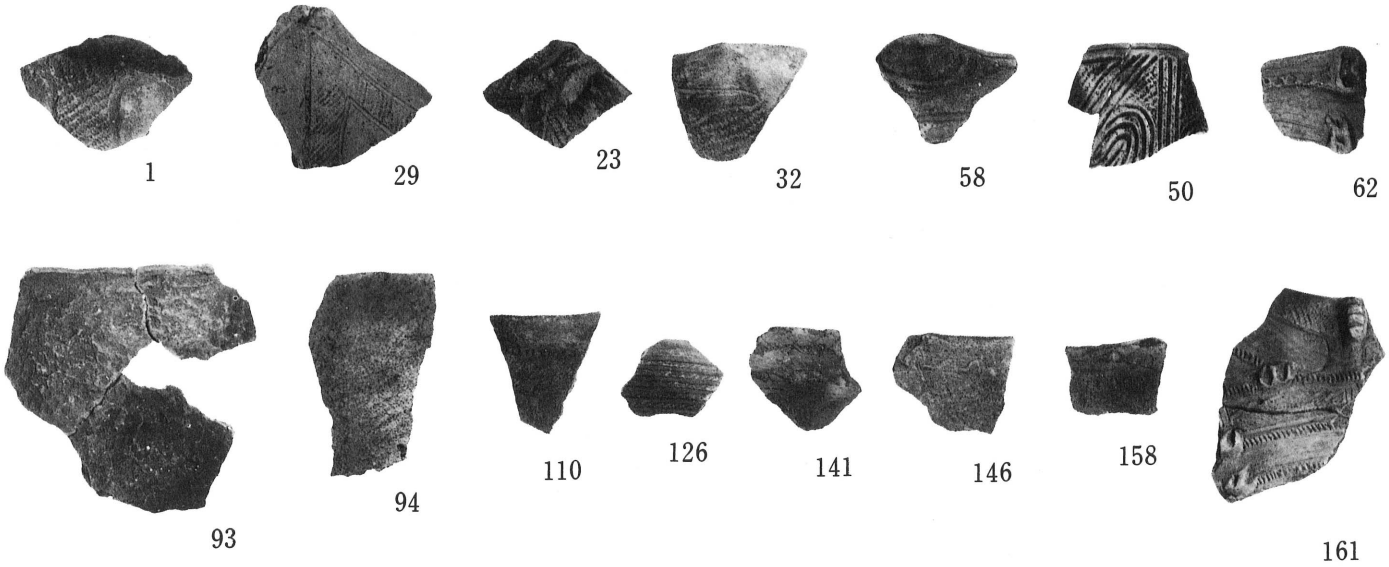


カエル：1．上腕骨L　2．寛骨R　ヘビ：3．椎骨　ヒシクイ：4・5．中手骨　カモ類：6．上腕骨R　モグラ：7．下顎骨R　8．上腕骨R　ヒミズ：9．上腕骨L　ウサギ：10．上腕骨L　11．L・$\underline{I}$　12．$\overline{M}$　ムササビ：13L・I_1　ネズミ：14．上顎骨　15．下顎骨L　16．L・$\underline{I}$　17．上腕骨R　18．大腿骨R　19．尺骨L　20．寛骨R　21．頸椎　22．椎骨　ハタネズミ：M　クジラ：24部位不明　イルカ：25・26．歯　イヌ：27．L・$\underline{C}$　28．L・$\underline{C}$　29．R・i^3　30．R・I^3　31．L・P^2　32．L・P^3　33．L・P^4　34．L・M^1　35．R・M^1　アナグマ：36．$\overline{L}$・P^4　テン：37．R・P^4　38．R・M^1　39．基節骨　タヌキ：40．脛骨L　41．R・$\underline{C}$　42．R・P^1　43．R・P^2　44．R・M^1　45．R・M^2　ウマ：46．L・P^2～M^3　イノシシ：47．♂上顎骨L（$P^{2\cdot3}$）　48．R・I_2　49．♂$\underline{C}$　50．肩甲骨R　51．上腕骨R　52．距骨R　53．基節骨　54．中節骨　シカ：55．角　56．下顎骨R　57．脛骨R　58．中足骨R　59．寛骨L　60．距骨R　61．橈骨R　62．上腕骨R　ヒト：63．上腕骨L　64．下顎骨

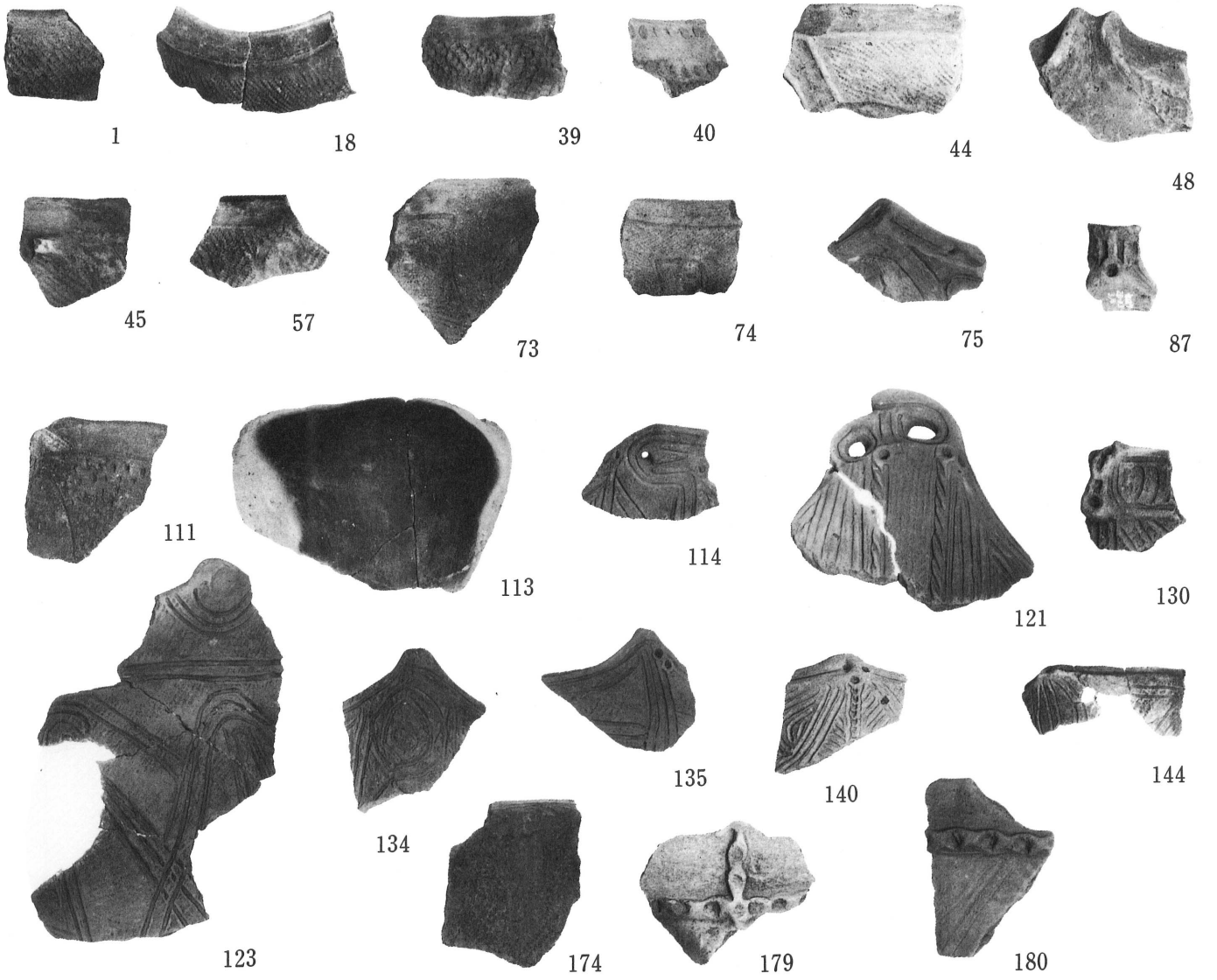
（縮尺：1～3，7～23，25～45　1／1，　4～6，24，46～64　1／2）

包含層出土土器

2　層



3　層



（スケールは全て１／４）

3　層

185

202

192

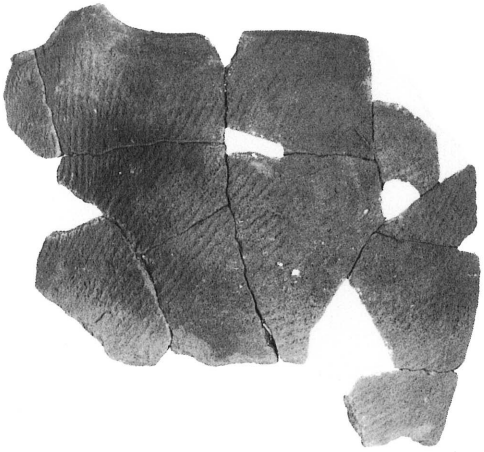
205 a

206

224

232

240



231

241

254

266

267

273

274

281

282

290

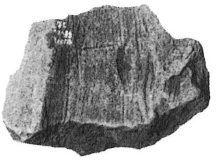
291

292

294

315

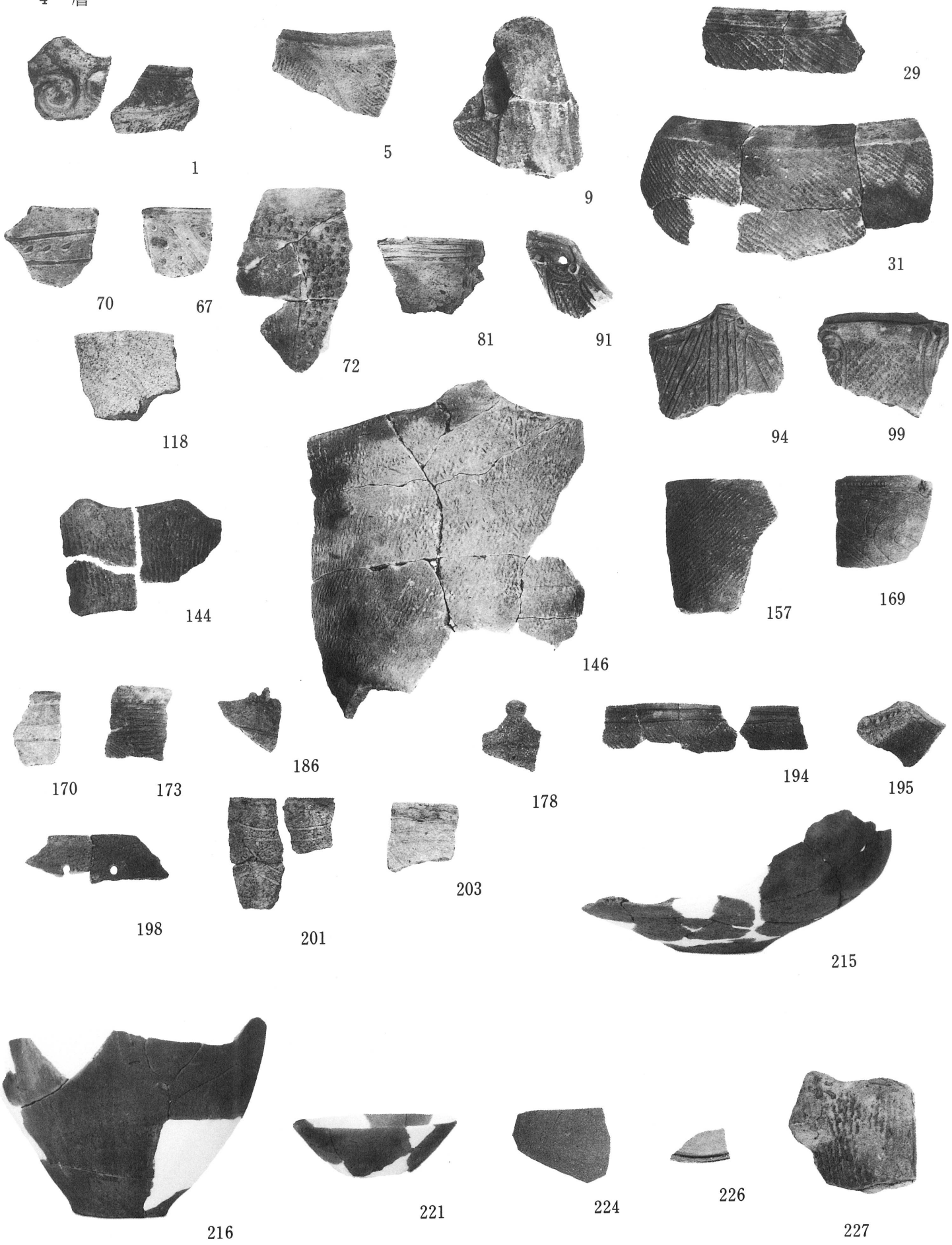
338



343

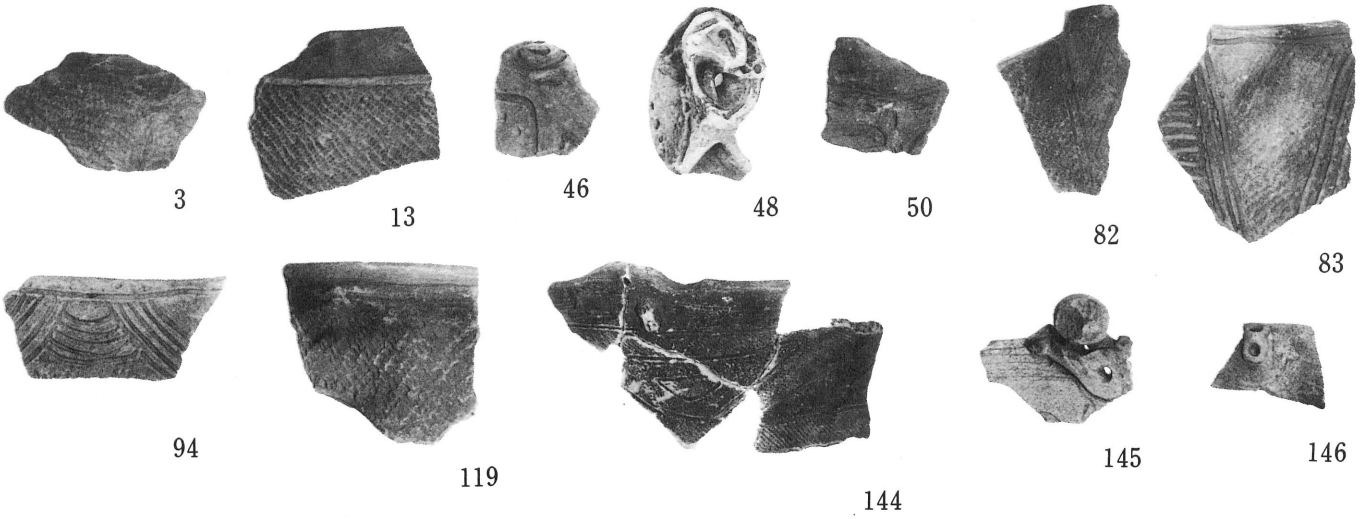
（スケールは全て１／４）

4　層



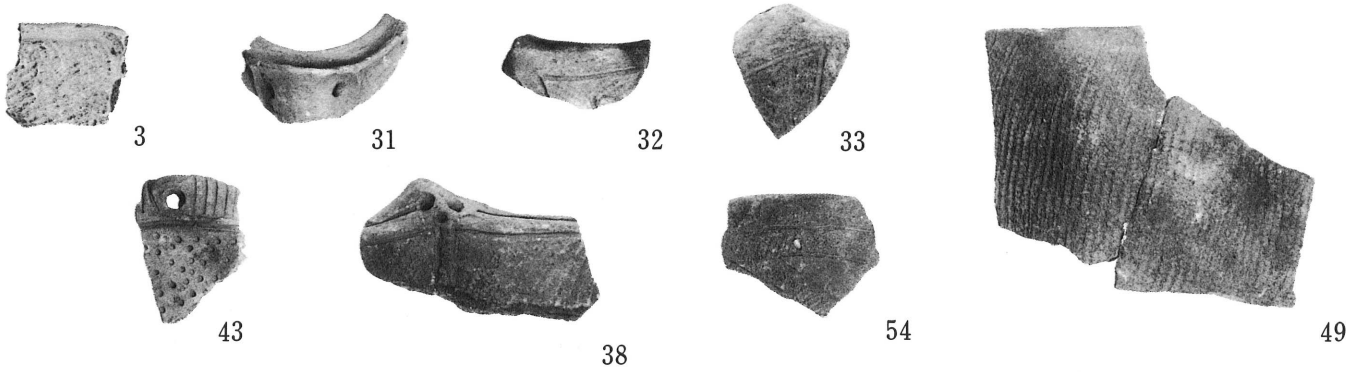
（スケールは全て１／４）

4　層(貝層下)



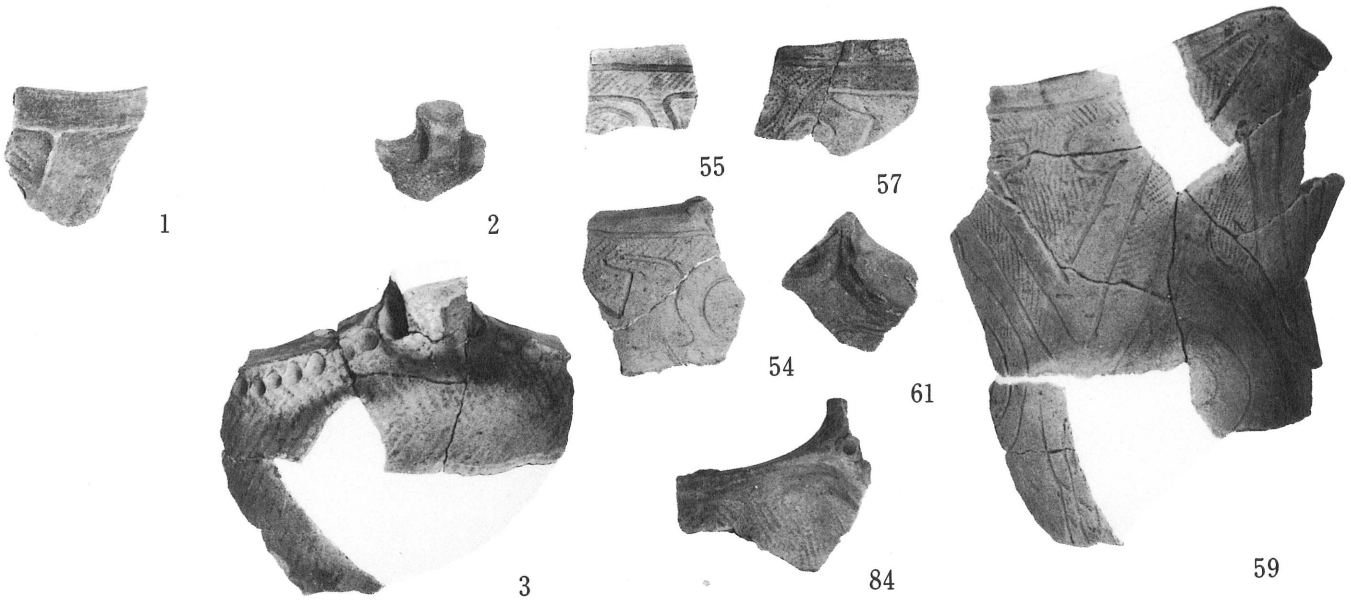
5　層

5　層(貝層下)



4～5層

4～5層(貝層下)



(スケールは全て1/4)

4～5層(貝層下)


88

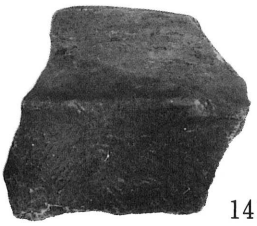

92

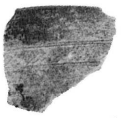

101


107


120


124


141


166


175

7　層


2


6


9

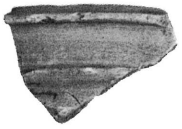
谷部包含層出土土器

3　層


9


10


20


25

4　層


30


31


32


43


60


58

5　層


74

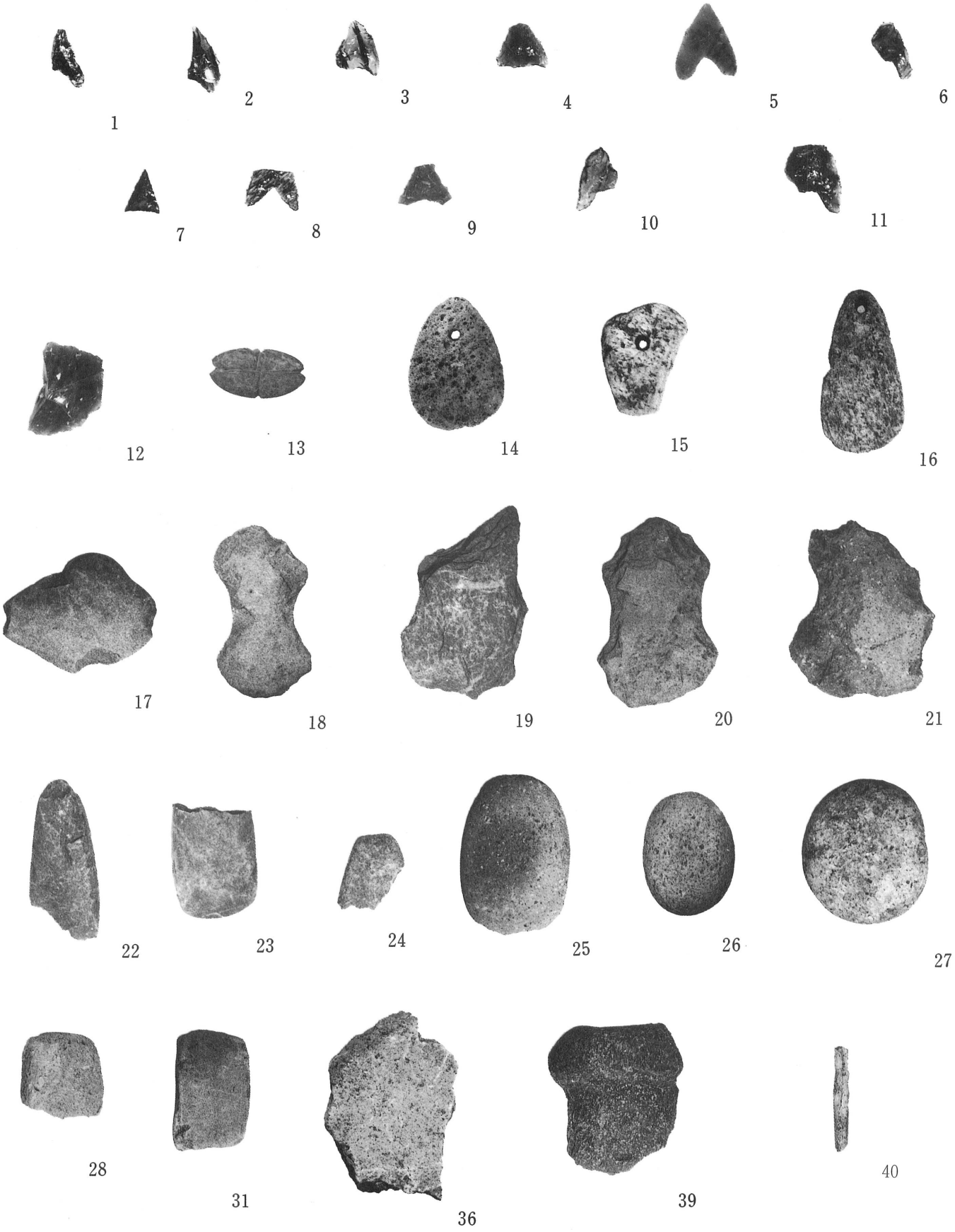

81

6　層


86

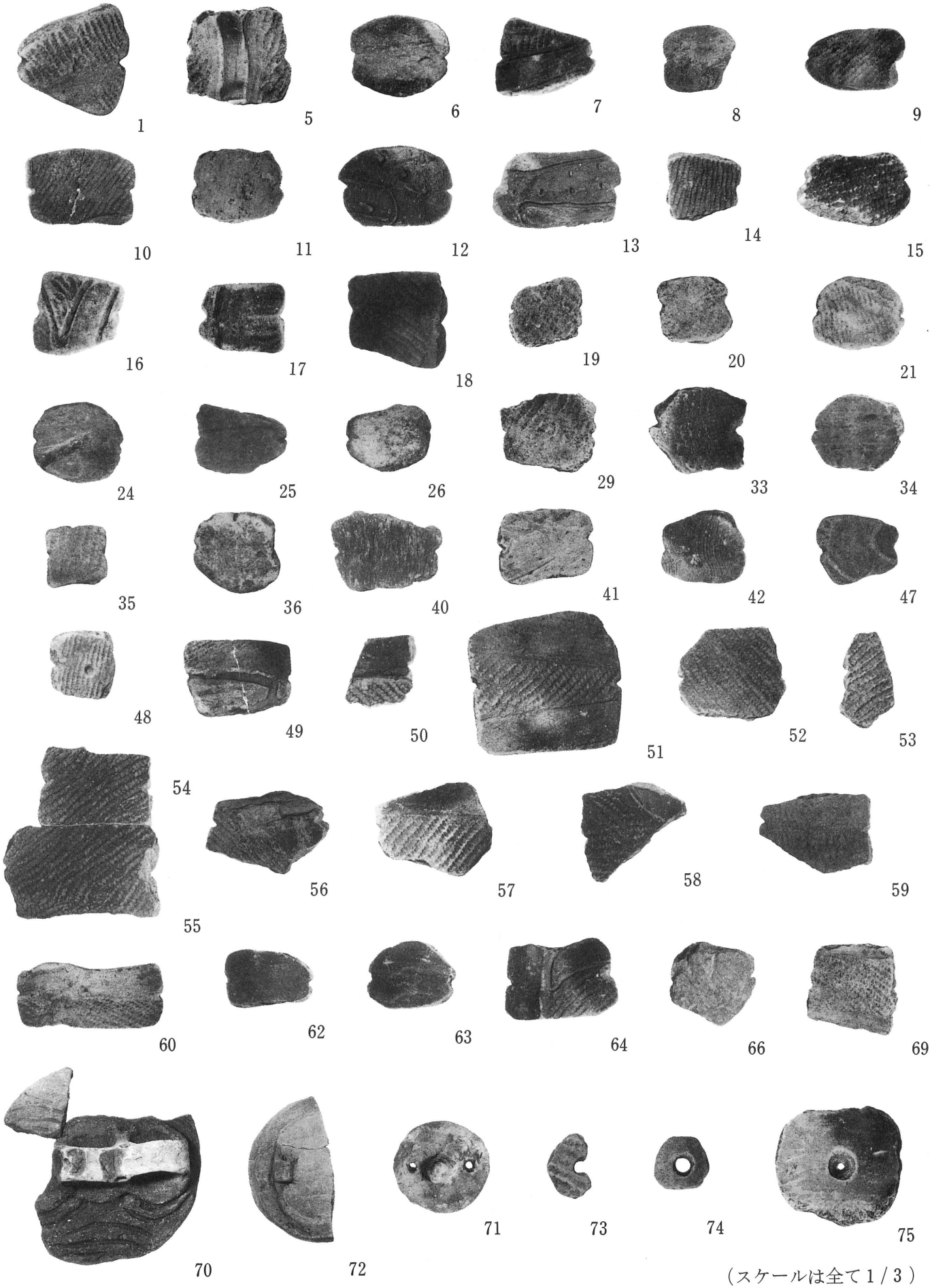
(スケールは全て1/4)

包含層出土石器・石製品



（スケールは１～13・40が１／２、14～24が１／３、25～39が１／４）

包含層出土土製品



（スケールは全て１/３）

財団法人 市原市文化財センター調査報告書 第48集

市原市山田橋亥の海道貝塚

平成4年3月20日　印 刷
平成4年3月26日　発 行

編　集　財団法人　市原市文化財センター
発　行　日　本　石　油　株　式　会　社
財団法人　市原市文化財センター
〒290　千葉県市原市能満1489番地
Tel 0436（41）9000
印　刷　三　陽　工　業　株　式　会　社
〒290　千葉県市原市五井5510－1番地
Tel 0436（22）4348